

市場遺跡発掘調査報告

—三重県鈴鹿郡関町加太字市場所在—

I
前 言

II
位置と
環境

III
層位と
遺構概要

IV
遺 物

V
ま と め

2003. 3

三重県埋蔵文化財センター

序

三重県鈴鹿郡関町は、県の西北部に位置し、鈴鹿山脈の南に加太川が流れる自然豊かな土地です。また、「鈴鹿の関」の所在地であり、古くから東国への玄関口として知られ、江戸時代には宿場町として大変栄えた土地でもあります。近年、関町ではこの江戸時代の宿場の様子を後世まで伝えようと、伝統的建造物群保存地区として、町並みを保存しております。

さて、このように歴史的にも自然にも大変恵まれた関町ではありますが、生活を快適にする開発事業によって、こうした歴史的環境を破壊しなければならない場合も少なからずでてまいります。今回、関町内を走る一般国道25号線の道路改良工事が必要となり、予定地内の範囲確認調査を行った結果、遺跡が存在することが判明いたしました。そこで、遺跡の保護について協議を重ねましたが、一部について現状保存が困難であるとして、発掘調査を行い記録保存を図ることとなりました。

発掘調査の結果、鎌倉時代から江戸時代にかけての遺跡であることが分かりました。室町時代の計画的に配置された家の跡や、江戸時代初めごろに築かれたと考えられる石垣が見つかるなど、関町の歴史に新たな1ページを書き加える成果をあげることができました。

しかし、開発事業に伴う発掘調査であるため、調査後には貴重な文化財は消えてしまうこととなります。それだけに記録保存という形の本書が、今後の歴史研究の一助となるとともに、貴重な文化財保護の啓発にお役に立てれば幸いです。

なお、調査に際しましては、地元の方々をはじめ、三重県県土整備部道路整備課、北勢県民局道路建設課、関町教育委員会などの関係各位の温かいご配慮とご協力をいただきました。最後になりましたが、厚くお礼申し上げます。

平成15年3月31日

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例 言

- 1 本書は、^{みえけんすずかくんせきちやうかふとあざいちば}三重県鈴鹿郡関町加太字市場に所在する、^{いちば}市場遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、下記の体制で行った。
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査第一課 技 師 角正 淳子
技術補助員 濱辺 一機
資料普及グループ 研 修 員 萩 良樹
- 3 調査にあたっては、三重県県土整備部道路整備課、北勢県民局鈴鹿建設部、関町教育委員会、および地元の方々のご協力をえた。
- 4 本書は角正淳子、濱辺一機が執筆し、角正淳子が編集した。なお、その文責は目次および文末に示した。また、遺構の写真撮影は角正淳子・濱辺一機・萩良樹が、遺物の写真撮影は角正淳子が行った。
- 5 本書が対象とした調査面積は、上層・下層合わせて1,300㎡である。
- 6 本書が対象とした現場調査期間は、平成12年6月12日から平成12年9月26日である。
- 7 本書で示す方位は、国土調査法第VI座標系を基準とし、座標北を用いた。国土座標第VI系の座標北は真北に対し0° 12′ 東偏し、磁北は、真北に対し7° 00′ 西偏する。(平成14年現在)
- 8 本書で使用する遺構表示略記号は、下記の通りである。
S A : 石垣・石列 S B : 掘立柱建物 S D : 溝 S K : 土坑 S Z : 不明遺構
P : 小穴、柱穴
- 9 本書で表記する色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』(1994年)に準拠した。
- 10 本書が扱う発掘調査の原因事業は平成12年度一般国道25号県単道路改良事業である。
- 11 発掘調査にかかる経費は三重県が負担した。
- 12 本書で報告した記録及び出土遺物は、全て当三重県埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I 前 言	（角正淳子）	1
II 位置と環境	（角正淳子）	3
III 層位と遺構	（角正淳子・濱辺一機）	5
IV 遺 物	（角正淳子）	29
V ま と め	（角正淳子・濱辺一機）	58

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡位置図	3	第22図 SK21出土状況図	24
第2図 遺跡周辺地形図	4	第23図 SD11平面図及び土層断面図	24
第3図 調査区位置図	5	第24図 SD31平面図及び土層断面図	25
第4図 調査区南壁土層断面図	6	第25図 SA10・19平面図及び立面図	27
第5図 調査区南壁土層断面図	7	第26図 出土遺物実測図（1）	29
第6図 第1面遺構平面図	8	第27図 出土遺物実測図（2）	30
第7図 第2面遺構平面図	9	第28図 出土遺物実測図（3）	31
第8図 SK34・37・38平面図及び土層断面図	11	第29図 出土遺物実測図（4）	33
第9図 SD30平面図及び土層断面図	12	第30図 出土遺物実測図（5）	34
第10図 SB39平面図及び断面図	13	第31図 出土遺物実測図（6）	35
第11図 SB40・41平面図及び断面図	14	第32図 出土遺物実測図（7）	36
第12図 SB42・44平面図及び断面図	15	第33図 出土遺物実測図（8）	37
第13図 SB43平面図及び断面図	16	第34図 出土遺物実測図（9）	38
第14図 SK3出土状況図	17	第35図 出土遺物実測図（10）	39
第15図 SK4出土状況図	18	第36図 出土遺物実測図（11）	40
第16図 SK8出土状況図	19	第37図 出土遺物実測図（12）	41
第17図 SK8出土状況図	20	第38図 出土遺物実測図（13）	42
第18図 SK9平面図及び土層断面図	21	第39図 『五街道其外分間絵図』	58
第19図 SK14・22出土状況図及び土層断面図	22	第40図 土師器皿分類図	59
第20図 SZ33・SA35平面図及び立面図	23	第41図 土師器器種組成図	60
第21図 SK18出土状況図	24	第42図 遺構別土師器皿分類組成図	60

表 目 次

第1表 掘立柱建物一覧表	13	第3表 出土遺物観察表	45～57
第2表 遺構一覧表	26	第4表 土師器皿遺構別計測表	60

図 版 目 次

図版1 調査前風景／第1面全景	図版6 SA10・19	図版10 出土遺物
図版2 第2面全景	図版7 SA19/SZ33・SA35/SK21/ 柱穴/柱穴	図版11 出土遺物
図版3 SK3/SK8	図版8 出土遺物	図版12 出土遺物
図版4 SK14・22/SK32	図版9 出土遺物	図版13 出土遺物
図版5 SD30/SD31		図版14 出土遺物

I 前 言

1 調査の契機

市場遺跡は鈴鹿郡関町加太字市場に所在する周知の遺跡（町7）である。平成10年度に三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センターは、三重県県土整備部道路整備課（当時）から一般国道25号県単道路改良事業にかかる埋蔵文化財の照会を受け、事業予定地内に遺跡が存在する可能性があるとは回答した。平成11年度に当該事業予定地において範囲確認調査

を行ったところ、約800㎡について遺跡の広がりを確認した。そこで、県土整備部道路整備課（当時）と教育委員会・埋蔵文化財センターで、遺跡の保護に努めるよう協議を重ねたが、現状保存が困難であるとして、発掘調査を実施し記録保存を図ることになった。

2 調査の経過

発掘調査にあたっては、土工部門を（財）三重県農業開発公社（当時）に委託し、平成12年6月12日より開始した。調査に先立ち、4月10日・12日に調査区内に残る耕作土を除去した。発掘調査はまず、重機で表土を掘削し、その後人力掘削を行った。調査途中で遺構面が2面存在することが判明し、1面目の調査終了後、再度重機で掘削を行い、2面目の調査を行った。調査の結果、2面目では柱穴とおぼしき小穴が密集するとともに、20m近くに及ぶ石垣が発見されるなど、加太地区の歴史に新たなページが書き加えられた。

調査は当初、800㎡について行う予定であったが、調査途中で判明した下層の調査のため、一部調査区を延長し、最終の調査面積は上層300㎡、下層1,000㎡、合計1,300㎡となった。

調査の進行上、現地説明会等は開催できなかったが、関町教育委員会等のご厚意により、11月19日に開催された「第16回加太文化農芸祭」で調査成果の一端を紹介させていただいた。

調査はちょうど梅雨・台風シーズンに行ったため、風雨による被害があった一方、晴天続きで土が容易に掘削できないなど、苦労の連続であった。予定外に調査が長引き、近隣の住民の皆様には多大なご迷惑をかけた。それでも無事に3ヶ月以上に及ぶ調査を終了できたのは、ひとえに近隣の方々のご協力と、作業に従事していただいた方々のおかげである。ここに作業に従事していただいた方々のお名前を記し、

感謝の意に変えさせていただく。（五十音順、敬称略）

落合しげ子、落合弘正、北川繁、北嶋守一、
倉田角一、坂和憲、坂保、坂久訓、杉野晴一、
寺田忠市、豊田明、西川光雄、水谷一明、
宮本明芳、森下ふみ、山崎勝治

<調査日記抄>

平成12年4月10・12日 耕作土除去。

- 6月12日 重機による掘削開始。
- 6月19日 人力による掘削開始。
- 6月22日 下層があることが判明。
- 6月23日 再度重機による掘削を開始。
- 6月26日 調査区北側の隣接地で関町教育委員会による範囲確認調査が行われる。北側にも遺跡が広がっていることを確認。
- 6月27日 梅雨のため、調査が進まない。
- 7月6日 1面目の写真及び平板実測。引き続き下層調査を開始。
- 7月10日 2面目で小穴が密集して見つかる。
- 7月13日 S K 3 から土師器皿が集中して出土。
- 7月21日 S K 3 実測終了。
- 8月1日 S K 8 から土師器皿が集中して出土。
- 8月9日 S K 8 実測・取り上げ終了。

8月10日 石垣S A 10・19の検出が終了。
8月18日 調査区全景の写真撮影。
8月22日 調査区平面図作成。及び石垣平面・立面図作成。
8月25日 柱穴の掘形を掘削。数が多くなかなかこなせない。また、石垣の直下から溝を発見。
8月31日 台風による雨で調査区北側の田地の畔が決壊。急遽補修を行う。

9月5日 調査区内の溝の掘削を重機で行う。
9月18日 S Z 33・S A 35など終了目前で遺構を集中して検出。
9月21日 S Z 33・S A 35実測。
9月26日 調査終了。
11月19日 第16回加太文化農芸祭にて展示・スライド説明会開催。

3 文化財保護法等に係る諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等に係る諸通知は以下により、行っている。

(1) 土木工事のための発掘に関する届け出

法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（三重県教育委員会教育長あて）

平成12年5月10日付 道整第75号

(2) 発掘通知

法第58条の2第1項（三重県教育委員会教育長あて）
平成12年6月23日付 教埋第101号

(3) 発見・認定通知

遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（亀山警察署長あて）

平成13年1月23日付 教生第229-13号

4 調査の方法

(1) 地区設定について

地区 調査区内を4m四方の柵目に区切り、調査を行った。東西方向に数字を、南北方向にアルファベットをつけ、南西隅をその地区の名称とした。この地区設定は国土座標軸とは一致していない。

(2) 遺構の表示方法について

遺構 それぞれ見た目の性格から、略記号を付し、通し番号で表示した。

小穴 各地区毎に、遺物を含んでいたものに対しPを頭文字として通し番号をつけた。

(3) 図面について

遺構カード 遺構の検出状況を記録するため、各地区毎に1/40の縮尺で手書きで作成した。

調査区平面図 手書き（縮尺1/20）で作成したほか、一部平板実測（縮尺1/50）で作成した。

遺構出土状況図 任意の基準点を設定し適宜手書き（縮尺1/10）で作成した。これらの基準点には国土座標を与えた。なお、石垣については、平面・立面図を作成している。

土層断面図 手書き（縮尺1/20）で作成した。色調は小山・竹原編『新版 標準土色帖』（1994版）

を使用した。

なお、これらの図面には全て通し番号を与えた。

(4) 遺物について

遺物の一次整理 洗浄・接合後、遺跡名・出土地点・出土年月日の注記を行った後、出土地点毎に分類した。

遺物の二次整理 実測に耐えうるものを選別し、手書き（縮尺は原寸）で作成した。遺物の色調は、小山・竹原編『新版 標準土色帖』（1994版）を使用した。適宜拓本を作成したものもある。実測した遺物には遺物と図面の両方に「R」を付した登録番号を与え、さらに報告書記載遺物には報告書番号と同じ番号を記載した。

(5) 写真について

遺構 モノクロネガフィルムとカラーリバーサルフィルムを使用し、35mm及びブローニー（6×7）判で撮影した。

遺物 適宜撮影可能なものを選択し、遺構と同様モノクロネガフィルムを使用し、ブローニー（6×7・6×9）、4×5判で撮影した。（角正淳子）

II 位置と環境

1 地理的環境

市場遺跡（1）が所在する関町は、三重県の北西部に位置し、北は鈴鹿山脈を境に滋賀県に接する。鈴鹿川の上流部の山岳地帯である。関町の町名は、律令制下の三関のひとつ『鈴鹿関』が町内に設置されたことに由来している。近世に入ると東海道が整備され、宿場町として栄えた場所である。市場遺跡はこの近世の宿場町から伊賀方面に約5kmいった、

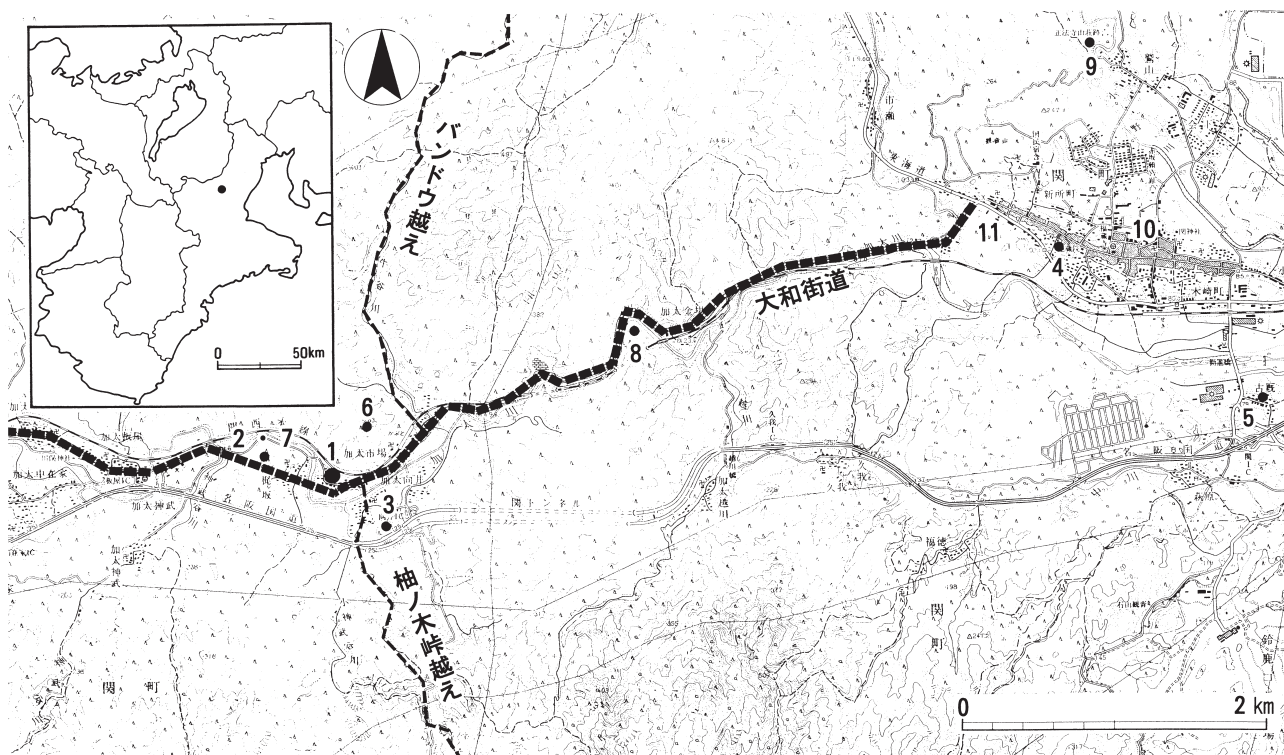
加太地区に所在する。

加太地区には、鈴鹿川に合流する加太川が中央を流れている。鈴鹿山脈に連なる山地をこの加太川が開析し、わずかな平地に集落が形成されている。交通網は、加太川に沿って伊賀・奈良方面へと抜ける大和街道が通っていた。現在でもほぼ同じルートを国道25号が走っており、人々の道線となっている。

2 歴史的環境

旧石器・縄文・弥生・古墳時代 旧石器・縄文時代の遺跡や遺物は確認されていない。弥生時代には、梶ヶ坂遺跡（2）、向井遺跡（3）で土器が採集されている程度である。古墳時代にはいっても、明確な資料は無い。古墳分布の中心が鈴鹿川中流域にあることから考えても、上流域にあたる当地域は、文化の中心からは離れた地域であったと考えられる。
古代 古代に入ると一転して関の地は行政・交通の要衝となる。律令制下の三関のひとつ「鈴鹿関」、

東海道の駅「鈴鹿駅」が置かれたとされる。これらはそれぞれ同町木崎地区（4）、同町古厩の古厩遺跡（5）がもっとも有力な比定地としてあげられている。加太地区に関してしてみると、壬申の乱の際、大海人皇子が通ったとされる「大山越え」は加太越えであると考えられており、平安時代に鈴鹿峠が整備されるまでは、都への重要な幹線が通っていたようである。この他にも、市場遺跡周辺より中津を経て東海道に通じる「バンドウ越え」、向井より柚ノ



第1図 周辺遺跡位置図 (S = 1 : 50,000) [この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図(鈴鹿峠、平松、亀山、椋本)を掲載したものである。]

木峠を経て安濃へと抜ける「柚ノ木峠越え」などが間道として利用されていたようである。

中世 この時代、関には国人領主として関一族が登場する。関氏は伊勢平氏の流れをくむ一族で、鈴鹿郡一帯を治めていた。一族には、関氏・神戸氏・峯氏・国府氏・鹿伏兎氏の5氏があり、このうち鹿伏兎氏が加太の地を治めたとされている。鹿伏兎氏の祖、盛宗が正平年間（1346～1370）に居城として牛谷城（後、改修し鹿伏兎城）を築き、子の定俊が明徳5（1394）年には麓に菩提所として新福寺（現、神福寺）を建立したとされている。鹿伏兎城（6）は市場遺跡のすぐ北に位置し、昭和56年に県指定史跡となったが、現在は標高264mの山頂に石垣・土塁・井戸を残すのみである。周辺には支城として梶ヶ坂城（7）、平之沢城（8）等があったとされている。鹿伏兎氏は天正2（1574）年に滝川一益、同11年織田信雄に攻められ、滅亡したと伝えられる。この時代の遺跡としてはほかに、関氏の館跡といわれる正法寺山荘跡（9）がある。遺跡は昭和52年か

ら発掘調査が行われ、建物跡などが確認された。これを受け、昭和56年に国指定史跡となり、同年～61年、発掘調査・環境整備が行われている。

近世 街道が幕府によって整備され東海道の宿がおかれた関宿（10）・坂下宿はともに五十三次の宿場町とした栄えた。伊勢別街道への分岐点、東の追分、大和街道への分岐点、西の追分（11）は県指定史跡となっている。加太地区には、大和街道の宿が置かれた。本陣は字板屋、高札・問屋場は字市場と離れた場所にあったという。この高札・問屋場は調査区東の隣接地にあったとされている。（角正淳子）

参考文献

『三重県の地名』（平凡社、1983年）

岡田集平ほか『大和街道・伊勢別街道・伊賀街道 歴史の道調査報告書』（三重県教育委員会、1983年）

『関町史 上巻』（関町教育委員会、1977年）

宮村学ほか『亀山地域の地質』（地質研究所、1981年）

『正法寺山荘跡発掘調査報告』（関町教育委員会、1977～87年）



第2図 遺跡周辺地形図（S = 1 : 5,000）

Ⅲ 層位と遺構

1 層位

調査区は西から東に向かって傾斜しており、西端と東端では約1mの比高差がある。第1面の標高は約156m、第2面の標高は西端で約156m、東端で約155mである。調査区の西半分には、製材所が建てられており、遺跡の一部が破壊されていた。したがって、第1面に相当する遺構面は確認できなかった。

基本的な層序は、上層より①攪乱土、②灰褐色～橙色の砂質～粘質土（表土及び耕作土）、③灰褐色のシルト土（中世後半～近世遺物包含層）、④黒褐色シルト土（中世前半遺物包含層）である。第1面は②の直下、第2面は③の直下で検出した。

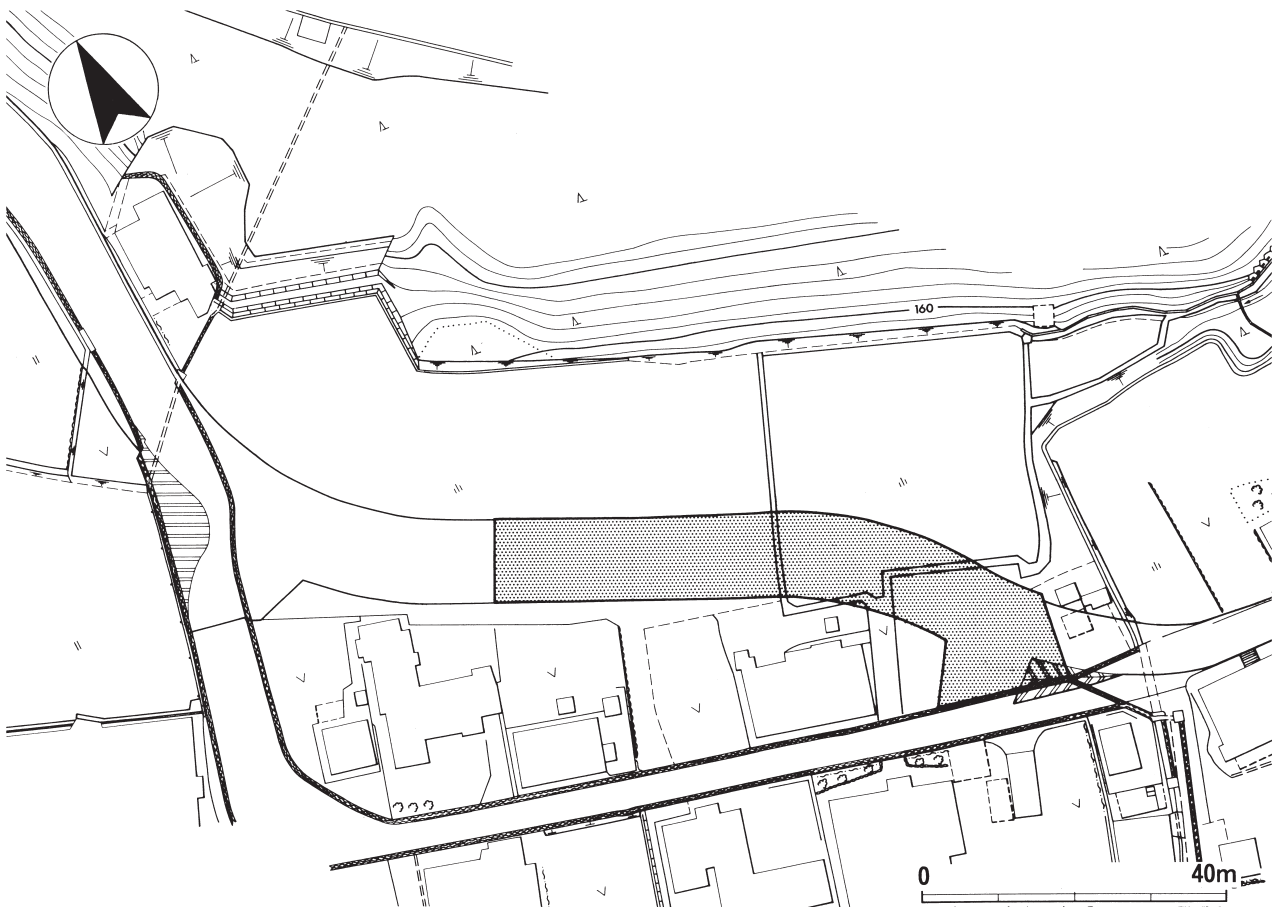
2 遺構

発見できた遺構は主に中世前期から近世にかけてのものである。掘立柱建物6棟、土坑33基、溝3条、石垣、石列がある。以下、主なものについて時代順に概略を述べる。 (角正淳子)

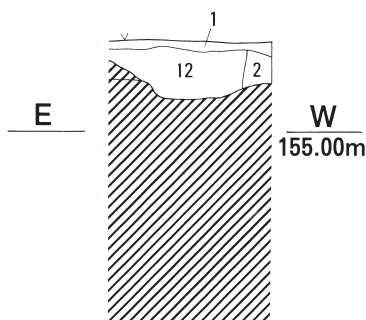
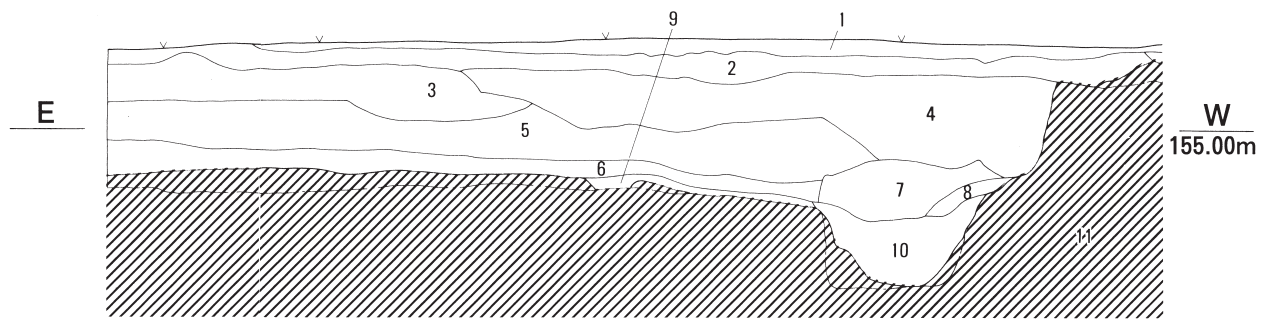
(1) 中世前期

土坑SK37 (第8図) 調査区西端、d・e 0地

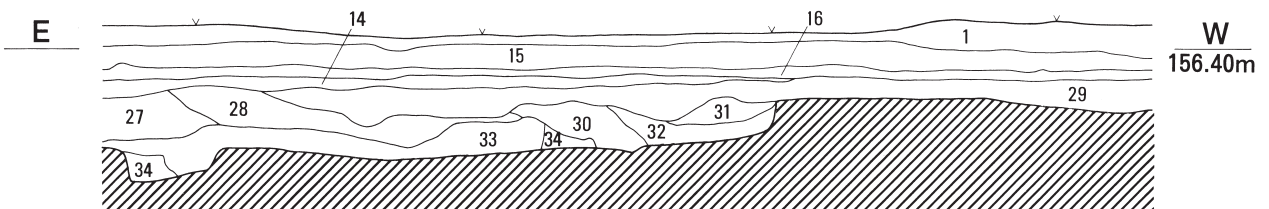
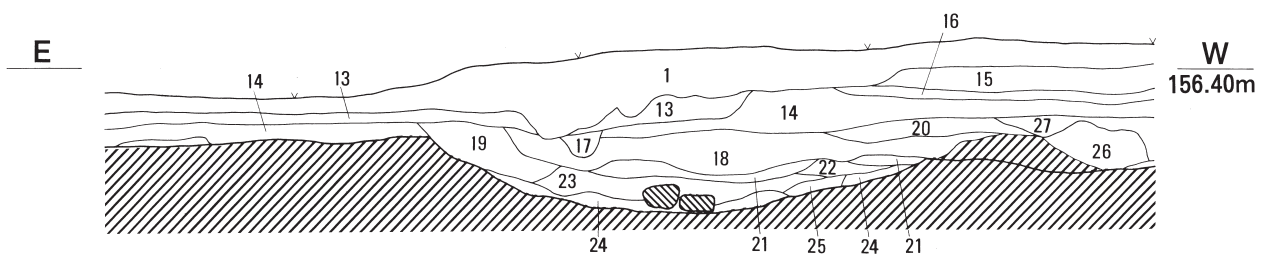
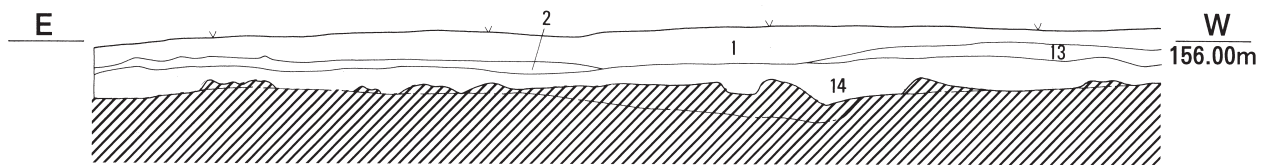
区付近で検出した土坑である。東西幅約1.8m以上、南北幅約1.2m、深さ約0.2mの方形を呈する。埋土は褐灰色のシルトで、埋土中から、瓦器椀・小皿、無釉陶器椀・小皿（山茶椀・皿）を中心に土師器皿、羽釜などが出土した。しかし、遺構の一部が後述するSD30と重複しており、純粹な一括資料としてま



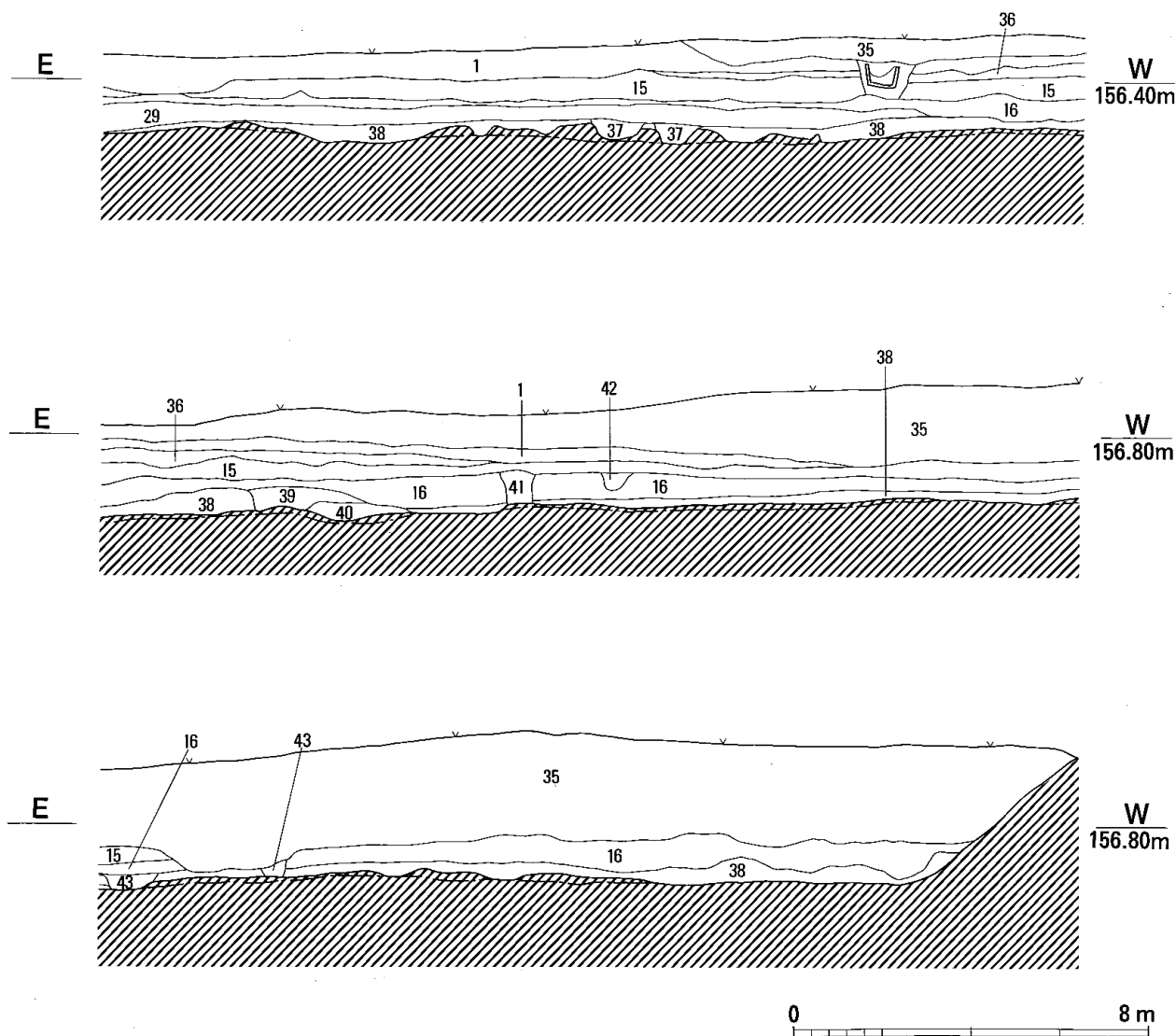
第3図 調査区位置図 (S = 1 : 1,000)



- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 暗灰色(N3/1)砂質土 | 7 明褐色(2.5Y5/2)砂質シルト |
| 2 褐灰色(7.5Y5/1)砂質土 | 8 灰黄色(2.5Y6/1)粘質シルト |
| 3 灰褐色(7.5Y5/2)シルト(小礫混) | 9 褐灰色(10YR5/1)粘質シルト |
| 4 黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト(礫混) | 10 暗灰黄色(2.5Y6/2)砂質土(小礫混) |
| 5 黄灰色(2.5Y4/1)粘質シルト | 11 明黄褐色(10YR6/6)シルト |
| 6 黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト | 12 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト |



第4図 調査区南壁土層断面図 (S = 1 : 80)



- | | |
|---|---|
| 13 灰褐色(5YR6/2)砂質土 | 30 にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト |
| 14 褐灰色(10YR4/1)砂質土・明黄褐色(10YR6/6)シルト混 | 31 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土 |
| 15 にぶい橙色(7.5YR7/4)粘質土 | 32 にぶい黄橙色(10YR6/3)シルト |
| 16 褐灰色(10YR5/1)砂質シルト | 33 灰褐色(7.5YR5/2)シルト+明黄褐色(10YR6/6)シルト |
| 17 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト | 34 褐灰色(10YR4/1)シルト |
| 18 灰色(7.5Y5/1)シルト | 35 灰白色(2.5Y7/1)・橙色(7.5YR6/6)シルト(コンクリート片含) |
| 19 灰オリーブ色(5Y6/2)シルト(砂混) | 36 灰黄褐色(10YR4/2)シルト |
| 20 黄褐色(2.5Y5/1)砂質土+明黄褐色(10YR6/6)シルト | 37 黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト(炭含む) |
| 21 灰色(2.5Y6/1)シルト+明黄褐色(10YR6/6)シルト | 38 黒褐色(10YR3/1)シルト |
| 22 灰色(7.5Y5/1)シルト+にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト | 39 暗灰褐色(2.5Y5/2)シルト |
| 23 黄灰色(2.5Y5/1)シルト | 40 黄灰色(2.5Y4/1)シルト+明灰褐色(10YR6/6)シルト |
| 24 褐灰色(10YR4/1)シルト+明黄褐色(10YR6/6)シルト(礫含む) | 41 灰色(10YR4/1)シルト(炭含む) |
| 25 にぶい黄色(2.5YR6/4)シルト+褐灰色(10YR4/1)シルト(炭混) | 42 灰色(10YR4/1)シルト |
| 26 褐灰色(7.5YR4/1)シルト | 43 褐灰色(10YR6/1)シルト |
| 27 褐灰色(7.5YR4/1)シルト+橙色(7.5YR6/6)シルト | |
| 28 灰黄褐色(10YR5/2)シルト | |
| 29 黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト | |

第5図 調査区南壁土層断面図 (S = 1 : 80)

とめることはできない。またSK34・SK38と重なって検出したが、土層、出土土器から検討した結果、SK37→SK34→SK38の順に掘削、埋没したと考えられる。(濱辺一機)

大溝SD30 (第9図) 調査区中央を西から東へと流れる溝である。e9地区辺りで北へとゆるやかに曲がっていく。後述するSD11と重複して検出した。幅約3.6m、深さは約1.2mを測り、断面は逆台形状である。

埋土は上層より黄褐色の砂や小礫が互層に堆積している。埋土中からは無釉陶器碗(山茶碗)、瓦器碗が出土した。

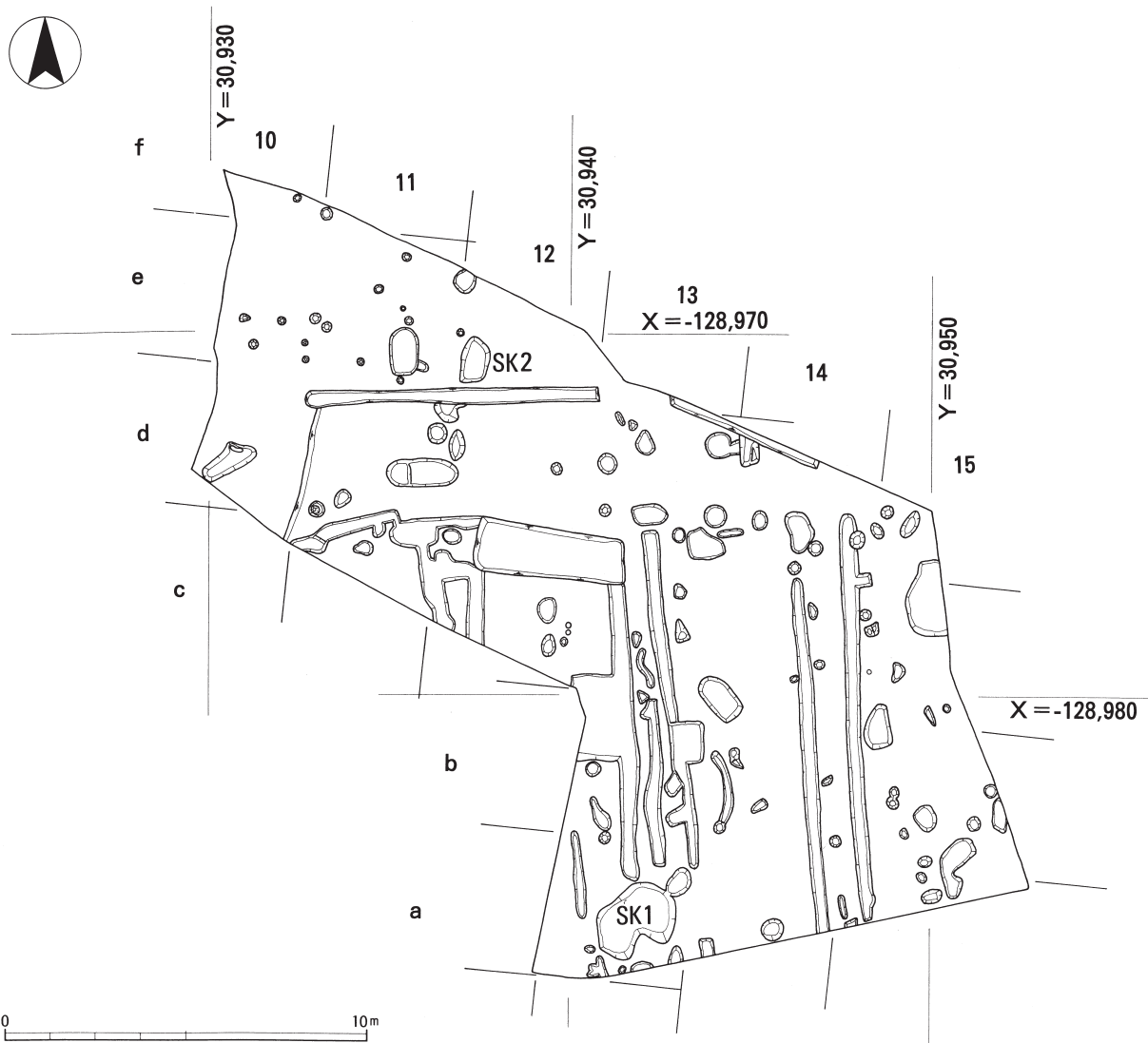
(2) 中世後期
最もたくさんの遺構を検出した。掘立柱建物、土坑、溝がある。

A 掘立柱建物

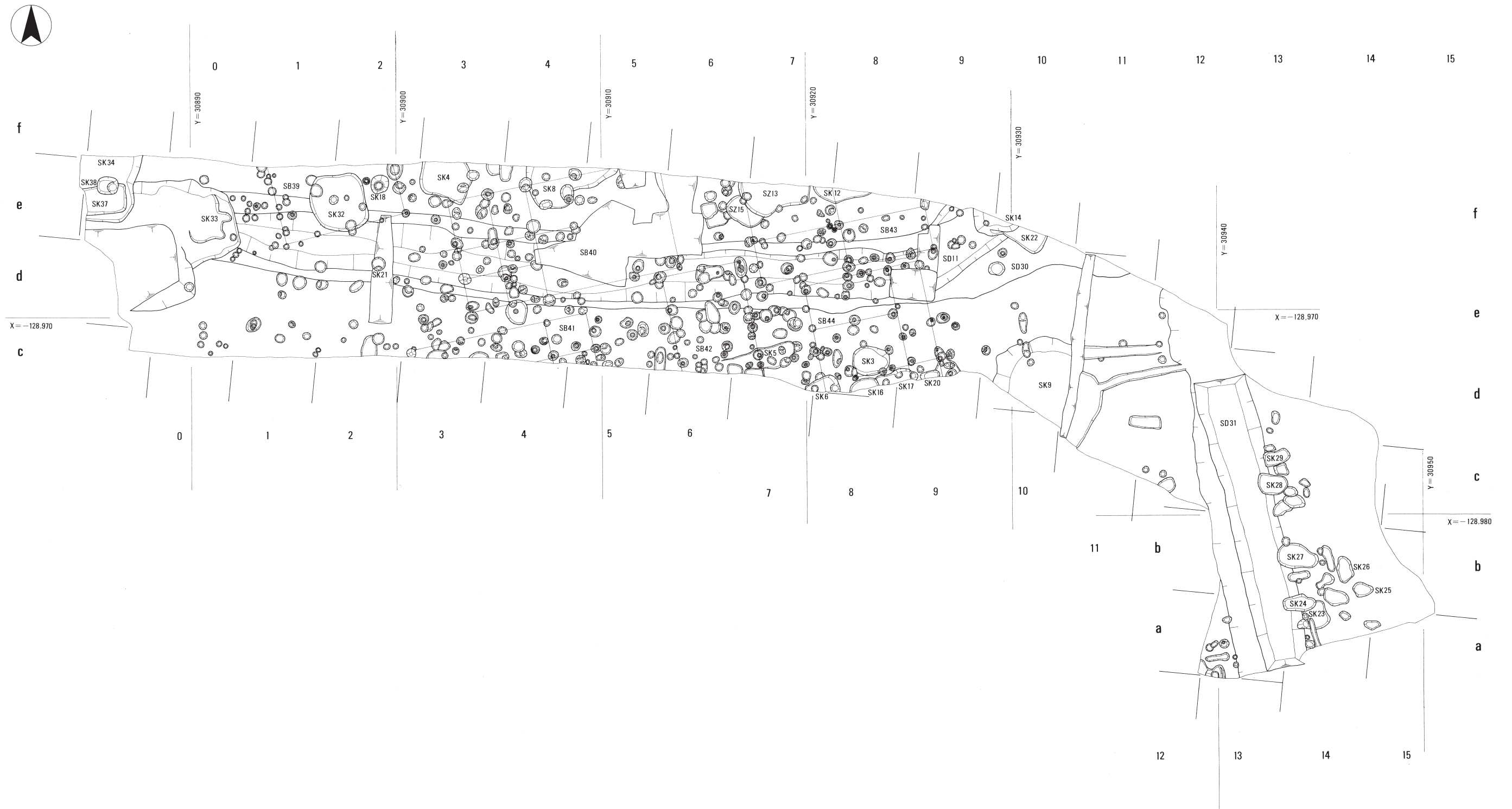
調査区内から検出できた小穴はかなりの数にのぼる。明らかに柱の痕跡を残すものが多数あり、多くの建物が存在していたと思われる。しかし、建物としてまとめがたいものが多かった。ここでは、掘立柱建物として可能性が高いものについてのみ記しておく。

SB39 (第10図) 調査区西北部、e1・2地区で検出した。東西4間×南北3間以上の側柱建物で、北側に広がっていると思われるが、調査区外のため不明である。東西約6m(西側3間分1.5m、東側1間分1.2m)、南北約2.8m以上(1間1.4m)で、建物の南北軸の方位はN11°Wである。柱穴には根石は存在しない。

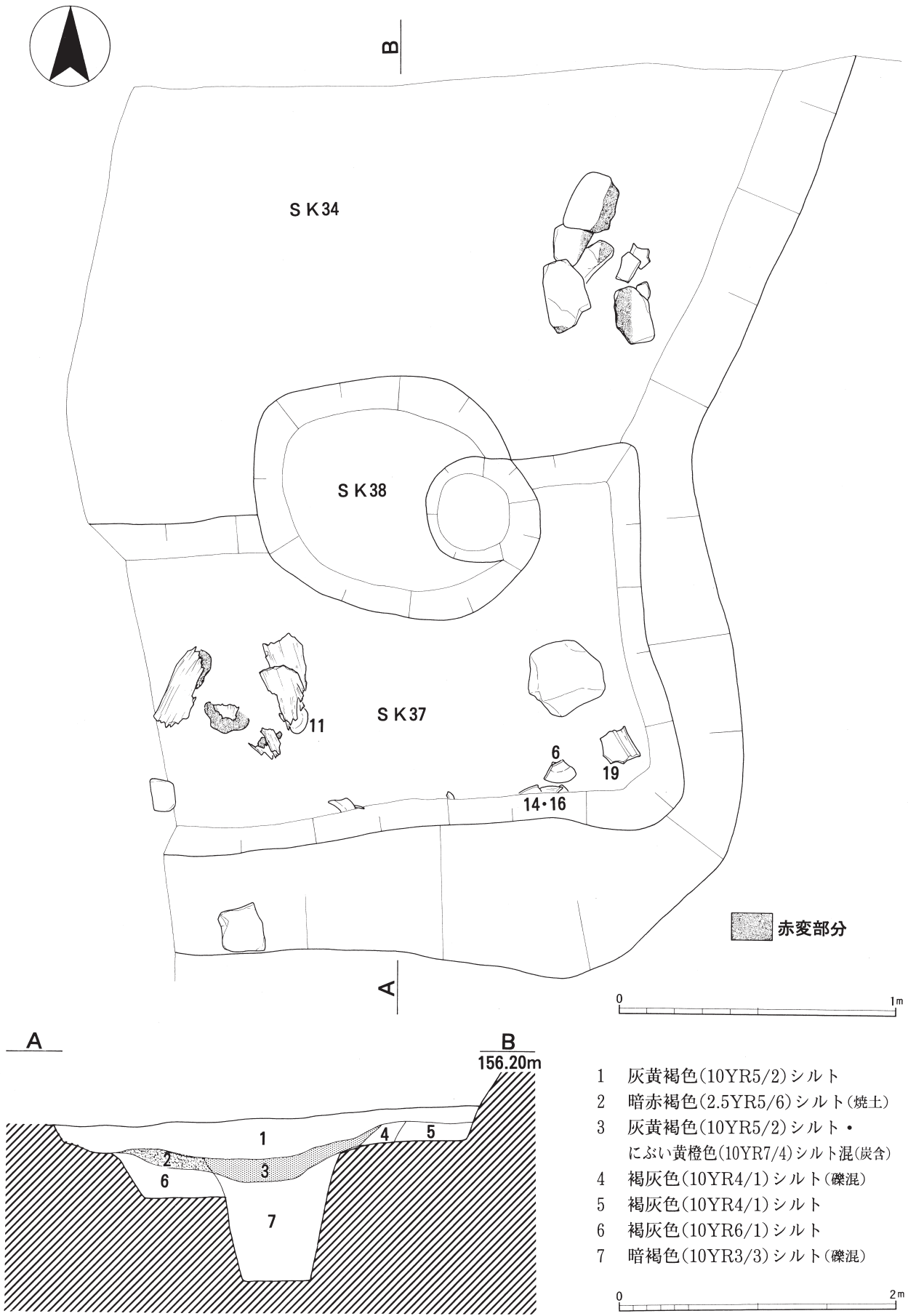
SB40 (第11図) 調査区中央、d・e3～5地区



第6図 第1面遺構平面図 (S=1:200)



第7図 第2面遺構平面図 (S = 1 : 200)



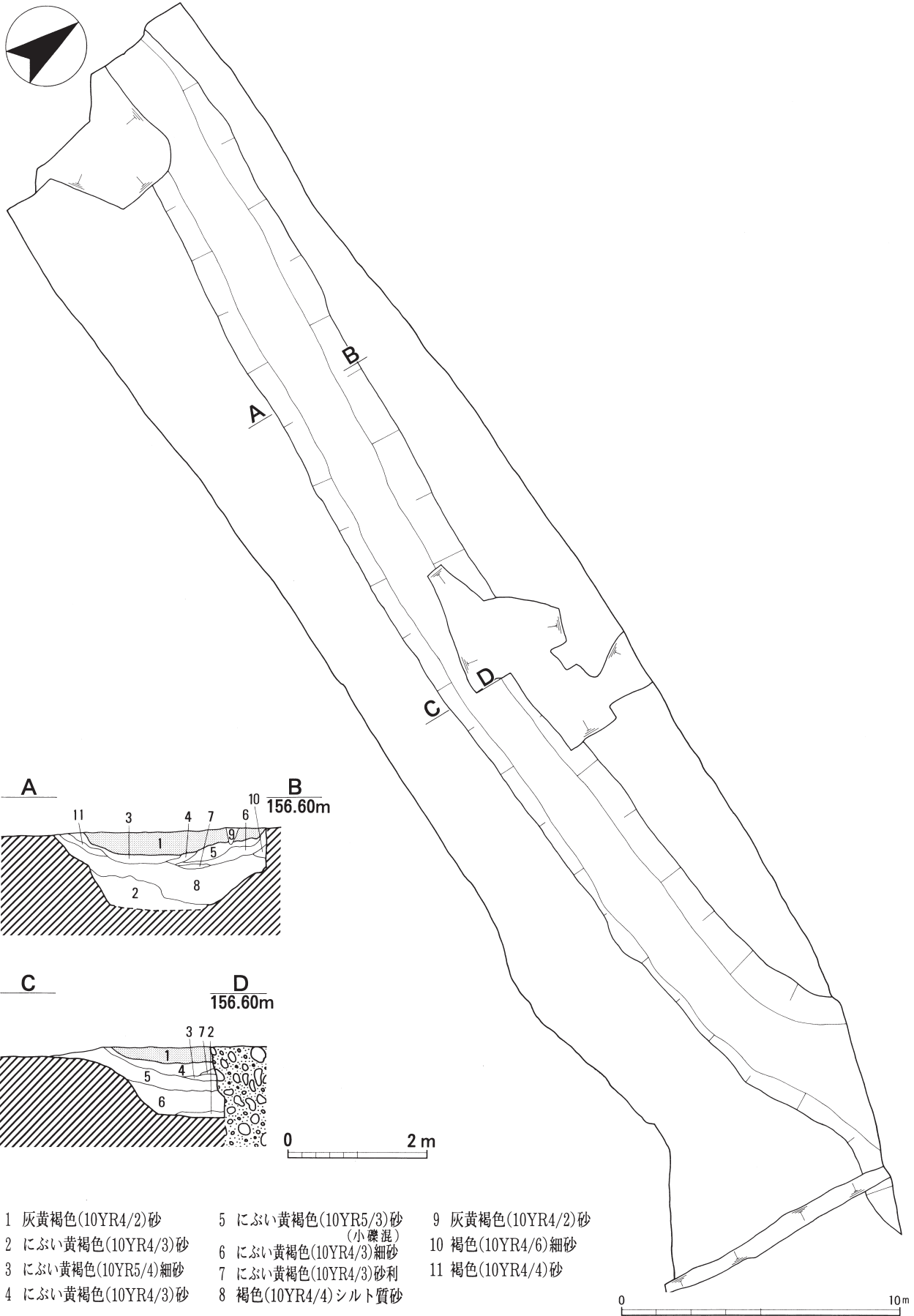
赤変部分

0 1m

- 1 灰黄褐色(10YR5/2)シルト
- 2 暗赤褐色(2.5YR5/6)シルト(焼土)
- 3 灰黄褐色(10YR5/2)シルト・
にぶい黄橙色(10YR7/4)シルト混(炭含)
- 4 褐灰色(10YR4/1)シルト(礫混)
- 5 褐灰色(10YR4/1)シルト
- 6 褐灰色(10YR6/1)シルト
- 7 暗褐色(10YR3/3)シルト(礫混)

0 2m

第8図 SK34・37・38 出土状況図 (S = 1 : 20) 及び土層断面図 (S = 1 : 40)



- | | | |
|---------------------|------------------------------|------------------|
| 1 灰黄褐色(10YR4/2)砂 | 5 にふい黄褐色(10YR5/3)砂 | 9 灰黄褐色(10YR4/2)砂 |
| 2 にふい黄褐色(10YR4/3)砂 | 6 にふい黄褐色(10YR4/3)細砂
(小礫混) | 10 褐色(10YR4/6)細砂 |
| 3 にふい黄褐色(10YR5/4)細砂 | 7 にふい黄褐色(10YR4/3)砂利 | 11 褐色(10YR4/4)砂 |
| 4 にふい黄褐色(10YR4/3)砂 | 8 褐色(10YR4/4)シルト質砂 | |

第9図 SD30平面図 (S = 1 : 200) 及び土層断面図 (S = 1 : 80)

付近で検出した。建物の東側は後世の攪乱を受けているために、はっきりしないが、東西5間×南北3間の東西棟総柱建物と考えている。建物の南北軸の方位はN11°Wである。東西は約10.2m（西側2間分は1.8m+1.8m、東側1間分2.4m）、南北は約5.6m（北から2.4m+1.4m+1.8m）で、柱穴に根石は存在しない。

SB41（第11図） SB40の南、d3～5地区で検出した、東西4間以上×南北2間以上の東西棟の総柱建物と考えている。南側に広がっていると思われるが調査区外のため不明である。建物の南北軸の方位はN11°Wである。東西約8.4m以上（柱間約2.1m）、南北約1.8m以上で柱穴に根石は存在しない。

SB42（第12図） 調査区中央d・e6地区付近で検出した。南北4間以上×東西2間の南北棟の側柱建物と考えている。建物の南北軸の方位はN11°Wである。南北は約4.8m（北から1.8m+1.2m+1.8m）以上、東西は約3.9m（約2.1m+1.8m）で、一部の柱穴には根石が存在する。

SB43（第13図） 調査区北部、e・f7～9地区で検出した。東西4間×南北3間以上の東西棟の建物と考えている。建物の南北軸の方位はN11°Wである。東西約8.4m（柱間約2.1m）、南北約4.2m（柱間2.1m）以上で、南側柱の柱穴には根石が存在するものもある。

SB44（第12図） 調査区南部、d・e7～9地区で検出した。南北3間以上×南北3間の建物で南北棟と考えている。建物の南北軸の方位はN11°Wで

遺構番号	地区	時期	規模	南北軸方向	備考
SB39	e1～2	中世	4間×3間以上	N11°W	
SB40	e3～6	中世	5間×3間	N11°W	総柱建物？
SB41	d3～5	中世	4間以上×2間以上	N11°W	総柱建物？
SB42	d6付近	中世	4間以上×2間	N11°W	
SB43	e7～9	中世	4間×3間以上	N11°W	墨書土師器片出土
SB44	d8付近	中世	3間以上×3間	N11°W	

第1表 掘立柱建物一覧表

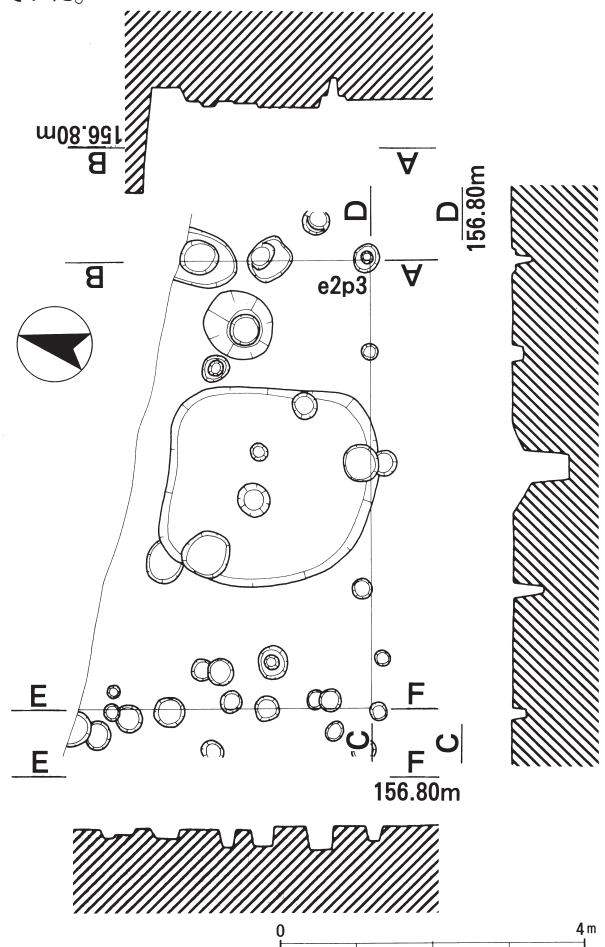
ある。東西約5.7m（西から2.1m+2.1m+1.5m）、南北約4.8m（西側の柱間は2.1m+1.2m+1.2m、東側の柱間は2.7m+1.8m）以上で、東西方向は東へさらに2間分延びる可能性もある。柱穴に根石は存在しない。

B 土坑

検出できた土坑の内、遺物がまとまって出土したものについて述べる。

SK3（第14図） 調査区南、d8地区で検出した。長径約1.7m、短径約1.4mの楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さは約0.3mを測る。埋土は黄褐色の砂質土である。土坑内からは土師器皿が重なり合い、一番上から銭貨が出土している。土師器皿は完形品も多い。

SK4（第15図） 調査区f3地区で検出した不定形の土坑である。調査区北端に位置するため、その全容は不明である。検出面からの深さは約0.3mを測る。土坑内は、土師器皿、陶器、銭貨等が散乱していた。



第10図 SB39平面図及び断面図（S=1:100）

SK 8 (第16・17図) 調査区 f 4 地区で検出した。SK 4 同様、調査区北端に位置する不定形の土坑である。検出面からの深さは約0.1mを測る。土坑西側で遺物が集中して出土した。土師器、陶器、瓦質土器、青磁片、鉄釘等があるが、大半は土師器皿である。土師器皿は重なった状態で出土している部分もあり、一度に廃棄されたようである。

(角正淳子)

SK 9 (第18図) 調査区東部の d 10・11地区付近

で検出した。南側は調査区外だが、東西幅約5.4m以上、南北幅約5.2m以上の大型の土坑で、検出面からの深さは約0.5mである。遺構の東側には、浅い溝が接続している。土坑の底近くには、人頭大の川原石が2個あった他、炭の堆積が若干認められた。埋土内からは、土師器皿のほか、古瀬戸期の深皿がまとまって出土した。(濱辺一機)

SK 14・22 (第19図) 調査区 f 9・10地区で重複して検出した2つの土坑である。SK 14は楕円形、



第11図 SB 40・41平面図及び断面図 (S = 1 : 100)



第12図 S B 42・44平面図及び断面図 (S = 1 : 100)

S K 22は方形を呈すると思われるが、調査区北端に位置するために全容は不明である。

S K 14は検出面からの深さ約0.7mを測り、埋土は5層に分けられる。図中の第2～5層には炭化物を含み、埋土最下層の第6層は青灰色の粘土である。出土遺物には、図示できるものとして陶器、鉄釘があり、その他図示できない南伊勢系土師器皿の小片がある。

S K 22は検出面からの深さ約0.6mを測る。埋土は3層に分けられ、いずれも埋土中に炭化物は含まない。中北勢系の土師器皿、鉄釘等が一層目から集中して出土した。検出時にはその前後関係が分からず、一緒に掘削したが、土層断面を検討した結果、S K 14→S K 22と判断した。

S K 18 (第21図) 調査区北、e・f 2地区で検出した長径約1m、短径約0.8mの楕円形の土坑である。土坑の底面形は円形を呈しており、検出面からの深さは約0.8mを測る。埋土中には、拳から人頭

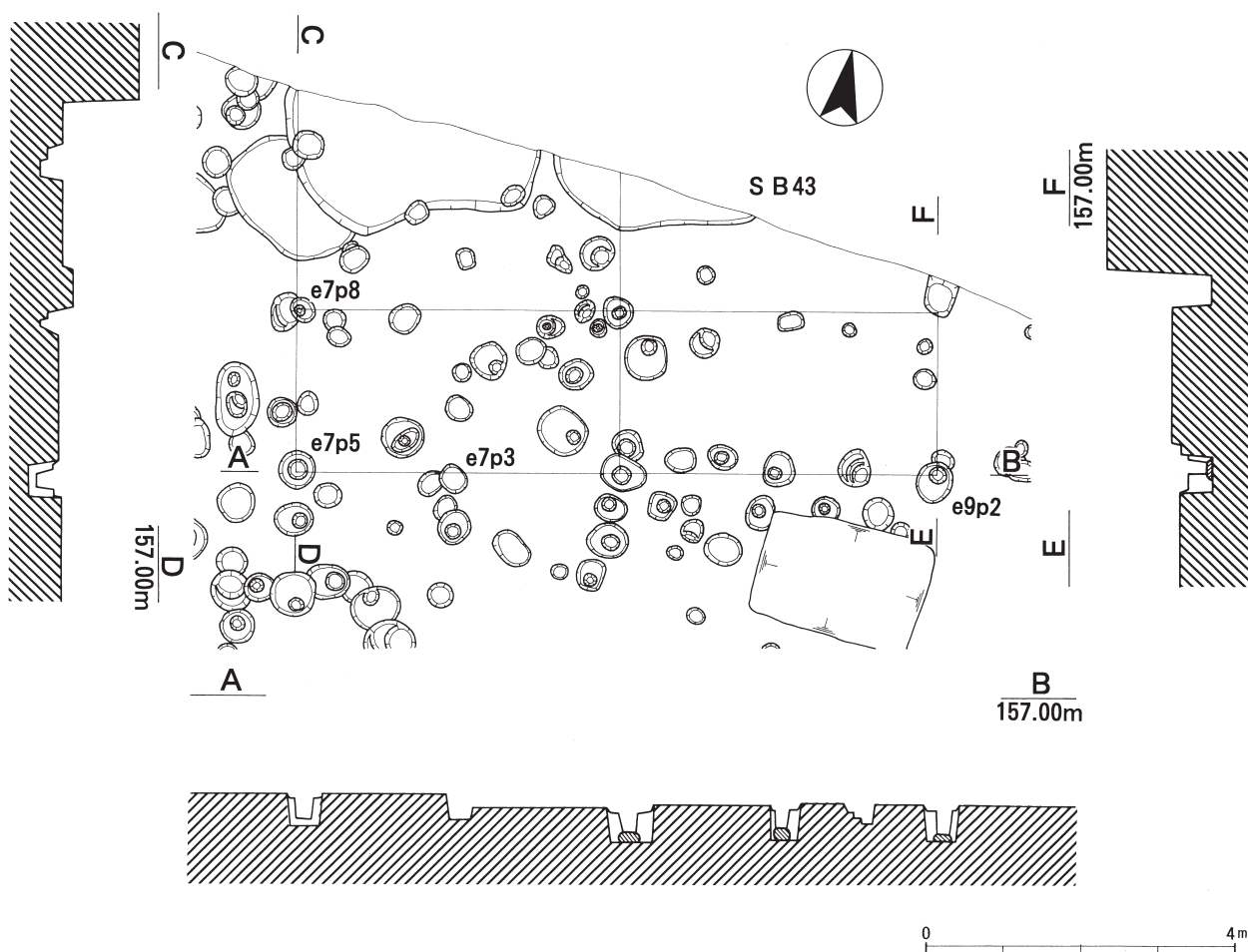
大の石が含まれていた。土器等の遺物は一切出土せず、詳細な時期は決定できない。

S K 21 (第22図) 調査区西部、e 2地区で検出した楕円形の土坑である。長径約0.8m、短径約0.6m、検出面からの深さは約0.2mを測る。土坑中央に石があり、その周辺から土師器皿などが出土した。

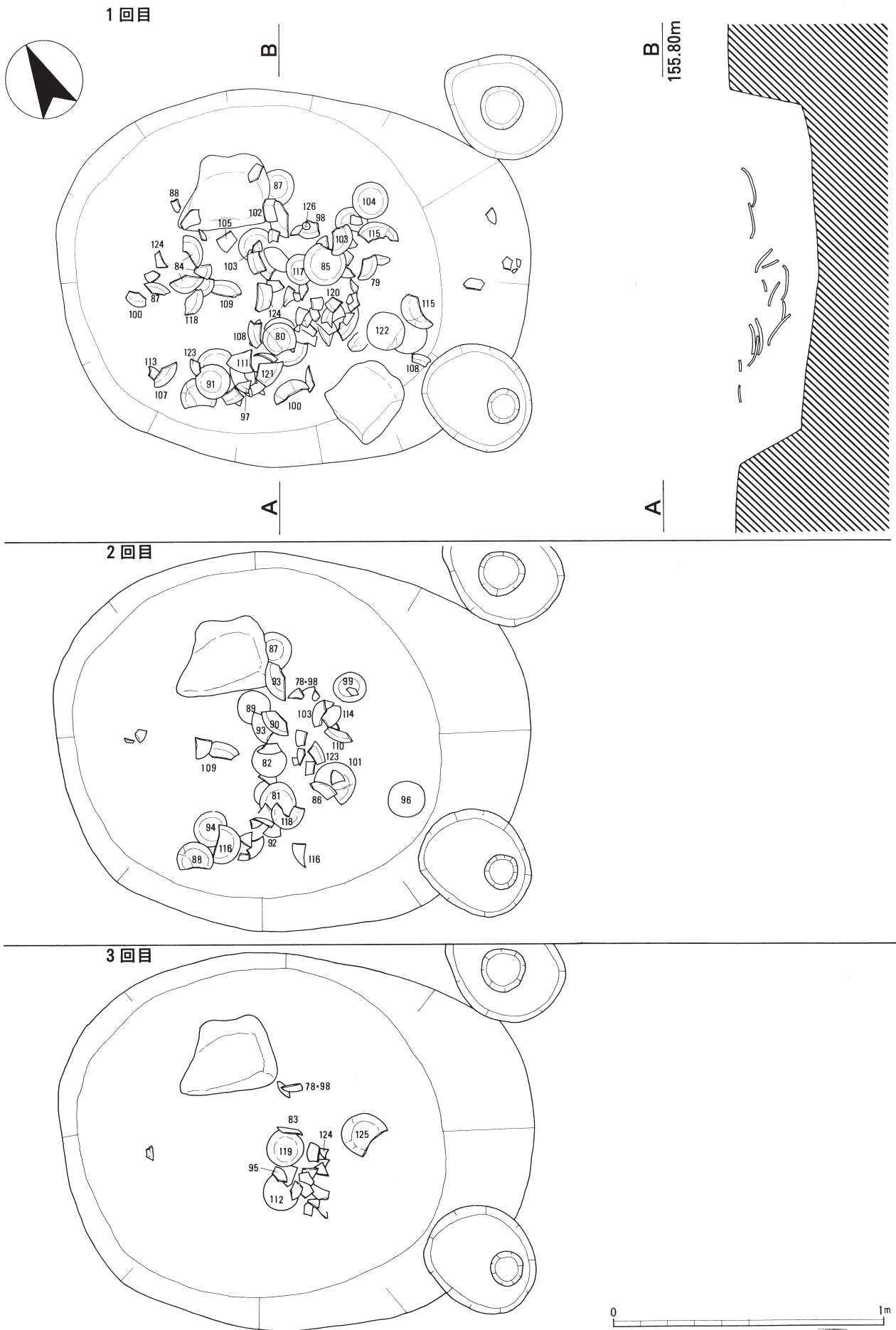
(角正淳子)

S K 34・38 (第8図) 調査区西部のd・e 0地区付近で検出した。S K 34は上面に拳から人頭大の石の集積が認められ、これを全て除去したところ、東西約3.2m以上、南北約2.2m以上の方形土坑を確認した。検出面からの深さは約0.5mで、埋土下層には炭や焼土を含む層が見られる。

また、土坑内からは被熱痕がある石が数個あるほか、炭化材が見られた。埋土の状況等から、竈等の施設ではないかと考えられるが、意図的に石が組まれた状態や、床面の焼き締まった状況が認められず、若干の疑問が残る。埋土内からはS K 37からの中世



第13図 S B 43平面図及び断面図 (S = 1 : 100)



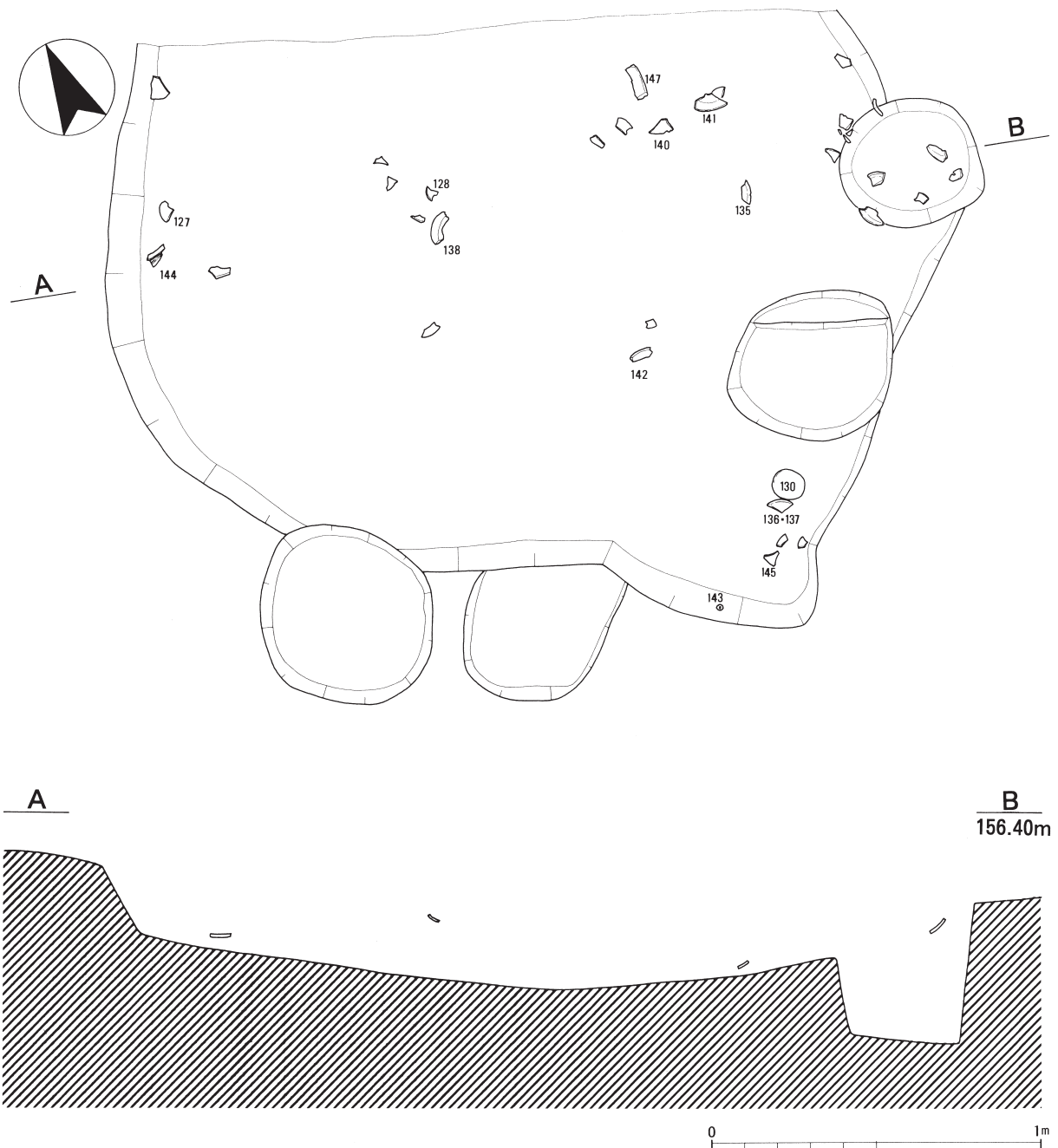
第14図 SK 3 出土状況図 (S = 1 : 20)

前期の混入遺物が多いが、土師器皿を中心に羽釜、常滑産の鉢、天目茶椀、白磁、明代の染付皿などが大量に出土した。

S K38はS K34の直下で検出した東西幅約1m、南北幅約0.8m、深さ0.9mの楕円形を呈する土坑である。土師器皿・羽釜が出土した。

S Z33・S A35 (第20図) 調査区西部e 0地区付近で検出した。調査時は別々の遺構と捉えていたが、石組みの状況などから、一連の遺構であった可能性もある。S Z33は東西約2.7m、南北約3.8m、

深さ約0.4mのほぼ方形を呈する土坑で、遺構の西壁と南壁に石組みを持つ。西壁の石組みは0.2~0.5mの大きさの川原石を用い、2段にわたって積まれている。やや乱雑ではあるが、土坑の外側に意識的に面を揃えているようである。一方、南壁の石組みは無造作に積み上げられており、特に石の面を揃えた状況は認められない。土師器皿、信楽産播鉢、天目茶椀、明代染付瓶が出土している。S A35はS Z33の西壁に接して、構築された遺構である。南側の一部は後世の攪乱を受けているが、逆「L」字状を



第15図 SK4出土状況図 (S = 1 : 20)

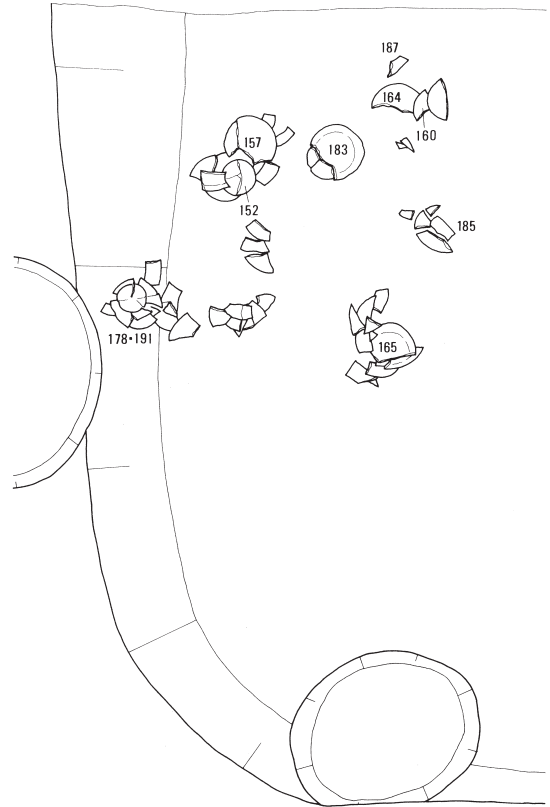


第16図 SK 8 出土状況図 (S = 1 : 20)

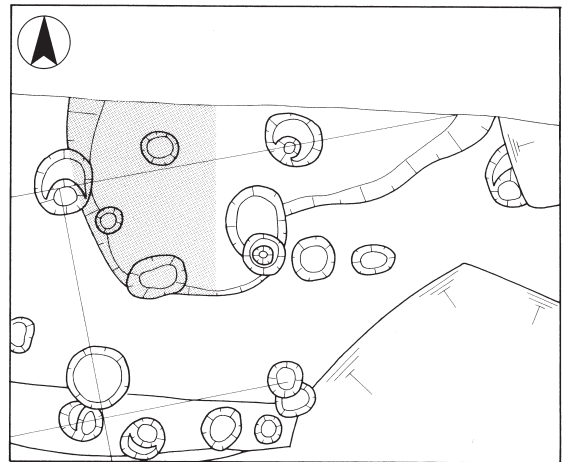
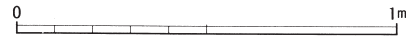
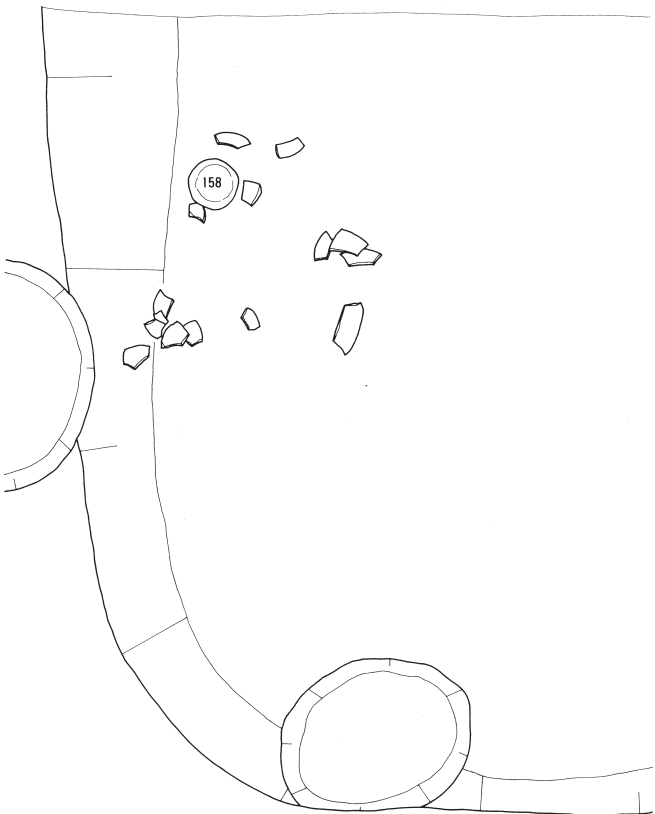
2回目



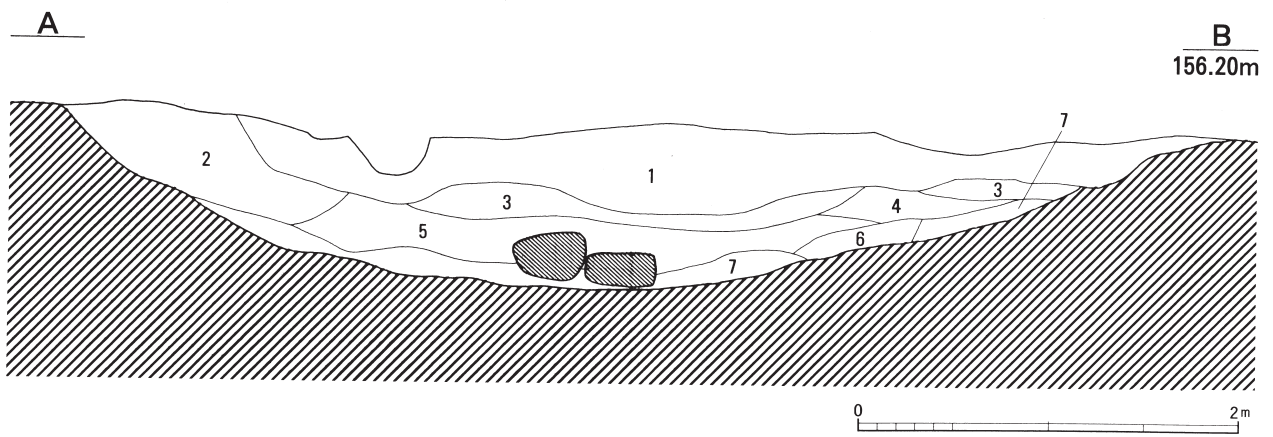
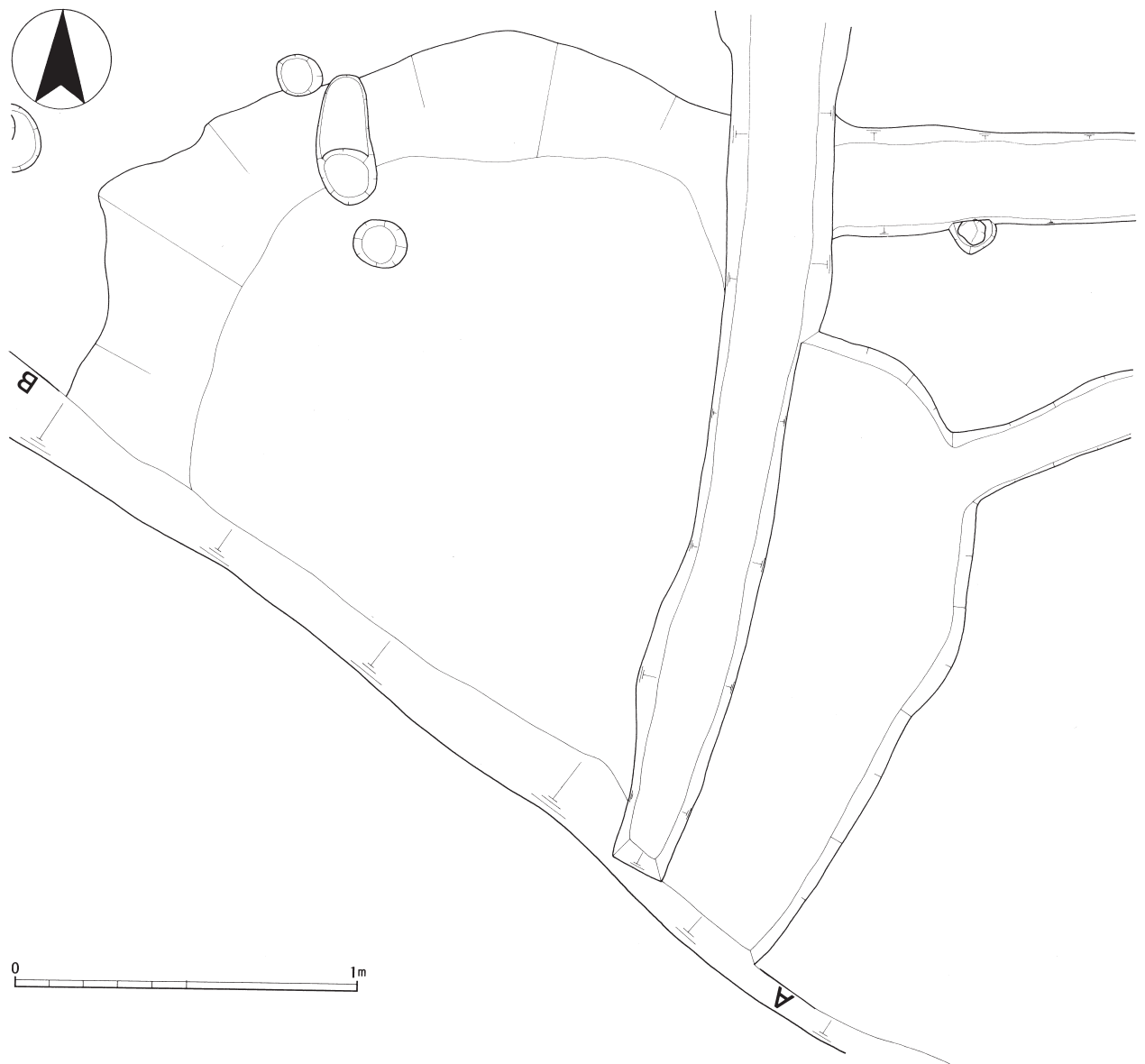
3回目



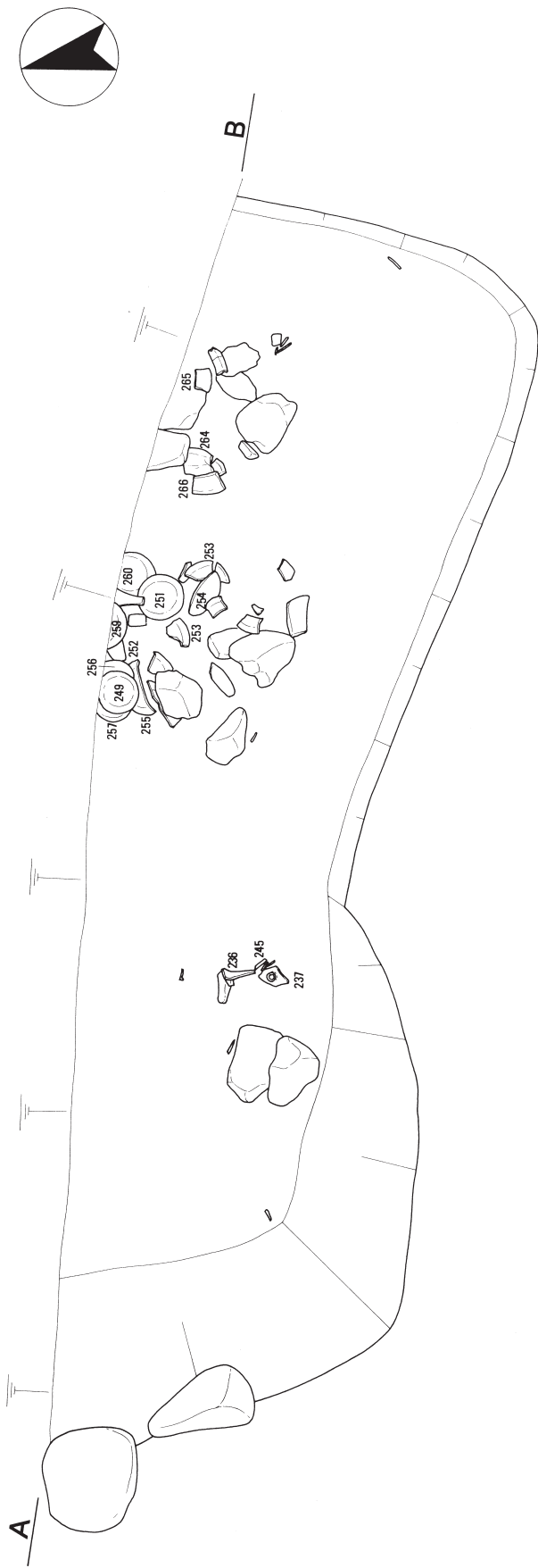
4回目



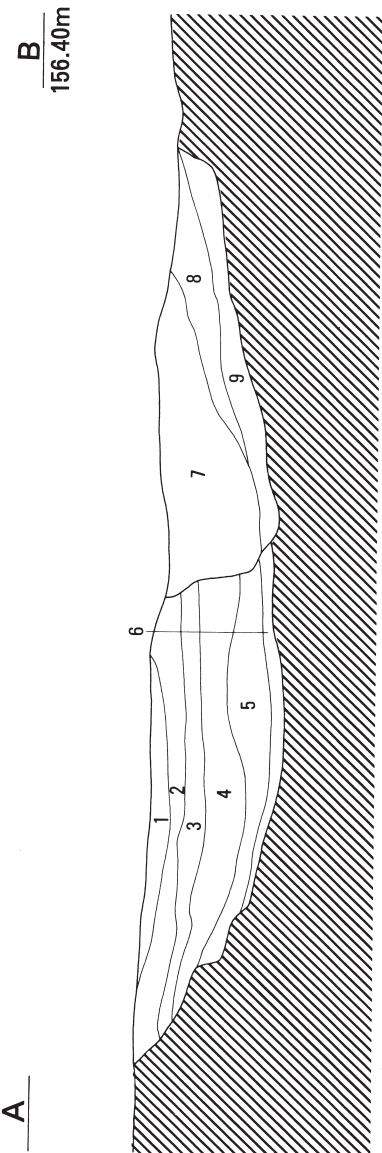
第17図 SK 8 出土状況図 (S = 1 : 20)



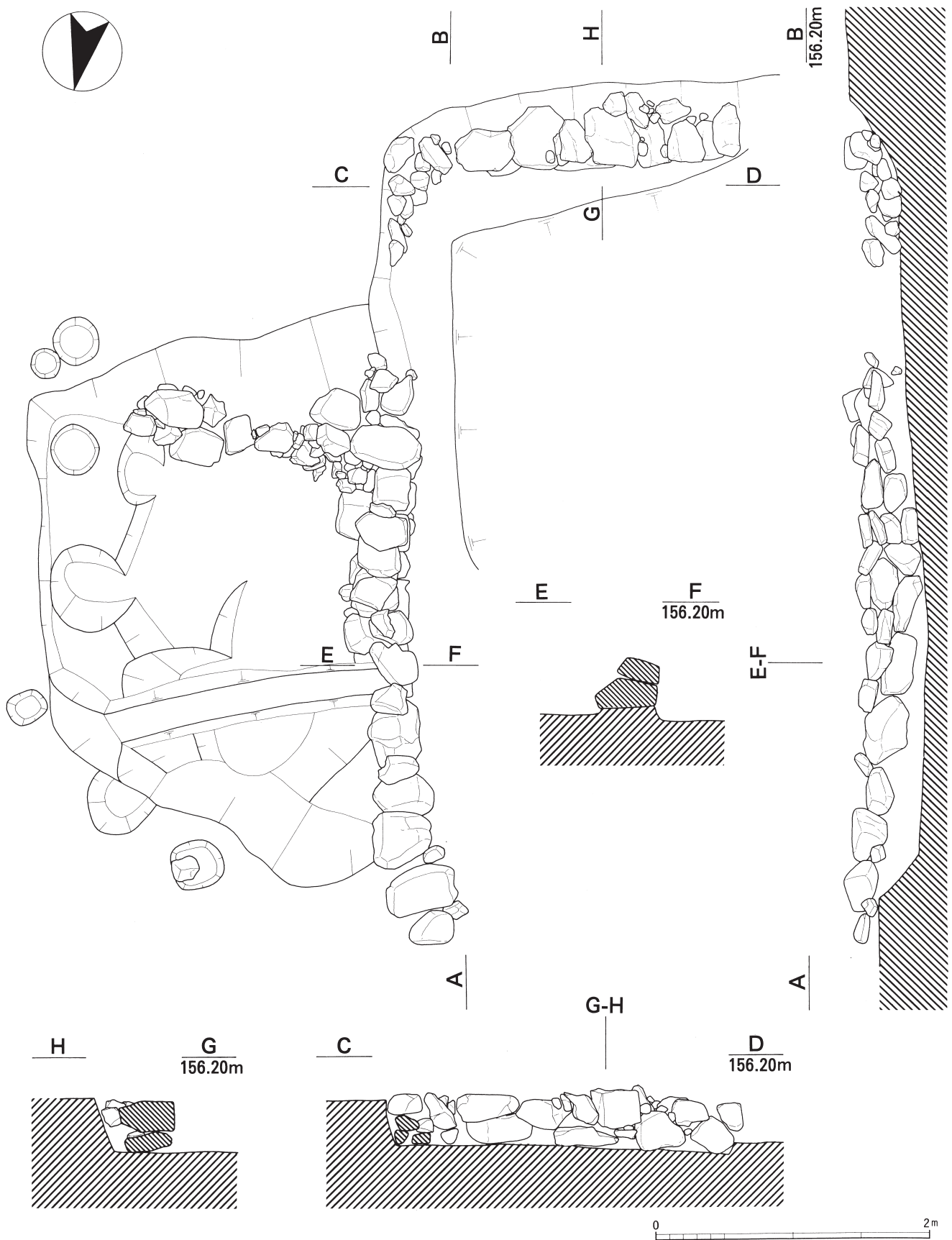
第18図 SK 9 平面図 (S = 1 : 20) 及び土層断面図 (S = 1 : 40)



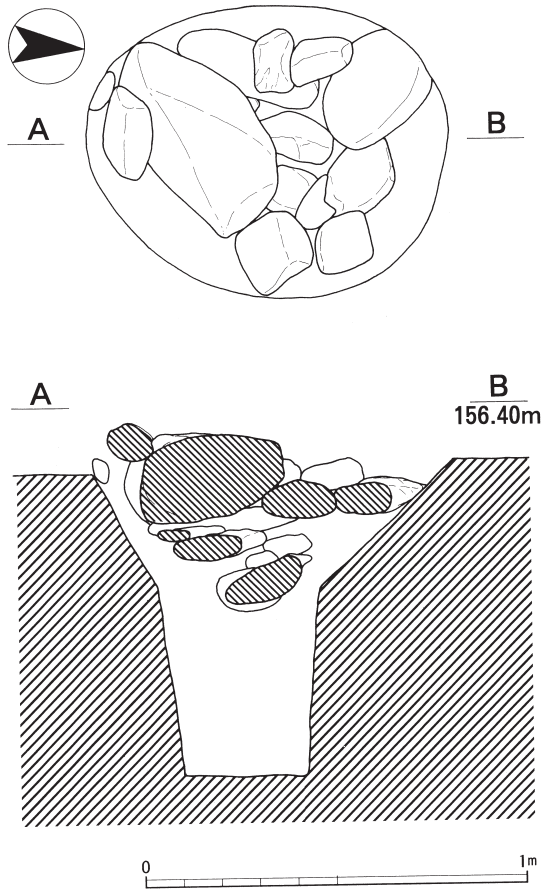
- 1 灰褐色(5YR6/2)砂質シルト
- 2 暗赤灰色(7.5YR4/1)シルト
- 3 暗赤灰色(7.5YR4/1)シルト(炭化粒含む)
- 4 赤灰色(7.5YR5/1)シルト
- 5 赤灰色(7.5YR6/1)シルト
- 6 黒褐色(2.5Y3/2)粘質シルト
- 7 褐灰色(5YR5/1)砂質シルト(礫含)
- 8 褐灰色(5YR5/1)シルト
- 9 褐灰色(5YR5/1)粘質シルト



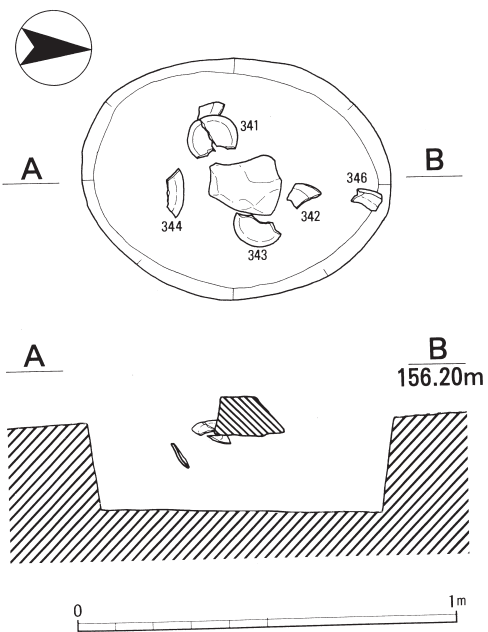
第19図 SK14・22出土状況図 (S = 1 : 20) 及び土層断面図 (S = 1 : 40)



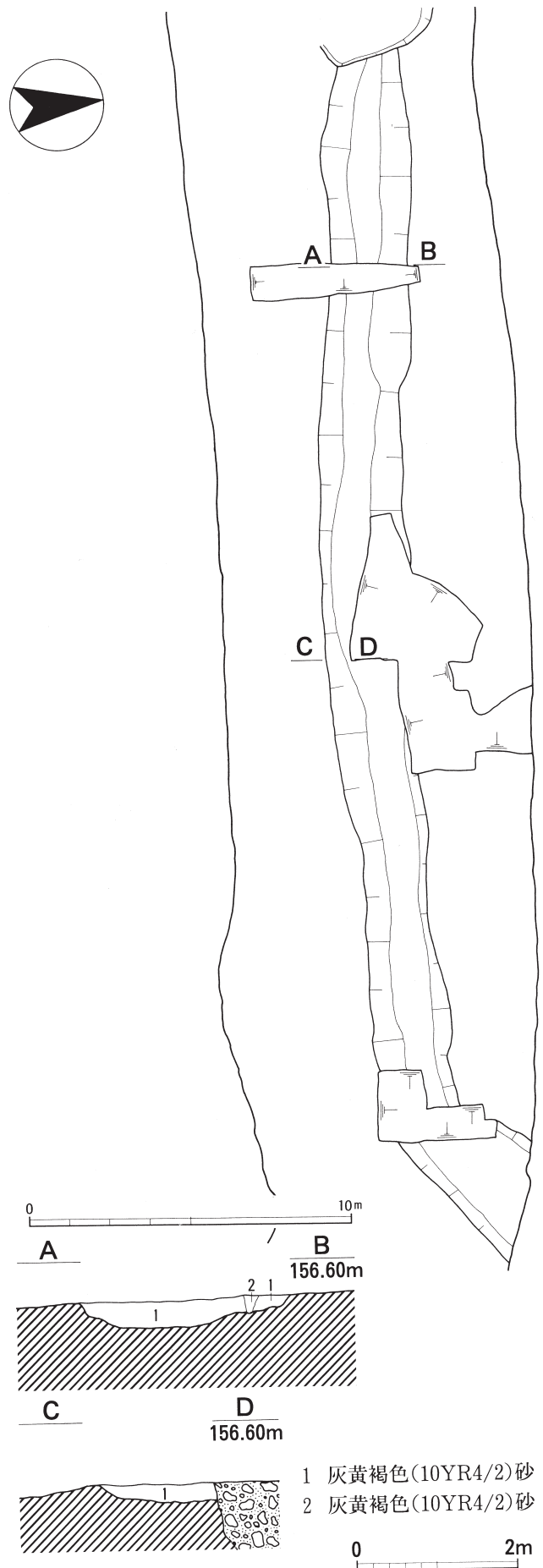
第20図 S Z 33 · S A 35平面図及び立面図 (S = 1 : 20)



第21图 SK18出土状况图 (S = 1 : 20)



第22图 SK21出土状况图 (S = 1 : 20)



第23图 SD11平面图 (S = 1 : 200)及土层断面图 (S = 1 : 80)

呈する石列になると考えられる。石列の南側は大きさ約0.4mの川原石を2段に積み、北側に面を揃えている。東側は残存状況が悪く、約0.2mの石が、わずかに積まれるのみである。石列内からは土師器皿や常滑産の鉢、信楽産の播鉢が出土した。

(瀧辺一機)

C 溝

検出した遺構は2条ある。

SD11 (第23図) 調査区の中央を西から東へと流れる溝である。先述したSD30と重なって検出した。ほぼ同じ場所を流れる、幅約2.5m、深さ約0.2mの浅い溝である。埋土は灰黄褐色の砂で、山茶碗・瓦器碗・土師器皿などが出土した。自然流路の可能性もある。

(角正淳子)

SD31 (第24図) 調査区東部で検出した石垣SA10・19の直下で確認した南北溝である。幅1.8m、深さは1.3mの逆台形を呈している。溝の方向はN13.5°Wであり、溝の西側で検出された掘立柱建物群とほぼ同じ方向である。したがって、掘立柱建物群の東限を区画した溝であった可能性が高い。埋土

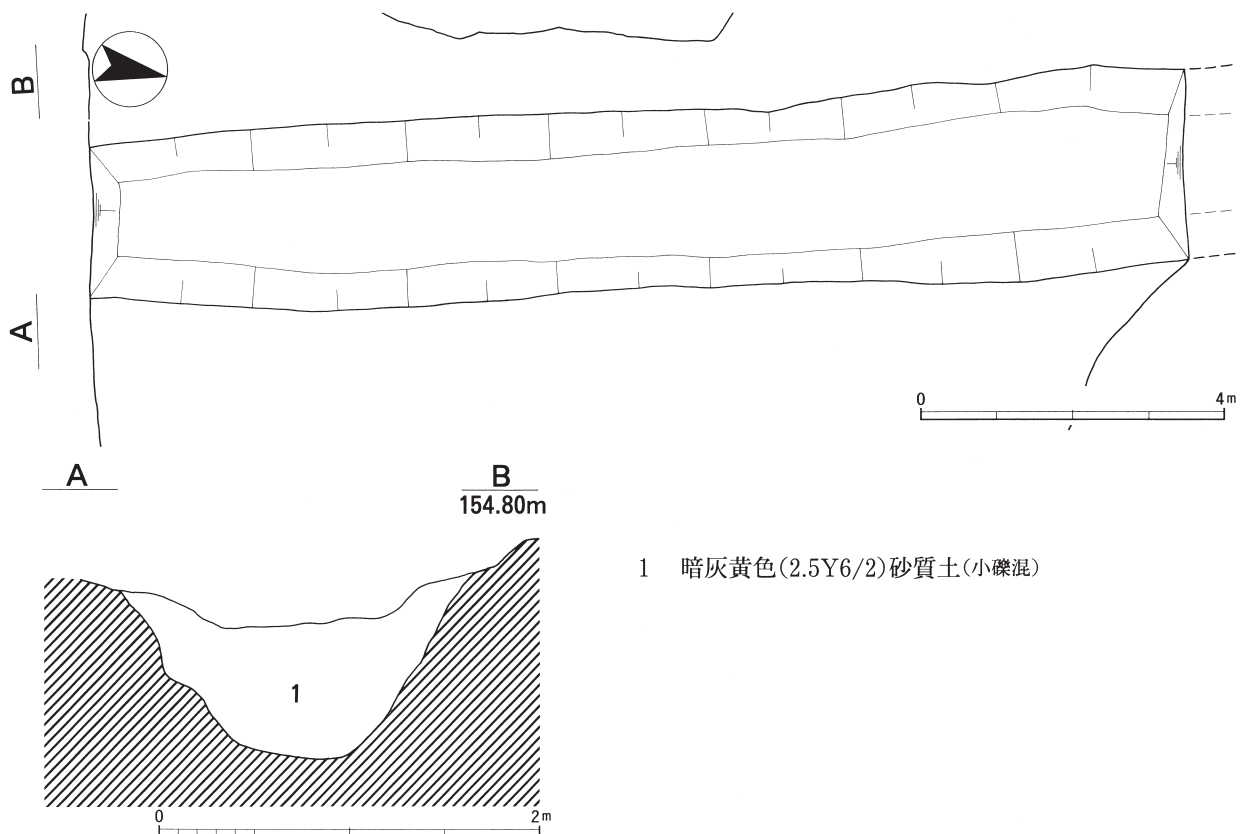
は炭が多く混じる暗灰黄色の砂質土で、小礫が混じていた。土師器皿、瓦質土器、陶器、磁器などが出土した。

(3) 近世初頭

調査区東側で石垣2基を検出した。出土遺物が少なく、明確な時期は決定できないが、SD31の上面で確認しており、この時期に相当すると考えている。

SA10 (第25図) 石垣の規模は高さ約1.2m、全長20mほどで、ほぼ南北方向に積み上げられている。石垣の石材は未加工の川原石と考えられ、横幅約0.8~1mのやや大きめのものを使用している。構築方法は、大きい石材を横位に積み、その間に0.1~0.2mほどの石を充填している。石垣内からは、中世後期の遺物に混じて、磁器や陶器の小片が出土した。

SA19 (第25図) SA10の全面で検出した。残存状況は悪く、南側は基部の石材が数個残るのみである。規模は高さ約1m、全長20mほどである。石材は未加工の川原石で、横幅が0.4~0.6mとSA10に比べてやや小さい石材を使用している。石材を2段



1 暗灰黄色(2.5Y6/2)砂質土(小礫混)

第24図 SD31平面図 (S = 1 : 100) 及び土層断面図 (S = 1 : 40)

から3段にわたって横位に積み上げている。石垣の裏込めからは磁器の小片や加工円盤が出土している。なお、SA19のほぼ中央では東側に屈曲する石垣が認められた。残存状況が悪く、規模は不明であるが、石垣の構築状況や石材の観察から、SA10が構築された後、東側に延びる石垣が付け加えられたものであると考えられる。
(濱辺一機)

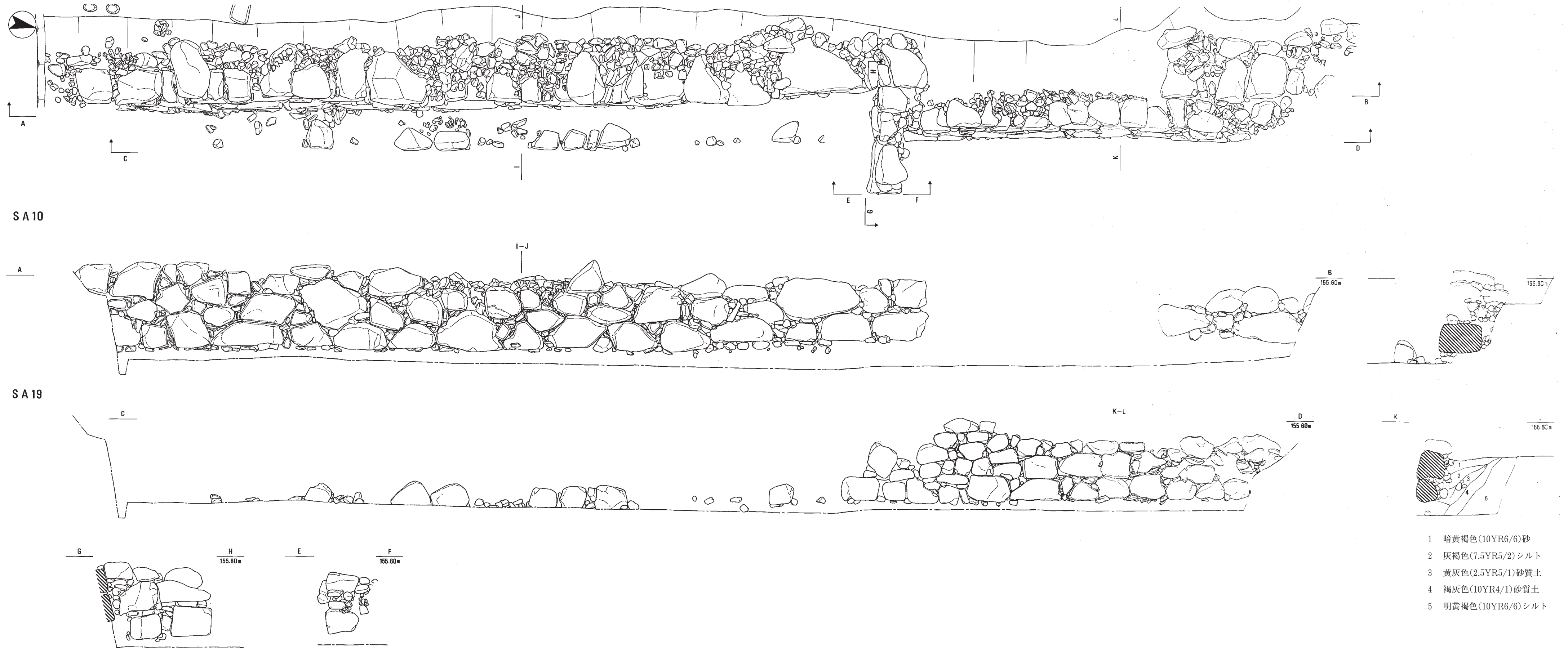
(4) 近世～近現代

第1面で数基の土坑や小穴、耕作溝を検出した。遺物の出土した小穴もあるが、建物遺構等にまとめることはできなかった。出土した遺物も大半が幕末以降のものである。残念ながら加太宿を裏付ける遺構は検出できなかった。
(角正淳子)

遺構番号	遺構面	地区	性格	時期	特徴
SK1	第1面	a13	土坑	近世以降	
SK2	第1面	e12	土坑	近世以降	
SK3	第2面	d8	土坑	中世	土師器皿が重なった状態で出土
SK4	第2面	f3	土坑	中世	
SK5	第2面	d7	土坑	中世	
SK6	第2面	d8	土坑	中世	
SK7	第2面	d7	土坑	中世	
SK8	第2面	f4	土坑	中世	土師器皿が重なった状態で出土
SK9	第2面	d10	土坑	中世	
SA10	第2面	a13~ e12	石垣	近世初頭	
SD11	第2面		溝	中世	
SK12	第2面	f7・8	土坑	中世	
SZ13	第2面	f7	不明	中世	
SK14	第2面	f9	土坑	中世	
SZ15	第2面	f6・7	不明	中世	
SK16	第2面	d8	土坑	中世	
SK17	第2面	d8	土坑	中世	
SK18	第2面	f2	土坑	不明	
SA19	第2面	a13~ e12	石垣	近世初頭	

遺構番号	遺構面	地区	性格	時期	特徴
SK20	第2面	d9	土坑	不明	
SK21	第2面	e2	土坑	中世	
SK22	第2面	f10	土坑	不明	
SK23	第2面	a14~ b14	土坑	不明	
SK24	第2面	b14	土坑	不明	
SK25	第2面	b14	土坑	不明	
SK26	第2面	b14	土坑	不明	
SK27	第2面	b14	土坑	不明	
SK28	第2面	c13	土坑	不明	
SK29	第2面	c13	土坑	不明	
SD30	第2面		溝	中世前期	
SD31	第2面	a13~ d12	溝	中世後期	
SK32	第2面	e2	土坑	中世後期	
SZ33	第2面	e0	不明	中世後期	
SK34	第2面	e	土坑	中世後期	
SA35	第2面	e0	石列	中世後期	
SK36	第2面	e0	土坑	中世後期	
SK37	第2面	e	土坑	中世前期	
SK38	第2面	e	土坑	中世後期	

第2表 遺構一覧表



第25図 SA 10・19平面図及び立面図 (S = 1 : 20)

IV 遺物

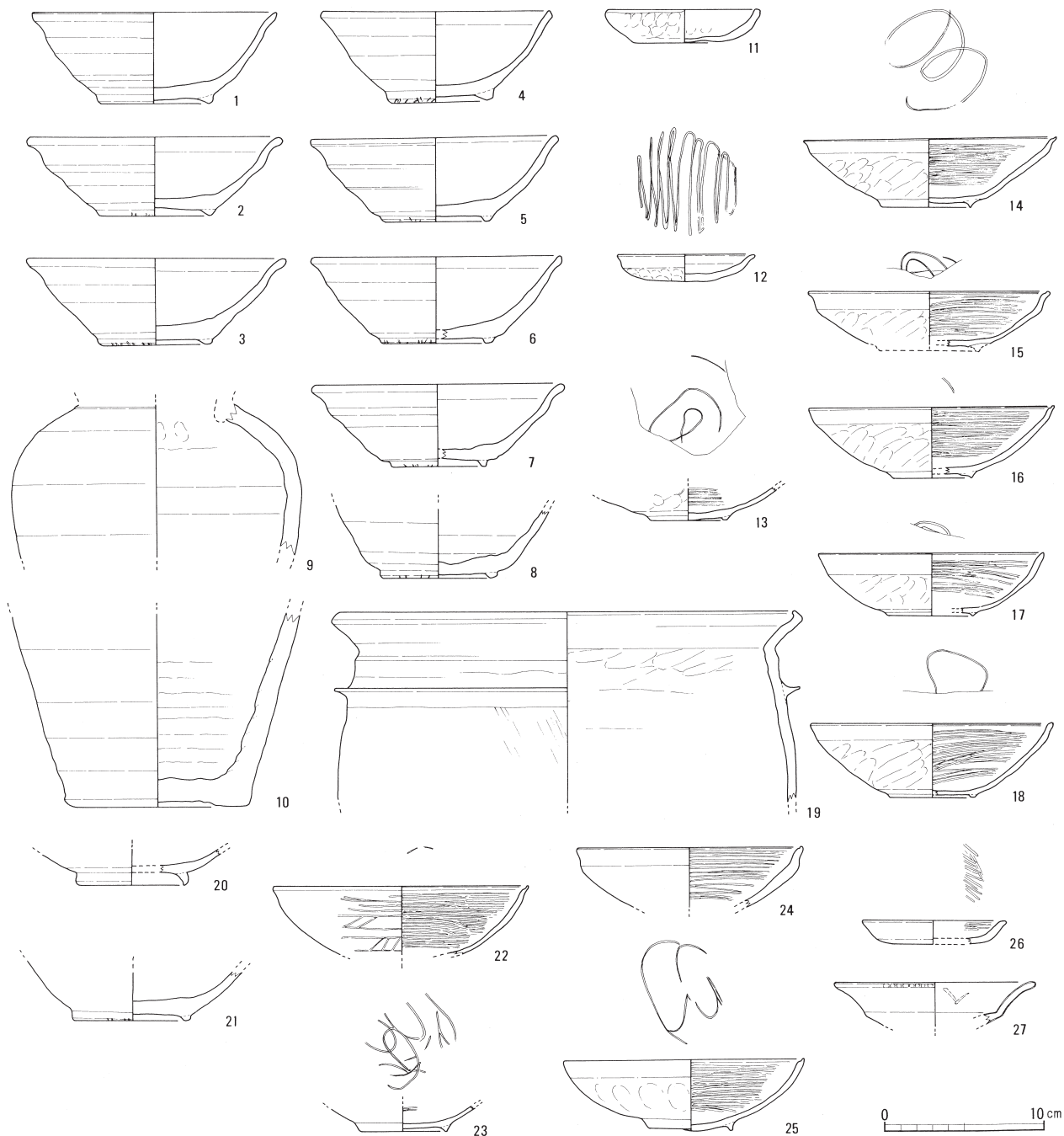
出土した遺物の総量は、コンテナボックスに約80箱である。鎌倉時代から近世・近現代のもので、大半が室町時代に属するものである。以下、出土した遺構ごとに概略を述べる。

SK37出土（1～19）

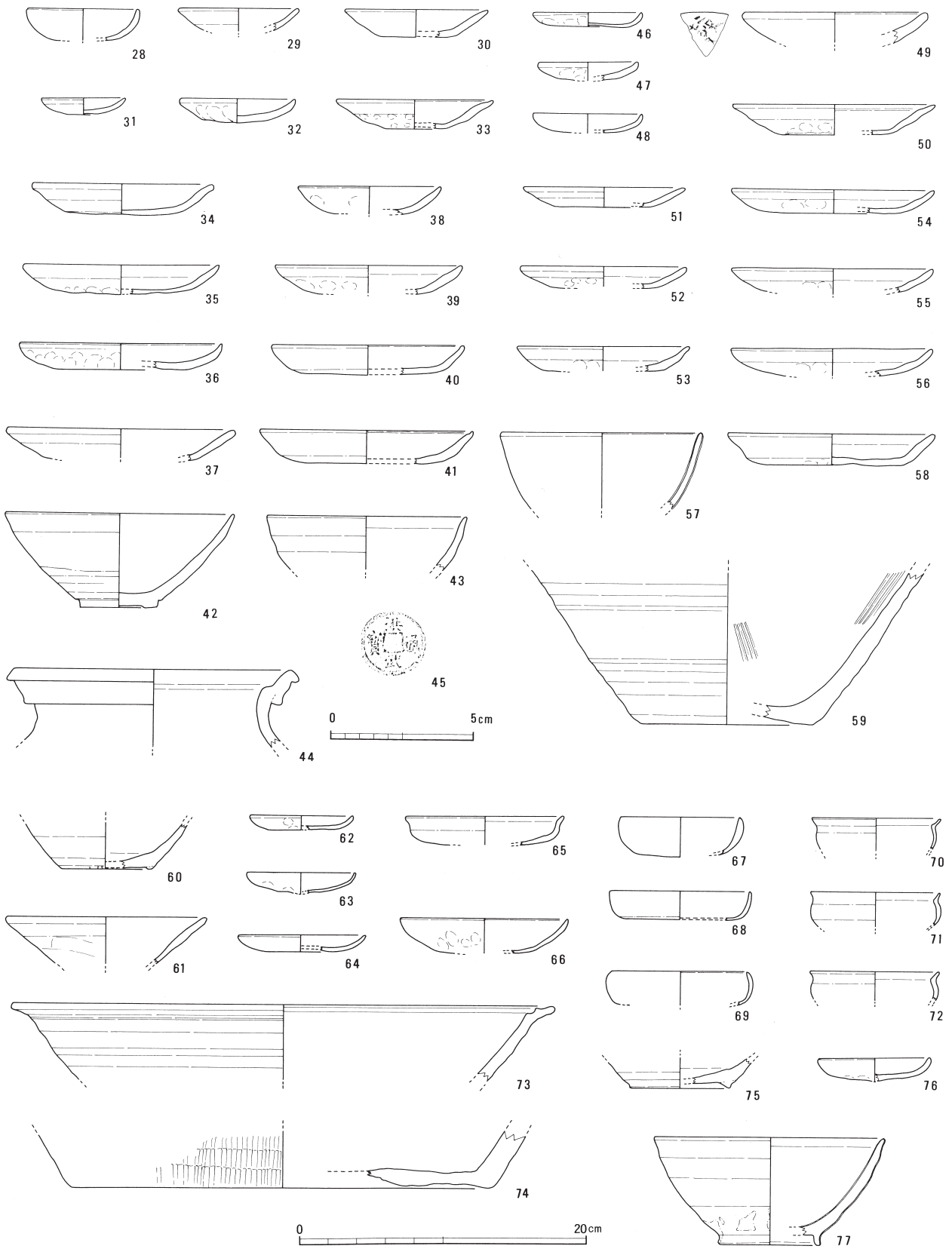
無釉陶器 1～8は山茶碗である。1～3は高台が三角形状を呈するが、その他は台形状につぶれ、貼

付け位置も楕円形である。高台にはモミガラ痕が残るものもある。藤澤氏の編年では第5型式に相当する^①。9・10は壺である。9は肩部のみ、10は底部のみ残存し、いずれも自然釉が付着している。

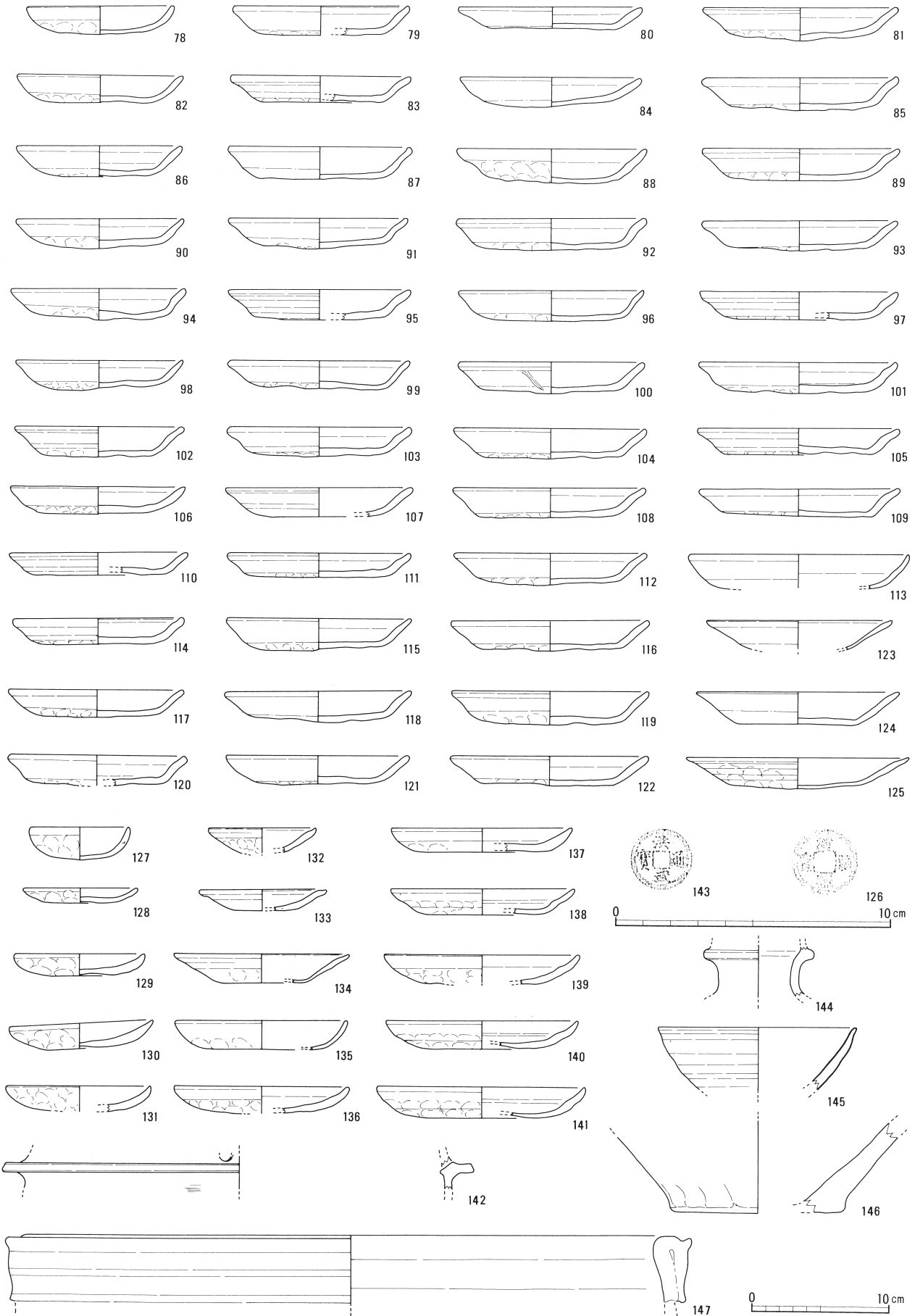
土師器 11は南伊勢系の皿、19は鍋である。19は口縁やや下方に短い鑿をもち、体部外面には煤が付着している。



第26図 出土遺物実測図（1）SK37・SD30（S=1：4）



第27図 出土遺物実測図(2) S B39・40・41・42・43・44 (S=1:4)



第28図 出土遺物実測図(3) SK3・4 (S=1:4)

瓦器 12は皿、13～18は椀である。12は体部内面のみに横方向のミガキを施した後、暗文状にジグザグのミガキを施す。13～18も体部内面にのみミガキが施され、その後螺旋状に暗文が施される。山田氏の編年では、Ⅲ段階1型式に相当しよう^②。

S D 30出土 (20～27)

無釉陶器 20・21は山茶椀である。21は底部外面に墨書らしき形跡があるが、破片であるため、文字・記号のどちらであるかは判別できない。いずれも藤澤編年の第5型式に相当しよう。

瓦器 22～25は椀、26は皿である。22は体部内外面にミガキが施され、内面見込みに暗文が施されている。23～26は体部内面のみに横方向のミガキが施され、23・25は内面見込みに螺旋状、26はジグザグ状の暗文が施されている。山田編年によれば、22はやや古いⅡ-4型式、その他はⅢ-1型式に相当しよう。

S B 39～44出土 (28～77)

土師器 28～41、46～56、58、61～69、76は皿、70～72はミニチュアの鍋である。64・67～69は南伊勢系、30・33・50・51は畿内系、その他は中北勢系である。28は南伊勢系を模倣したものか^③。49には外面に『二貫七百文』と墨書される。

施釉陶器 42は古瀬戸平椀、43は天目茶椀、73は古瀬戸の折縁深皿である。藤澤氏の編年によれば、後Ⅱ～Ⅲ期に相当する^④。44は甕、59は播鉢で、いずれも信楽産と思われる。

その他 74は石鍋である。体部外面に成形時の工具痕が残る。45は銭貨「洪武通宝」である。裏面は無文である。

S K 3出土 (78～126)

土師器 78～125は皿である。123～125は畿内系、それ以外は中北勢系である。

銭貨 126は遺存状態が悪く、銭文があるものの肉眼では判別できない。

S K 4出土 (127～147)

土師器 127～141は皿、142は羽釜である。135は南伊勢系、132～134は畿内系、それ以外は中北勢系である。127は南伊勢系を模倣したものであろう。

施釉陶器 144は瓶子、145は平椀で、ともに古瀬戸期のものであろう。147は常滑産の甕の口縁部であ

る。中野編年では9～10型式に相当する^⑤。

銭貨 143は銭貨「洪武通宝」である。

S K 8出土 (148～206)

土師器 148～197は皿である。148～189は中北勢、190～197は畿内系である。198は南伊勢系の鍋、199はミニチュア鍋である。

輸入陶磁器 200は龍泉窯系の青磁器椀で外面に錦蓮弁文が施されている。森田氏の分類によれば、I-5類に相当しよう^⑥。

施釉陶器 201は信楽焼の播鉢である。202は古瀬戸平椀であり、古瀬戸後期のものであろう。

瓦質土器 203・204は瓦質土器である。203は浅鉢形の火鉢、204は香炉であろう。203は体部を内彎させ、肩部外面には2条の突帯が巡り、その間に花菱文が連続してスタンプされている。菅原氏の分類では浅鉢型火鉢CもしくはD型に相当する。204は三足で、体部外面に雲気文がスタンプされている。分類ではC型に相当しよう^⑦。

S K 9出土 (207～228)

土師器 207～222は皿である。207～208、214～222は南伊勢系、210～213は畿内系である。

陶器 223・224は山皿である。混入品の可能性が高い。225～228は古瀬戸の折縁中皿・深皿である。226は断面に漆が塗られ、補修された形跡がうかがえる。中Ⅳ～後Ⅱ期に相当しよう。229は無釉の鉢である。体部外面下半にケズリがみられる。

S K 14出土 (230～248)

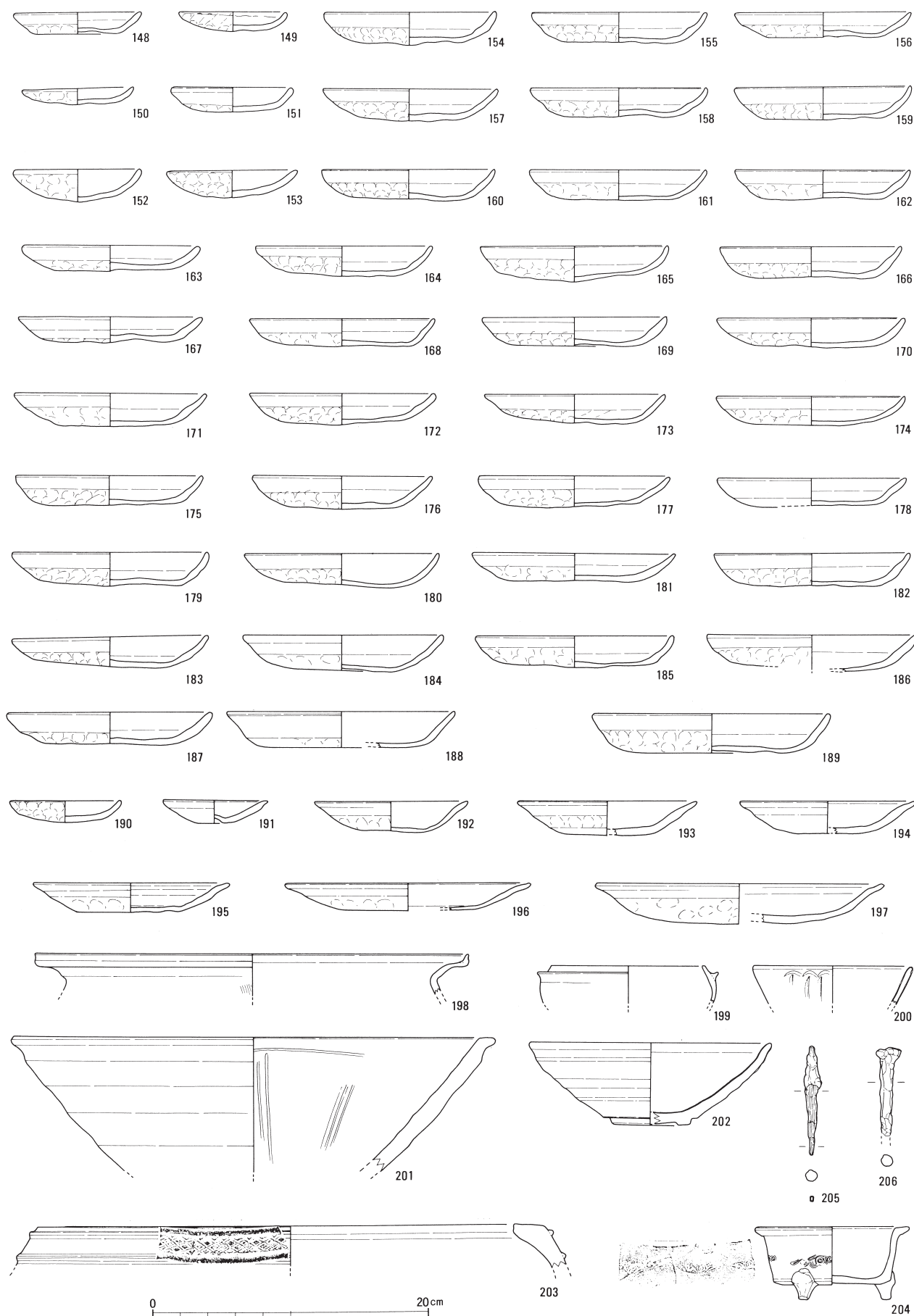
土師器 230～233は皿である。230は畿内系のへそ皿、232～233は南伊勢系の皿である。

陶器 234は古瀬戸平椀であろう。236は菊花皿と思われる。237は柄付製品の柄の根元の部分であろう。いずれも古瀬戸期のものと思われるが、詳細は不明である。238は浅椀、242は折縁深皿と思われる。いずれも後Ⅱ～Ⅲ期にかけてのものである。239～241は信楽産の播鉢である。木戸氏の編年では、B類に相当すると思われる^⑧。

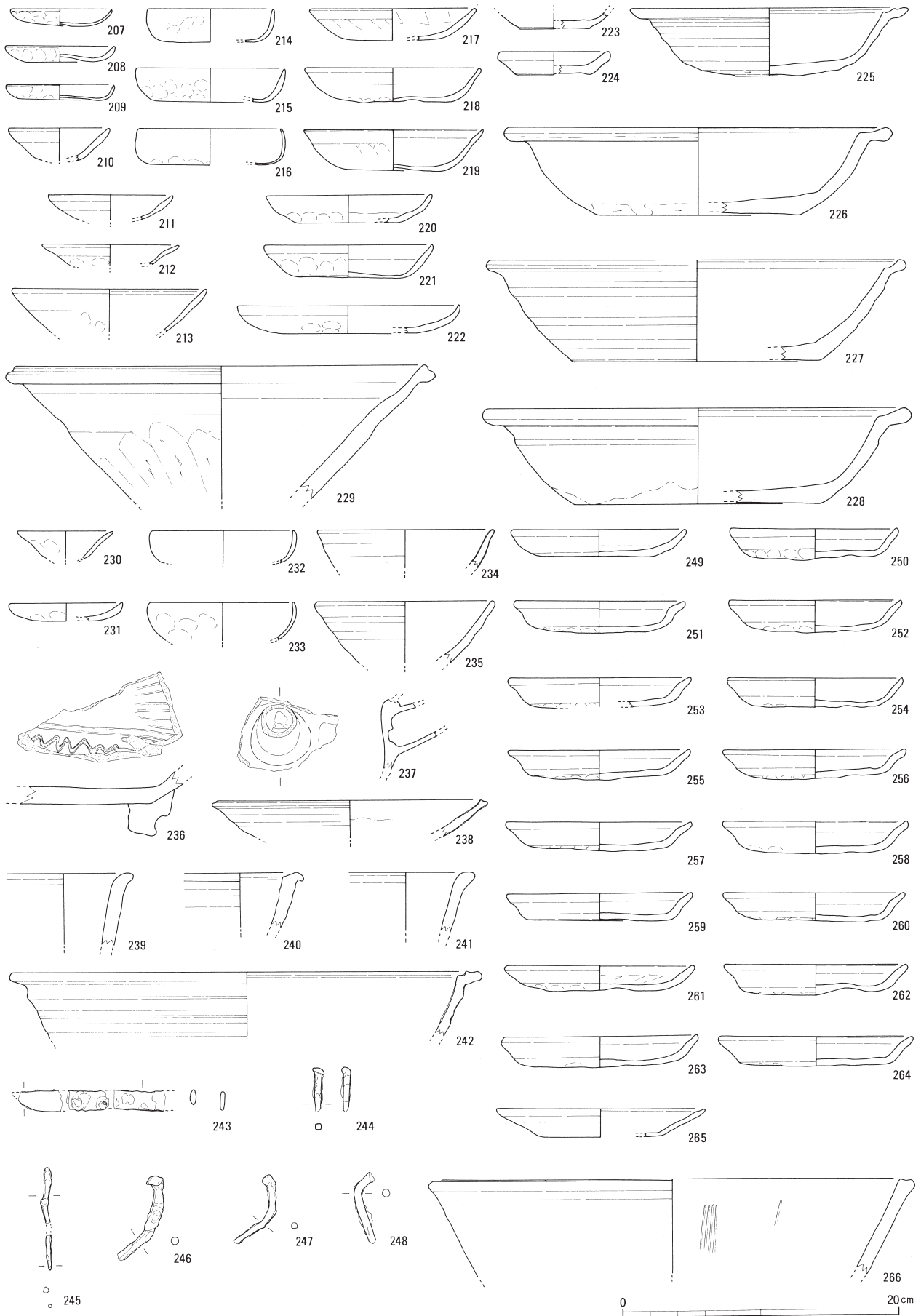
金属製品 243～248は鉄製品である。243は小刀、その他は釘であろう。

S K 22出土 (249～266)

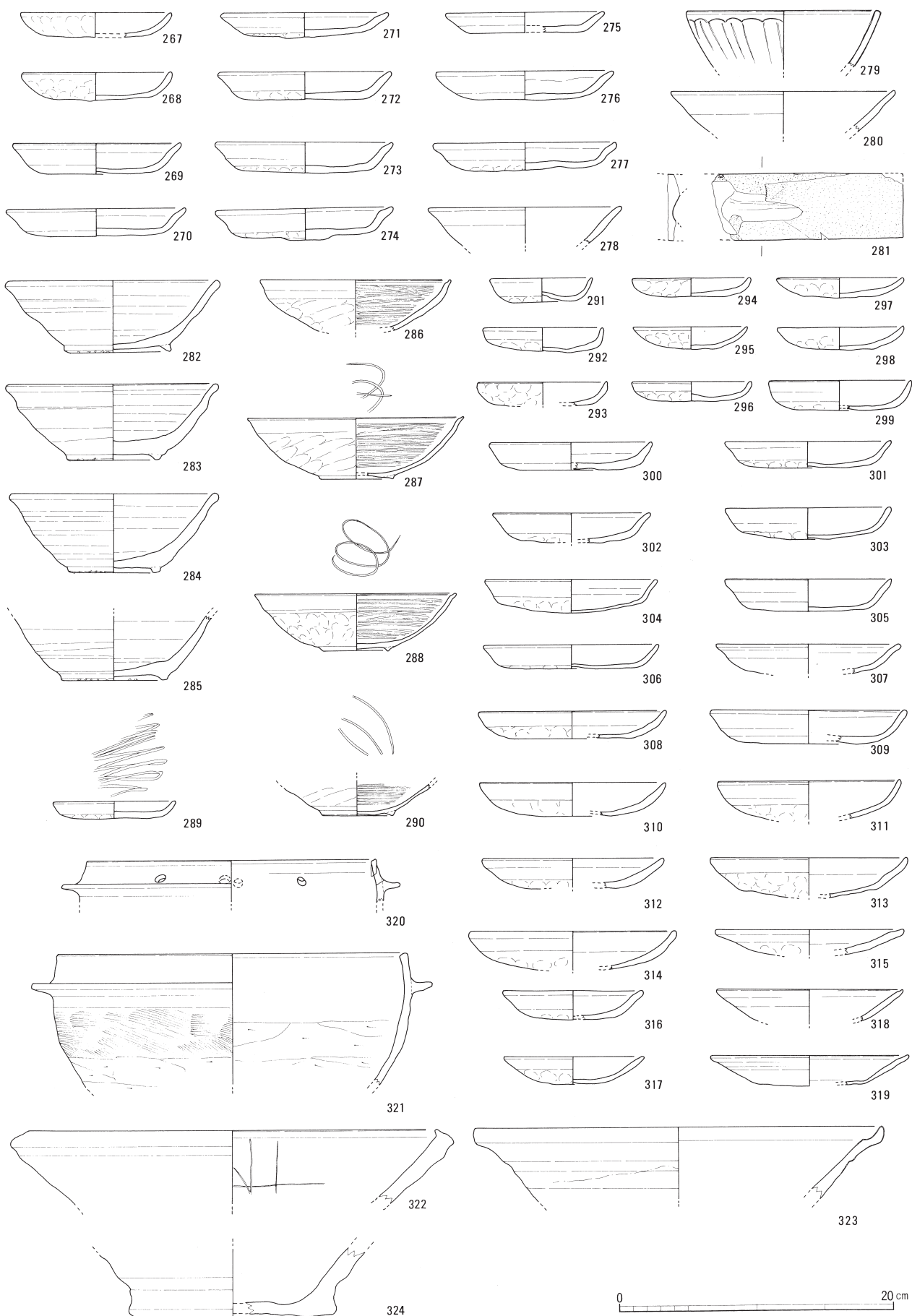
土師器 249～264は中北勢系、265は畿内系の皿である。



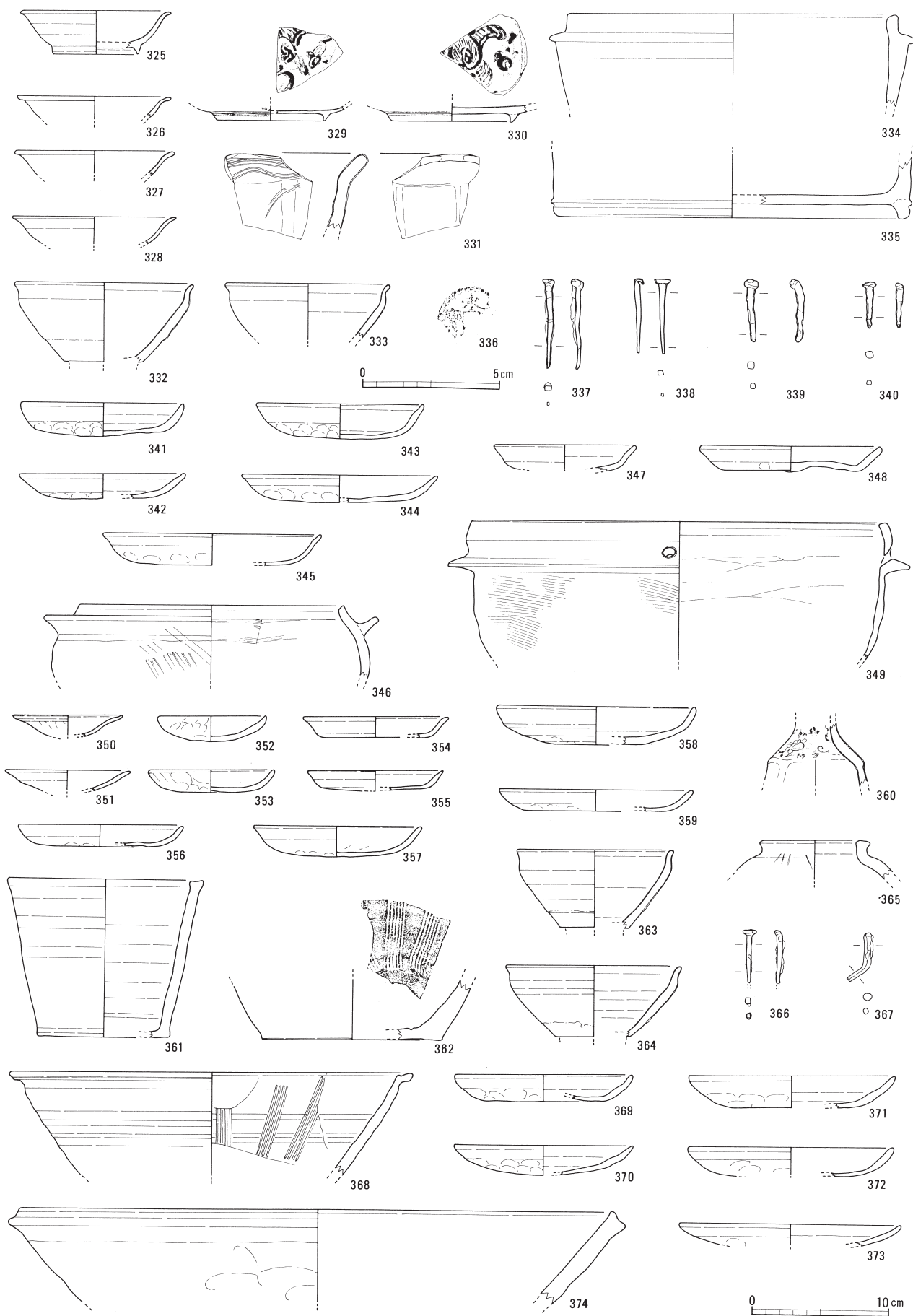
第29図 出土遺物実測図(4) SK8 (S=1:4)



第30図 出土遺物実測図(5) SK 9・14・22 (S=1:4)



第31図 出土遺物実測図(6) SK32・34 (S=1:4)



第32図 出土遺物実測図(6) SK34・38・SZ33・SA35 (S=1:4)

陶器 266は信楽産の播鉢である。播り目の単位は4条を1単位とし、木戸氏の編年では、B 4類に相当する。15世紀後半のものと考えられる。

S K 32出土 (267~281)

土師器 267~278は皿である。267~277は中北勢系、278は畿内系である。

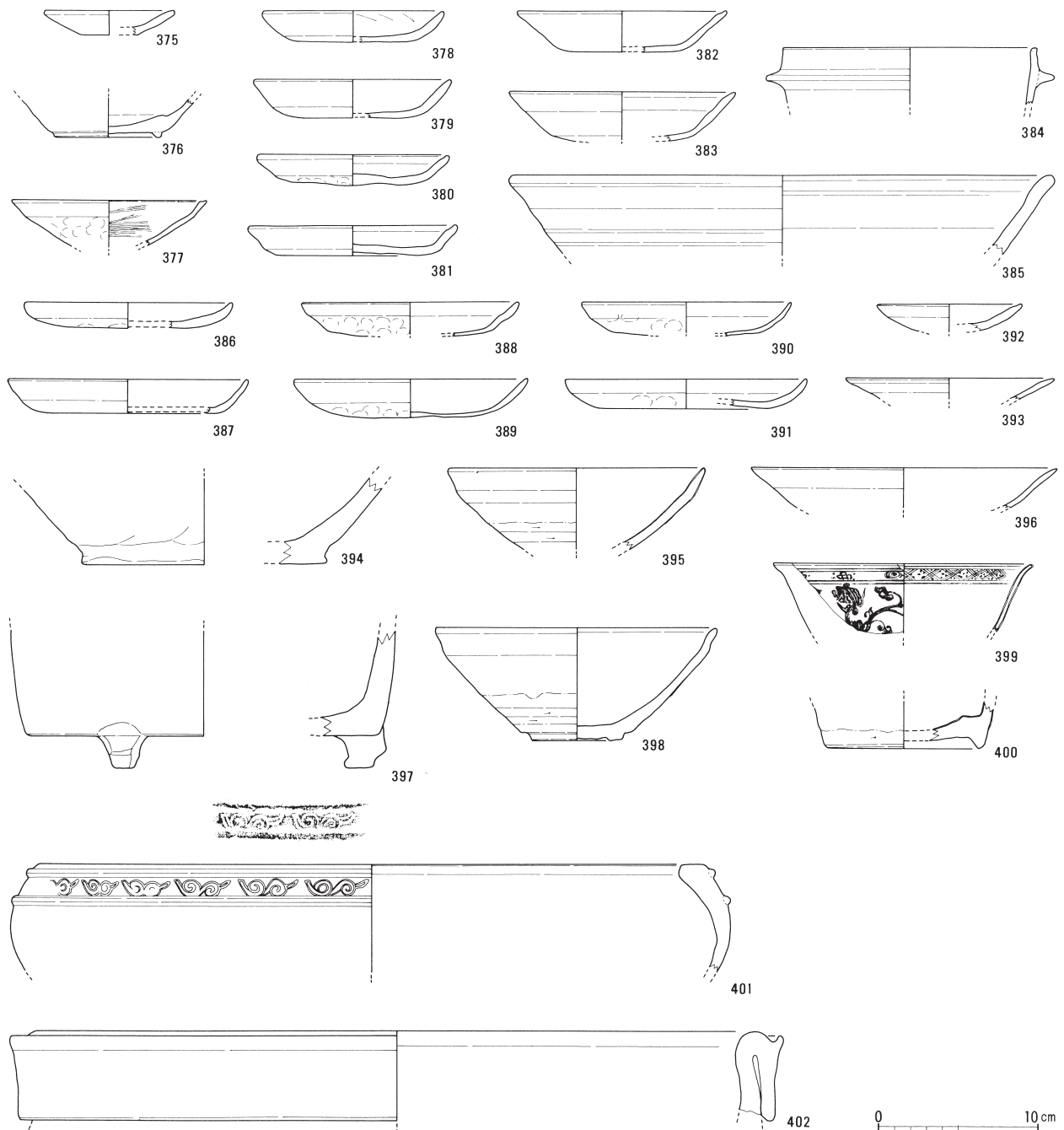
輸入陶磁器 279は龍泉窯系の青磁椀で、体部外面に鎬蓮弁文が施される。森田編年では、Ⅲ類に相当しよう。

その他 280は施釉陶器の平椀である。瀬戸大窯期のものと思われる。281は石製の硯である。

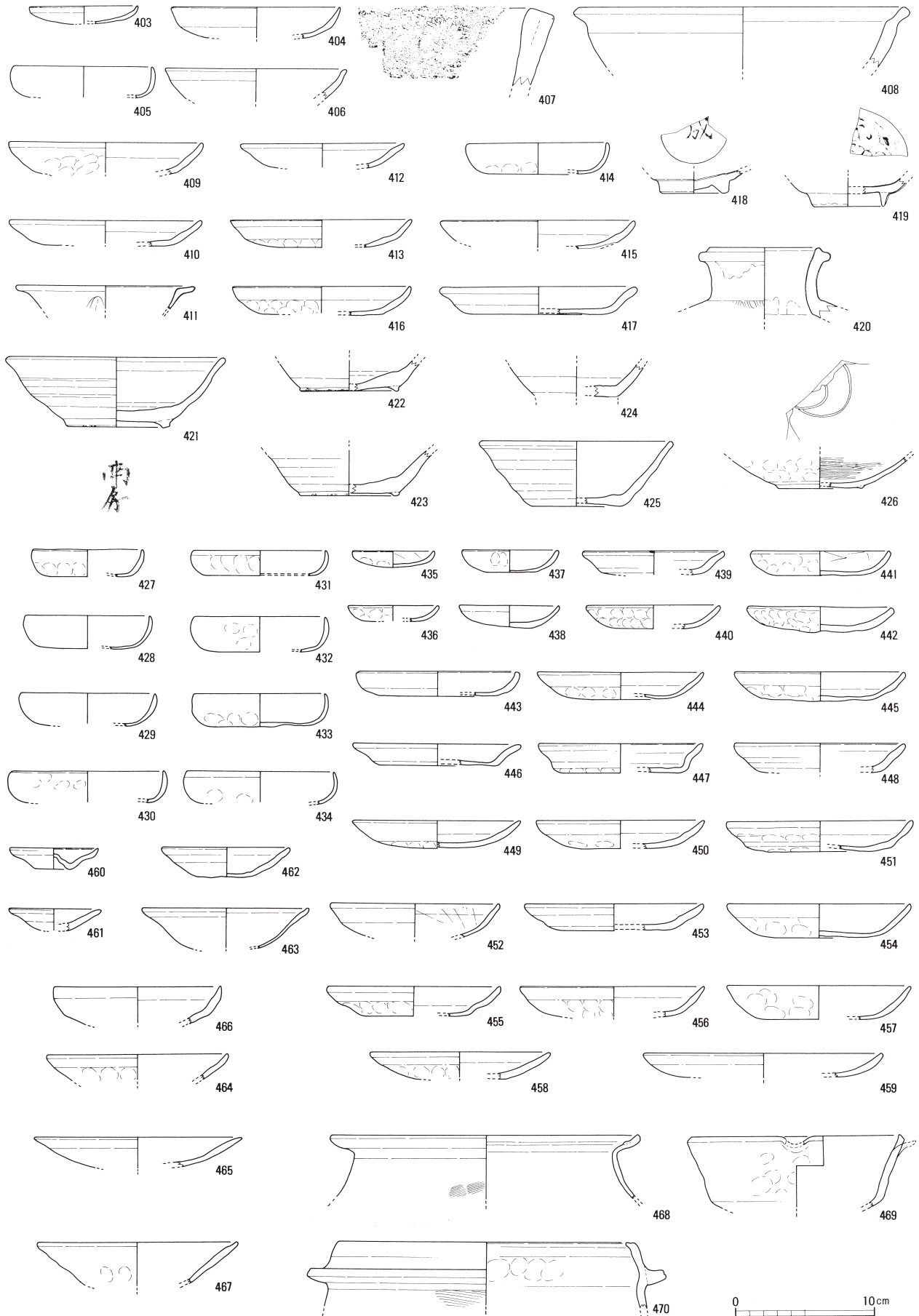
S K 34出土 (282~340)

無釉陶器 282~285は山茶椀である。高台部にはモミガラ痕が残る。藤澤氏の編年では第5型式に相当しよう。

瓦器 289は皿、286~288・290は椀である。内面見込みにジグザグあるいは螺旋状に暗文が施される。山田編年ではⅢ-1型式に相当する。



第33図 出土遺物実測図(8) S D11・31 (S = 1 : 4)



第34図 出土遺物実測図(9) その他のSK・小穴(S=1:4)

土師器 291～319は皿、320・321は羽釜である。294・295・297・317は南伊勢系、307・315・318・319は畿内系、その他は中北勢系である。291はへそ皿であるが、畿内産のへそ皿を模倣したものと思われる。320は鐙のすぐ上に2個1対の穴があいている。321には体部に煤が付着している。いずれも中北勢系のものである。

施釉陶器 322・324は練鉢である。常滑産と思われる。323は古瀬戸の折縁深皿、332・333は天目茶椀である。

輸入陶磁器 325～328は白磁皿である。いずれも口縁が外反する端反り皿で森田氏の分類では、E 2類に相当する。使用状況は16世紀代を中心としたものであるが、15世紀半ばには成立していたと考えられている。329・330は青花染付の皿である。胴部外面には界線、内面見込みには玉取獅子文が施される。329は火を受けた形跡がある。小野氏の分類では染付皿B 1類に相当する。明代のものと考えられる⁹⁾。331は青磁の菊皿か。

瓦質土器 334・335は瓦質土器である。334は経筒型、335は円形の深鉢形火鉢と思われる。

金属製品 336は銭貨「永楽通宝」か。337～340は鉄釘である。

S K 21出土 (341～346)

土師器 341～345は中北勢系の皿、346は中北勢系の羽釜である。

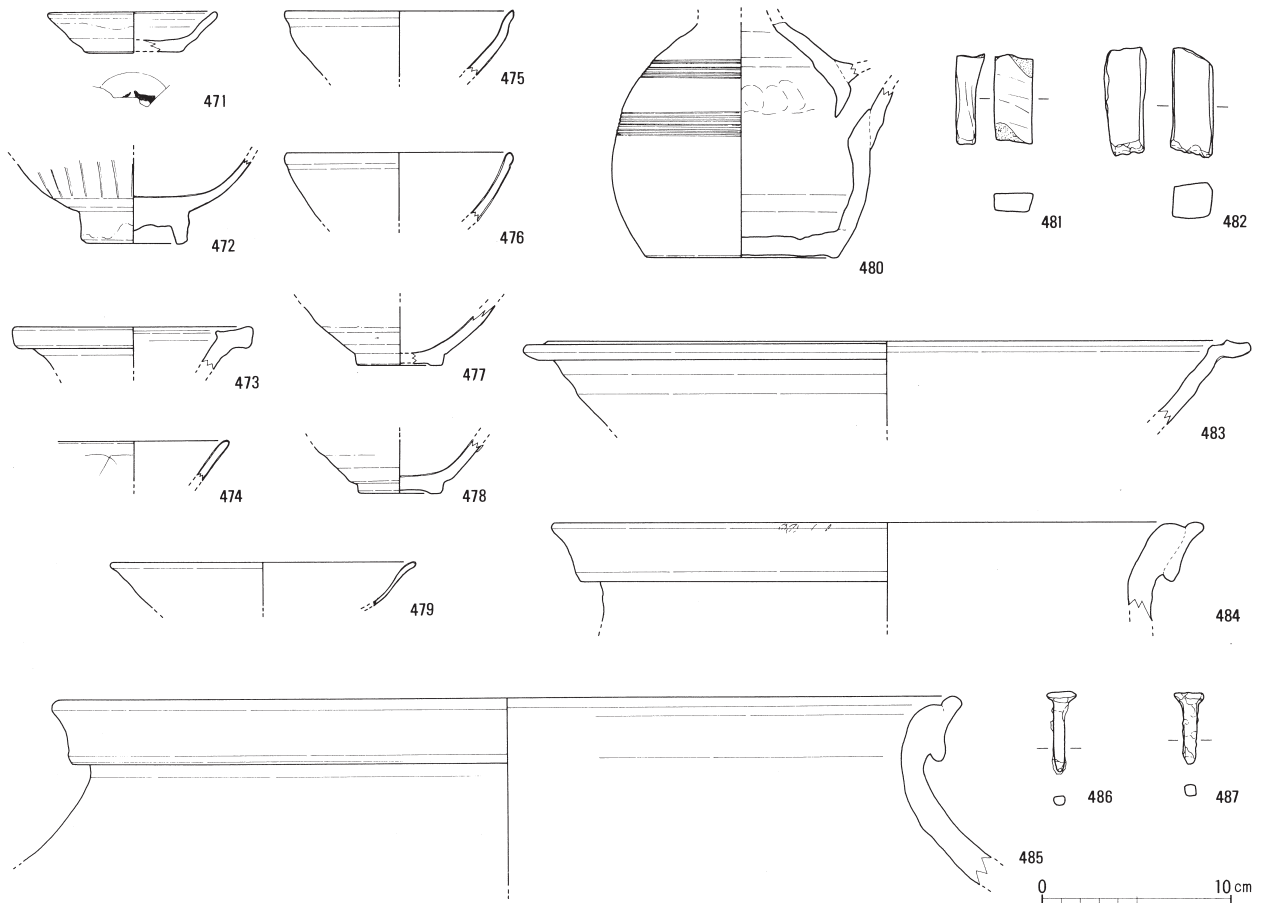
S K 38出土 (347～349)

土師器 347・348は中北勢系の皿、349は中北勢系の羽釜である。焼成前穿孔の円孔が1個確認できる。おそらく2個1対あったと思われる。

S Z 33出土 (350～367)

土師器 350～359は皿である。350・351は畿内系、355は南伊勢系、その他は中北勢系である。

その他 360は染付の瓶であろうか。外面に菊と思われる花文が描かれている。361は陶器鉢、362は信楽産の播鉢である。6条1単位の播り目が施され、木戸氏の編年ではB 6類、16世紀後葉のものとは比定されている。363・364は天目茶椀である。365は瓦



第35図 出土遺物実測図 (10) 小穴 (S = 1 : 4)

質土器で、壺の口縁部と見られるが小片のため不明である。366・367は鉄釘である。

S A 35出土 (368~374)

土師器 369~373は中北勢系の土師器皿である。

その他 368は信楽産の播鉢で、4条1単位の播り目が施されている。木戸氏の編年ではB 4類に相当する。374は常滑産の鉢である。中野編年で10型式に相当しよう。どちらも15世紀後半のものであろう。

S D 11出土 (375~385)

土師器 378~383は皿、384は羽釜である。382・383は畿内系、その他は中北勢系のものである。

その他 375は山皿、376は山茶椀、377は瓦器椀である。いずれも、混入品もしくはS D 30の遺物の可能性が高い。385は陶器の鉢である。

S D 31出土 (386~402)

土師器 386~393・396は皿である。390は南伊勢系、392・393・396は畿内系、その他は中北勢系のものである。

施釉陶器 394は常滑産の鉢、395・398は古瀬戸平椀、402は常滑産の甕の口縁部である。中野氏の編年では、9型式に相当しよう。

輸入陶磁器 399は青花染付椀である。外面口縁部

には界線、体部には唐草文が、内面口縁部には四方禪文が描かれている。中国明代のものと思われ、小野氏の分類では染付椀B群に相当する。

瓦質土器 397・401は瓦質土器である。401は浅鉢形の火鉢で、口縁部外面に2条の突帯を貼付け、その中に雲気文スタンプが等間隔に施される。

その他のS K出土 (403~420)

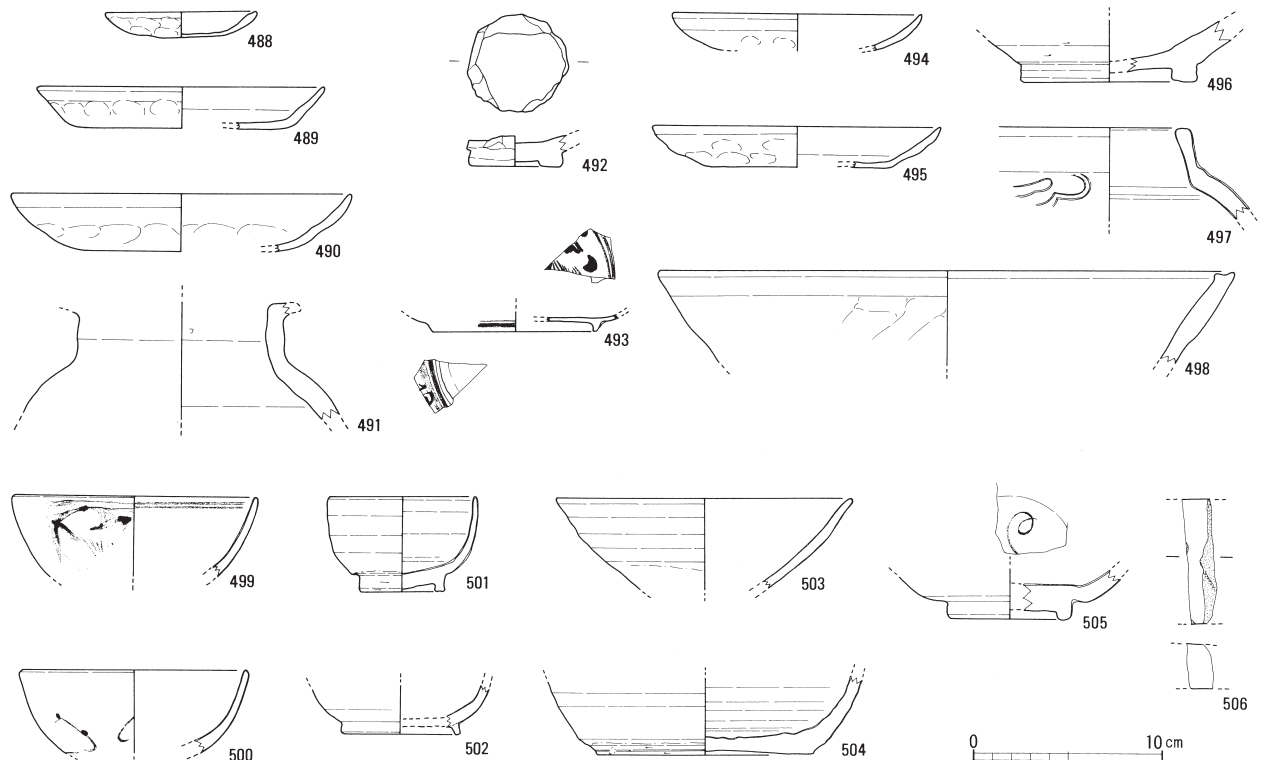
403~408はS K 5、409~411はS K 7、412・413はS K 12、414・415はS K 13、416はS K 16、417はS K 17、418はS K 6出土である。

土師器 403~406・409・410・412~417は皿である。403~405・414は南伊勢系、その他は中北勢系である。

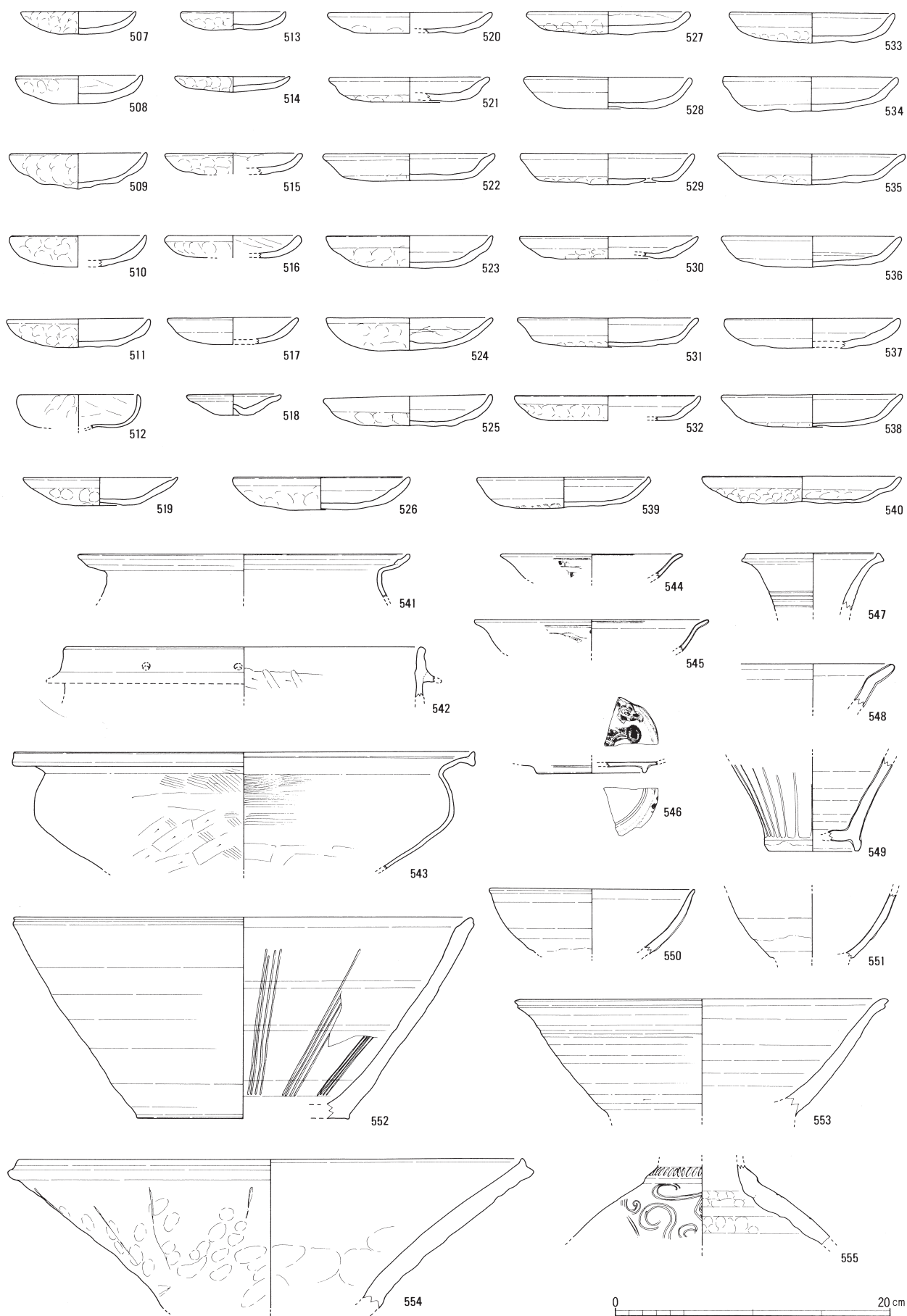
瓦質土器 407は瓦質土器の浅鉢であろう。内面に菊花文がスタンプされている。小片のためはっきりをは分からないが、方形の可能性もある。

輸入陶磁器 411は龍泉窯系の青磁椀で外面に鎬蓮弁文が施される。418は白磁の皿であろうか。内面見込みに「成」の文字が陰刻されている。419は染付の皿で、明代のものであろう。

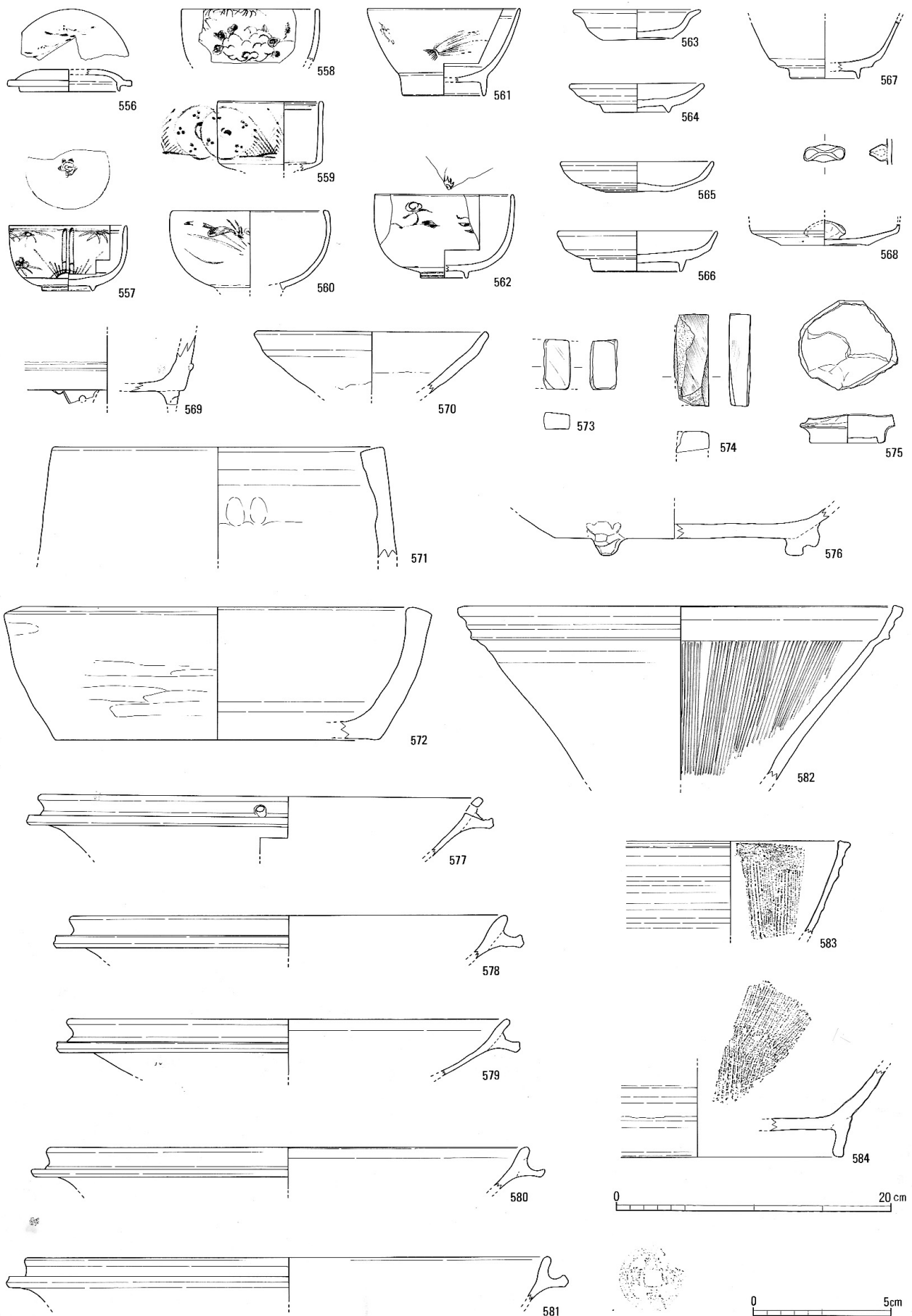
施釉陶磁器 408は陶器の椀である。420は古瀬戸の瓶子である。頸部付け根に模様が施されているが、



第36図 出土遺物実測図 (11) S A 10・19・その他の近世遺構 (S = 1 : 4)



第37図 出土遺物実測図 (12) 包含層 (S = 1 : 4)



第38図 出土遺物実測図 (13) 包含層 (S = 1 : 4)

小片のため詳細は不明である。

小穴出土 (421~487)

無釉陶器 421~425は山茶碗である。421の外部底面には「南房」の墨書が残っている。471は山皿である。底部外面には墨書が認められるが、小片のため内容は判別できない。いずれも藤澤編年の第5~6型式に相当しよう。

瓦器 426はいぶしが不十分ではあるが、碗である。内面見込みに螺旋状の暗文が施される。山田編年では第Ⅲ段階第2型式に相当すると思われる。

土師器 427~467は皿である。427~434・437・455は南伊勢系、460~465・467は畿内系、それ以外は概ね中北勢系であろう。460・461はへそ皿である。468は南伊勢系の鍋で伊藤氏の編年で第3段階に相当する。470は羽釜である。大和からの搬入品の可能性がある。

施釉陶器 472は碗、473は瓶子、475・477・478は天目茶碗、483は折縁深皿である。いずれも古瀬戸後期のもものと見られる。477・478は内反り高台で高台部は露胎である。480は水注である。体部には横線文が施されている。口縁部及び注口部が欠損しており、詳細な時期は不明だが、古瀬戸中期まで遡る可能性がある。

輸入陶磁器 474・476は青磁碗で、474には外面に蓮弁文が施される。479は白磁の皿であろう。森田氏の分類ではE2類に相当する。

S A 10・19出土 (488~498)

土師器 488~490、494・495は中北勢系の皿である。いずれも中世の混入品であろう。

その他 493は明代の染付である。内外面に染付が施されているものの小片のため文様は不明である。

[註]

- ① 山茶碗・山皿の編年は下記の文献を参考にした。
藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第三号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)
- ② 瓦器の編年は下記の文献による。
山田猛「伊賀の瓦器に関する若干の考察」(『中近世土器の基礎研究Ⅱ』、日本中世土器研究会、1986年)
- ③ 土師器皿の詳細な分類については後述するので、ここでは大まかな系統を表記するにとどめた。「南伊勢系」・「中北勢系」は伊藤裕偉氏の分類に従っている。

492は陶器の高台部分を利用した加工円盤である。高台部には鉄錆釉が施される。

その他近世遺構出土 (499~506)

施釉陶器 499~504は陶器の碗である。499・500は外面に染付がある。505は龍泉窯系の青磁碗である。内面見込みにヘラガキの文様が施される。506は砥石である。

包含層出土遺物 (507~585)

土師器 507~540は皿である。512・513・539は南伊勢系、518は畿内系へそ皿、519は畿内系、その他は中北勢系である。541・543は南伊勢系の鍋、542は中北勢系の羽釜である。

輸入陶磁器 544~546は明代の染付皿である。544・545は口縁部に界線が、546は内面見込みに玉取獅子文が描かれる皿で、いずれも小野氏の分類でB1類に相当する。547~549は青磁である。547・549は壺、548は大皿であろう。

施釉陶磁器 550・551は天目、552~554は鉢である。555は古瀬戸瓶子の肩部であろう。頸部には刻み目、体部外面には渦巻き状の文様が施される。552は内面に4条1単位の挿り目が施される、信楽産のものである。木戸氏分類のB4類に相当する。554は常滑産の練鉢で、なぜか外面に1条1単位のクシ目が施される。同様の遺物は芸濃町下川遺跡で出土している^⑩。

焙烙 577~581は瓦質の焙烙である。短く厚い罫をもち、罫のすぐ上に穿孔が施されるものもある。体部外面には使用による煤が付着している。県内では安濃川流域の遺跡を中心に出土が知られており、流通圏は陸路を中心とした津市周辺が想定されている^⑪。

「畿内系」に関しては明らかに当地域で生産されたものではなく、京都・大和からの搬入品と思われるものを総称している。

伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」(『研究紀要』第八号、三重県埋蔵文化財センター、1999年)

- ④ 古瀬戸の編年は下記の文献を参考にした。
藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ - 古瀬戸後期様式の編年 -」(『研究紀要X』、瀬戸市歴史民俗資料館、1991年)

⑤ 常滑焼の編年は下記の文献を参考にした。

中野晴久「生産地における編年について」(『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム資料集 古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その生産と流通—』、財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター、1996年)

⑥ 青磁・白磁については下記の文献によった。

森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」(『大宰府陶磁器研究—森田勉氏遺稿集』、森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会、1995年)

⑦ 信楽焼の編年は下記の文献を参考にした。

木戸雅寿「信楽」(『概説 中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会、1995年)

⑧ 瓦質土器の分類は下記の文献を参考にした。

菅原正明「西日本における瓦器生産の展開」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第19集、国立歴史民俗博物館、1989年)

佐藤重聖「大和における瓦質土器の展開と画期」(『中近世土器の基礎研究X I』、日本中世土器研究会、1996年)

⑨ 青花染付の分類は下記の文献による。

小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」(『貿易陶磁研究』No.2、日本貿易陶磁研究会、1982年)

⑩ 倉田直純「下川遺跡」(『伊勢寺廃寺・下川遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター、1990年)

⑪ 本堂弘之「津市周辺の瓦質焙烙について」(『研究紀要』第八号、三重県埋蔵文化財センター、1999年)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器種	法量 (cm)			焼成	胎土	色調		残存度	産地 分類	備考
						口径	器高	その他							
1	033-06	f0	SK37		無釉陶器 椀	15.0	5.7		並	やや粗	灰白色	7.5Y7/1	1/4	知多	山茶椀
2	033-03	f0	SK37	8	無釉陶器 椀	16.0	4.9		並	やや粗	灰白色	5Y7/1	1/2	猿投?	山茶椀
3	034-01	f0	SK37		無釉陶器 椀	16.0	5.5		並	やや粗	灰黄色	2.5Y7/2	1/6	知多	山茶椀 内外面一面に煤付着
4	033-02	f0	SK37		無釉陶器 椀	15.0	5.7		並	やや粗	灰白色	7.5Y7/1	完存	猿投?	山茶椀 未使用
5	033-01	f0	SK37		無釉陶器 椀	15.5	5.3		並	やや粗	灰黄色	2.5Y7/2	1/2	知多? 猿投?	山茶椀
6	033-04	f0	SK37	5	無釉陶器 椀	16.0	5.5		並	やや粗	灰白色	7.5Y7/1	1/2	猿投?	山茶椀 未使用
7	033-05	f0	SK37		無釉陶器 椀	16.0	5.2		並	やや粗	灰白色	5Y7/1	1/2	猿投?	山茶椀 未使用
8	034-02	f0	SK37		無釉陶器 椀			底径 7.0	並	やや粗	灰黄色 灰色	2.5Y7/2 7.5Y4/1	1/2	知多? 猿投?	山茶椀
9	036-03	f0	SK37		無釉陶器 壺				良	密	灰白色	5Y7/1	小片	渥美	
10	031-01	f0	SK37	7	無釉陶器 壺			底径 11.5	良	密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	N8/0 10Y5/2	底部 完存	渥美	
11	032-01	f0	SK37	9	土師器 皿	9.7	2.1		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/4	2/3	中北勢	
12	035-06	f0	SK37		瓦器 皿	8.4	1.8		並	やや密	灰色	N6/0	完存		ジグザグ状暗文有り
13	035-05	f0	SK37		瓦器 椀			高台径 4.7	並	やや密	灰色	N5/0	底部 完存		螺旋状暗文有り
14	031-03	f0	SK37	6	瓦器 椀	15.6	4.4	高台径 5.6	良	密	灰色	N5/0	1/2		螺旋状暗文有り 内面に漆?付着
15	035-03	f0	SK37		瓦器 椀	15.0			並	やや密	灰色	N4/0	1/4		螺旋状暗文有り
16	031-02	f0	SK37	6	瓦器 椀	15.5	4.4	高台径 5.0	良	密	灰色	N5/0	1/2		
17	035-04	f0	SK37		瓦器 椀	14.1	3.9		並	やや密	灰白色 灰色	5Y7/1 N5/0	1/4		暗文
18	035-02	f0	SK37		瓦器 椀	15.0	4.6	高台径 5.3	並	やや密	灰色	N4/0	1/2		暗文
19	030-02	f0	SK37	4	土師器 羽釜	29.0		ツバ径 29.0	並	やや粗	にふい橙色	7.5Y7/4	1/6		
20	045-05		SD30		陶器 椀			底径 6.7	良	密	灰黄色	2.5Y7/2	1/8		山茶椀
21	046-01		SD30		陶器 椀			底径 7.2	良	やや粗	灰白色	5Y7/3	底部 完存		山茶椀 墨書『の』?あり
22	046-04		SD30		瓦器 椀	15.6			並	密	灰色	N4/0	1/6		
23	045-02		SD30		瓦器 椀			底径 5.5	良	密	灰色	N4/0	底部 2/3		螺旋状暗文有り
24	045-03		SD30		瓦器 椀	14.0			良	密	灰色	N4/0	1/8		
25	045-01		SD30		瓦器 椀	15.0	4.5		良	密	灰色	N4/0	1/2		螺旋状暗文有り
26	045-06		SD30		瓦器 皿	9.0	1.4		並	密	灰白色	2.5Y8/2	1/8		
27	107-07	d6	SD30		磁器 皿	12.0			良	密	灰白色 灰白色	10Y7/2 7.5Y8/1	1/10	龍泉?	青磁
28	089-05	e2	SB39 p3		土師器 皿	8.0			並	やや密	浅黄色	2.5Y7/3	1/7	中北勢	南伊勢系模倣?
29	087-02	f4	SB40 p3		磁器 皿	8.2			良	密	灰白色	7.5Y8/1	1/4	畿内	白磁
30	100-07	e6	SB40 p6		土師器 皿	10.0	1.9		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3		口縁部油煙付着
31	087-04	e3	p2		土師器 皿	5.8	1.1		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4		
32	086-05	f4	SB40 p2	4	土師器 皿	7.9	1.7		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	完存		
33	087-08	f4	SB40 p2掘形		土師器 皿	10.8	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4	1/5	畿内?	口縁部油煙付着
34	086-01	f4	SB40 p2	1	土師器 皿	12.4	2.1		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	中北勢	
35	086-03	f4	SB40 p2掘形		土師器 皿	13.4	2.1		並	やや密	灰白色 浅黄橙色	10YR8/2 10YR8/3	1/4	中北勢	
36	104-02	f3	SB40 p2		土師器 皿	13.0	1.8		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/8	中北勢	
37	087-05	f4	SB40 p2掘形		土師器 皿	15.6			並	やや粗	灰白色 にふい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	1/6	中北勢	
38	100-05	e6	SB40 p6		土師器 皿	10.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/2	1/6	中北勢	
39	097-03	e4	SB40 p10		土師器 皿	13.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/6	中北勢	
40	086-04	f4	SB40 p2	2	土師器 皿	13.2	2.1		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	中北勢	
41	086-02	f4	SB40 p2掘形		土師器 皿	14.7	2.3		並	やや密	灰白色 浅黄橙色	10YR8/2 10YR8/3	1/3	中北勢	
42	101-01	e6	SB40 p6		陶器 椀	15.8	6.5	高台径 5.2	並	やや密	灰白色 灰オリーブ色	2.5Y7/1 7.5Y6/2	底部 完存		
43	101-05	e5	SB40 p2掘形		陶器 椀	14.0			並	やや密	釉薬 灰白色 灰褐色 黒褐色	10YR8/2 7.5YR4/2 10YR2/2	小片		天目
44	088-03	e4	p3		陶器 壺	19.0			並	やや粗	暗赤褐色 にふい橙色	2.5YR3/4 5YR6/4	1/8	信楽	
45	114-05	e4	SB40 p10		銭貨							完存			洪武通宝
46	098-01	e5	SB42 p3		土師器 皿	7.6	1.1		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	2/3		

第3表 出土遺物観察表(1)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
47	100-04	e6	SB42 p1掘形		土師器 皿	7.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	小片		
48	100-03	e6	SB42 p1	2	土師器 皿	7.6			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4		
49	089-06	e6	SB40 p7		土師器 皿	13.0			並	密	浅黄橙色	10YR8/4	1/12		墨書「二貫七百文」?
50	091-03	d6	SB42 p11		土師器 皿	14.0	2.1		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	1/9	畿内	
51	091-04	d6	SB42 p13		土師器 皿	11.0	1.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/7	畿内	
52	090-01	e6	SB42 p11		土師器 皿	11.5	1.5		並	やや粗	浅黄色	2.5Y7/3	1/8		
53	099-08	e6	SB42 p1柱根2		土師器 皿	12.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	小片		
54	099-02	e6	SB42 p1		土師器 皿	14.0	1.6		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5		
55	099-03	e6	SB42 p1掘形		土師器 皿	14.0			並	やや密	橙色	5YR7/6	1/6		
56	099-04	e6	SB42 p5		土師器 皿	14.0			並	やや密	にふい橙色	7.5YR7/4	1/8		
57	101-03	e6	SB42 p5		青磁器 鉢	14.0	2.3		良	密	灰白色 オリーフ灰色	7.5Y7/1 10Y6/2	1/10		
58	099-01	e6	SB42 p1	1 3	土師器 皿	14.4	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	7/8		
59	044-02 -01	e6	SB42 p1掘形		陶器 搦鉢			底径 12.0	並	やや粗	にふい橙色	5YR6/4	1/5	信楽	
60	087-01	e7	SB43 p5掘形		陶器 鉢			底径 6.2	並	粗	灰白色	5Y7/1	底部 1/2		
61	090-06	e7	SB43 p3		土師器 皿	14.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/8		
62	091-02	e9	SB43 p2掘形		土師器 皿	7.0	1.0		並	やや粗	灰白色	10YR8/2	1/3		
63	090-04	e7	SB43 p3		土師器 皿	7.5	1.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4		
64	086-08	e7	SB43 p5掘形		土師器 皿	8.7	1.7		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	南伊勢?	
65	091-01	e9	SB43 p2掘形		土師器 皿	11.0			並	やや粗	橙色	7.5YR7/6	1/6		
66	090-03	e7	SB43 p5掘形		土師器 皿	12.0	2.5		並	やや粗	にふい黄橙色	10YR7/3	1/8		
67	086-06	e7	SB43 p5柱根		土師器 皿	8.3			並	密	浅黄橙色	10YR8/4	1/3	南伊勢	
68	086-09	e7	SB43 p8柱根		土師器 皿	9.7			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/6	南伊勢	
69	090-02	e7	SB43 p5掘形		土師器 皿	9.5	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	南伊勢	
70	087-07	e7	SB43 p5柱根		土師器 ミナ7鍋	9.0			並	やや密	黒褐色 灰黄褐色	10YR3/2 10YR6/2	1/6		
71	087-06	e7	SB43 p5柱根		土師器 ミナ7鍋	9.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/8		
72	090-05	e7	SB43 p3		土師器 ミナ7鍋	9.0			並	やや粗	浅黄橙色	10YR8/3	1/10		
73	088-02	e7	SB43 p5掘形		陶器 皿	36.4			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	小片		
74	088-01	e7	SB43 p8柱根		石製品 鍋			底径 29.0					1/6		
75	089-04	e8	SB44 p11		陶器 鉢			高台径 7.0	良	やや密	灰白色	2.5Y7/1	1/5		
76	090-07	e8	SB44 p14		土師器 皿	8.0	1.6		並	やや粗	にふい黄橙色	10YR7/3	1/8		
77	089-02	d9	SB44 p4		陶器 鉢	16.0	7.5		良	密	灰白色 灰オリーフ色	10YR8/1 7.5Y5/2	1/10	古瀬戸	
78	071-06	d8	SK3	71 82	土師器 皿	10.5	2.0		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	1/2	中北勢	
79	069-06	d8	SK3	40	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/2	中北勢	
80	070-05	d8	SK3	20	土師器 皿	13.3	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	7/8	中北勢	
81	071-05	d8	SK3	78	土師器 皿	14.0	2.4		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	完存	中北勢	
82	068-05	d8	SK3	67	土師器 皿	12.0	2.0		並	やや密	浅黄橙色 灰白色	10YR8/3 2.5Y8/2	完存	中北勢	
83	072-04	d8	SK3	83 87	土師器 皿	13.0	1.9		並	やや密	淡黄色 橙色	2.5Y8/3 2.5YR7/6	1/4	中北勢	
84	066-06	d8	SK3	4 6 10	土師器 皿	14.0	2.1		並	やや密	橙色 灰白色 浅黄橙色	7.5YR6/6 10YR8/2 10YR8/3	完存	中北勢	
85	069-01	d8	SK3	46	土師器 皿	14.2	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	7/8	中北勢	
86	069-02	d8	SK3	45, 63 75	土師器 皿	12.0	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/2	中北勢	
87	066-01	d8	SK3	3 55	土師器 皿	13.6	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
88	066-02	d8	SK3	8 59	土師器 皿	13.5	2.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
89	071-03	d8	SK3	70	土師器 皿	14.0	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
90	071-02	d8	SK3	68	土師器 皿	12.7	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
91	070-03	d8	SK3	15	土師器 皿	13.1	2.2		並	やや密	浅黄橙色 褐色	10YR8/3 10YR6/1	完存	中北勢	
92	071-07	d8	SK3	79	土師器 皿	14.0	2.3		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/2	中北勢	

第4表 出土遺物観察表(2)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
93	067-04	d8	SK3	52 69	土師器 皿	14.2	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
94	068-03	d8	SK3	61	土師器 皿	13.0	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/1	完存	中北勢	
95	072-10	d8	SK3	85	土師器 皿	13.2	2.2		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/3	中北勢	
96	068-01	d8	SK3	58	土師器 皿	13.4	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
97	072-03	d8	SK3	18	土師器 皿	14.2	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	3/8	中北勢	
98	070-07	d8	SK3	82 35 71	土師器 皿	12.1	2.0		並	やや密	浅黄橙色 灰白色 橙色	10YR8/3 10YR8/2 5YR7/6	1/2	中北勢	
99	067-01	d8	SK3	54	土師器 皿	13.3	2.1		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/4	完存	中北勢	
100	066-05	d8	SK3	2 77	土師器 皿	13.1	2.3		並	やや密	灰白色 浅黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	1/2	中北勢	外面工具痕?
101	068-04	d8	SK3	65	土師器 皿	14.5	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	10/11	中北勢	
102	072-06	d8	SK3	33	土師器 皿	12.2	2.3		並	やや密	灰白色 赭灰色 暗灰色	2.5Y8/2 7.5YR5/1 N3/0	1/4	中北勢	
103	069-05	d8	SK3	39、41 73	土師器 皿	13.3	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	7/8	中北勢	
104	069-07	d8	SK3	36	土師器 皿	14.0	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
105	072-05	d8	SK3	11 22	土師器 皿	14.5	1.9		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	1/6	中北勢	
106	070-06	d8	SK3	21	土師器 皿	12.7	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	3/4	中北勢	
107	072-07	d8	SK3	12	土師器 皿	13.6	2.1		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/3	中北勢	
108	070-04	d8	SK3	19、26 82、87	土師器 皿	14.0	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	9/10	中北勢	
109	067-05	d8	SK3	56 57	土師器 皿	14.5	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/2	中北勢	
110	072-09	d8	SK3	74	土師器 皿	13.0	1.7		並	やや密	浅黄橙色 淡橙色 黒褐色	10YR8/3 5YR8/4 10YR3/1	3/8	中北勢	
111	071-04	d8	SK3	17	土師器 皿	13.0	1.8		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	中北勢	
112	071-01	d8	SK3	86	土師器 皿	14.0	2.3		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	完存	中北勢	
113	071-08	d8	SK3	13	土師器 皿	16.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	小片	中北勢	
114	072-08	d8	SK3	73	土師器 皿	12.4	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
115	070-02	d8	SK3	27 37	土師器 皿	14.0	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
116	068-02	d8	SK3	60、72 87	土師器 皿	14.2	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
117	067-03	d8	SK3	48	土師器 皿	12.5	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
118	066-03	d8	SK3	5 62	土師器 皿	13.3	2.3		並	やや密	灰白色 浅黄橙色	10YR5/2 10YR8/3	5/6	中北勢	
119	072-02	d8	SK3	84	土師器 皿	14.5	2.5		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	7/8	中北勢	
120	069-04	d8	SK3	43 50	土師器 皿	13.0	2.2		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	3/8	中北勢	
121	067-02	d8	SK3	51	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	中北勢	
122	070-01	d8	SK3	28	土師器 皿	14.3	2.1		並	やや密	浅黄橙色 灰白色	10YR8/3 10YR8/2	7/8	中北勢	
123	071-09	d8	SK3	14 75	土師器 皿	13.5			並	やや密	橙色	7.5YR7/6	1/3	畿内	
124	066-04	d8	SK3	9、23、39 42、49、 87、89	土師器 皿	14.5	2.4	底径 8.5	並	やや密	浅黄橙色 にふい黄橙色 黒色	10YR8/3 10YR7/2 10YR2/1	5/6	畿内	
125	072-01	d8	SK3	81	土師器 皿	16.0	2.3		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	5/6	畿内	
126	114-07	d8	SK3	1	銭貨										線文不明
127	063-08	f3	SK4	2	土師器 皿	7.4	2.4		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/6	中北勢	南伊勢系模倣
128	063-07	f3	SK4	7	土師器 皿	8.3	1.1		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/4	中北勢	
129	063-05	f3	SK4		土師器 皿	9.5	1.6		並	やや密	にふい橙色	7.5YR7/4	1/6	中北勢	
130	063-03	f3	SK4	31	土師器 皿	10.6	1.8		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	7/8	中北勢	
131	083-03	f3	SK4		土師器 皿	10.5			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4	1/4	中北勢	
132	083-08	f3	SK4	上面	土師器 皿	7.8			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/4	畿内	
133	084-01	f3	SK4		土師器 皿	9.2	1.6		並	密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5	畿内	
134	083-05	f3	SK4		土師器 皿	12.7	2.1		並	密	にふい黄橙色	10YR7/4	1/8	畿内	
135	063-02	f3	SK4	16	土師器 皿	12.4	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5	南伊勢	
136	084-02	f3	SK4	30	土師器 皿	12.6			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/6	中北勢	
137	063-01	f3	SK4	30	土師器 皿	13.0	1.7		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/6	中北勢	

第5表 出土遺物観察表(3)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
138	062-07	f3	SK4	9	土師器 皿	13.4	1.9		並	やや密	にふい黄橙色	7.5YR7/4	1/3	中北勢	
139	083-06	f3	SK4		土師器 皿	14.2			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5	中北勢	
140	062-05	f3	SK4	14	土師器 皿	14.0	2.0		並	やや密	にふい黄橙色 灰白色	10YR7/3 10YR8/2	1/6	中北勢	
141	062-04	f3	SK4	15	土師器 皿	15.0	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	中北勢	
142	062-02	f3	SK4	25	土師器 羽釜			つば径 34.0	並	やや密	黒褐色	5YR3/1	小片	中北勢	
143	114-06	f3	SK4	27	銭貨										洪武通宝
144	084-03	f3	SK4	3	陶器 壺				良	密	灰白色 灰黄色	N8/0 2.5Y7/2	1/3		
145	062-03	f3	SK4	28	陶器 椀	14.2			並	密	釉薬 灰白色 淡黄色	2.5Y8/1 7.5Y7/3	1/12	古瀬戸	
146	084-04	f3	SK4		陶器 鉢				良	粗	にふい褐色 黄灰色	7.5YR6/3 2.5Y5/1	1/4	信楽	
147	062-01	f3	SK4	13	陶器 壺	49.6			並	やや粗	暗赤灰色 灰色	5R4/1 N7/0	1/12	常滑	
148	085-08	f4	SK8	150	土師器 皿	9.0	1.5		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/3	中北勢	
149	048-06	f4	SK8	99	土師器 皿	7.8	1.9		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/3 10YR8/3	11/12	中北勢	
150	052-07	f4	SK8	151	土師器 皿	8.0	1.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4	完存	中北勢	
151	052-06	f4	SK8	170	土師器 皿	9.1	1.8		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4	完存	中北勢	
152	052-05	f4	SK8	200	土師器 皿	9.5	2.4		並	やや密	灰白色	10YR8/2	3/4	中北勢	
153	048-04	f4	SK8	103	土師器 皿	9.8	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	口縁端部油煙付着
154	054-05	f4	SK8	土層	土師器 皿	12.4	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	10/12	中北勢	
155	049-02	f4	SK8	143	土師器 皿	12.9	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
156	056-03	f4	SK8		土師器 皿	12.5	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/2	中北勢	
157	051-04	f4	SK8	202	土師器 皿	13.0	2.4		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/3 10YR8/3	7/8	中北勢	
158	052-02	f4	SK8	215	土師器 皿	12.9	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
159	051-06	f4	SK8	195	土師器 皿	12.8	2.4		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	11/12	中北勢	
160	048-02	f4	SK8	72 186	土師器 皿	12.5	2.2		並	やや密	灰白色 褐色	10YR8/2 10YR5/1	11/12	中北勢	
161	047-04	f4	SK8	63	土師器 皿	13.1	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
162	047-03	f4	SK8	21	土師器 皿	12.6	2.2		並	やや密	浅黄橙色 にふい黄橙色	10YR8/4 10YR7/4	完存	中北勢	
163	050-02	f4	SK8	184	土師器 皿	13.0	2.5		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	完存	中北勢	
164	051-05	f4	SK8	187	土師器 皿	12.7	2.2		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/4 10YR8/3	完存	中北勢	
165	052-03	f4	SK8	212 213	土師器 皿	13.6	2.6		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/3 10YR8/3	11/12	中北勢	
166	051-01	f4	SK8	168	土師器 皿	13.3	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
167	085-05	f4	SK8	157	土師器 皿	13.5	1.9		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/3	中北勢	
168	050-03	f4	SK8	190	土師器 皿	13.3	2.0		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/3 10YR8/3	完存	中北勢	
169	048-01	f4	SK8	89	土師器 皿	13.3	2.1		並	やや密	灰白色 褐色	10YR8/2 10YR6/1	完存	中北勢	
170	047-02	f4	SK8	30	土師器 皿	13.9	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
171	050-05	f4	SK8	147 148 149	土師器 皿	13.9	2.4		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	2/3	中北勢	
172	049-06	f4	SK8	111	土師器 皿	13.5	2.3		並	やや密	にふい黄橙色 浅黄橙色	10YR7/3 10YR8/3	10/12	中北勢	
173	048-03	f4	SK8	64	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	にふい橙色	7.5YR7/4	3/4	中北勢	
174	050-01	f4	SK8	141	土師器 皿	14.1	2.2		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	11/12	中北勢	
175	049-04	f4	SK8	142	土師器 皿	13.9	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
176	051-03	f4	SK8	196	土師器 皿	12.9	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	中北勢	
177	049-03	f4	SK8	137 138	土師器 皿	13.9	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	11/12	中北勢	
178	052-04	f4	SK8	206	土師器 皿	13.7	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	中北勢	
179	049-01	f4	SK8	146	土師器 皿	14.0	2.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
180	054-02	f4	SK8	土層	土師器 皿	14.1	2.3		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	11/12	中北勢	
181	047-05	f4	SK8	35.32 130	土師器 皿	14.2	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	2/3	中北勢	
182	049-05	f4	SK8	112	土師器 皿	14.3	2.4		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/2	3/4	中北勢	
183	051-02	f4	SK8	194	土師器 皿	14.1	2.3		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4	完存	中北勢	

第6表 出土遺物観察表(4)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
184	053-06	f4	SK8		土師器 皿	14.5	2.7		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/3	完存	中北勢	
185	050-04	f4	SK8	174 191	土師器 皿	14.4	2.3		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	完存	中北勢	
186	050-06	f4	SK8	160	土師器 皿	15.2	2.7		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	11/12	中北勢	
187	052-01	f4	SK8	176 188	土師器 皿	14.8	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	2/3	中北勢	
188	085-03	f4	SK8	171	土師器 皿	16.5	2.6		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/5	中北勢	
189	056-01	f4	SK8	土層	土師器 皿	17.0	2.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
190	054-07	f4	SK8	土層	土師器 皿	8.0	1.6		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/2	1/2	畿内	
191	054-06	f4	SK8	206	土師器 皿	7.6	1.7		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	畿内	
192	047-01	f4	SK8	32	土師器 皿	11.3	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	畿内	
193	085-07	f4	SK8	41	土師器 皿	13.0	2.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4	1/6	畿内	
194	085-06	f4	SK8	26	土師器 皿	12.5			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4	1/3	畿内	
195	053-04	f4	SK8	土層	土師器 皿	14.2	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	畿内	
196	085-04	f4	SK8	101 153	土師器 皿	17.5			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	畿内	
197	047-06	f4	SK8	8	土師器 皿	21.0	2.9		並	やや密	浅黄橙色	5YR8/3	1/6	畿内	
198	085-02	f4	SK8		土師器 鍋	31.0			並	やや密	灰褐色	7.5YR5/2	1/9	南伊勢	
199	054-09	f4	SK8		土師器 ミナブ	11.0		つば径 12.9	並	やや密	灰黄色 褐色	2.5Y7/2 10YR5/2	1/12		
200	058-03	f4	SK8	192	青磁 椀	11.5			良	密	灰白色 オリブ灰色	N8/0 10Y6/2	1/10	龍泉	連弁文
201	055-02	f4	SK8	87	陶器 播鉢	35.0			並	やや粗	橙色 にふい橙色 浅黄橙色	5YR5/2 7.5YR7/4 7.5YR8/4	小片	信楽	内面に播り目
202	055-03	f4	SK8	17	陶器 椀	17.5	6.0	底径 5.5	並	やや粗	灰白色	2.5Y8/2	1/6	古瀬戸	
203	055-01	f4	SK8	124	瓦質土器 火鉢	36.5			並	やや密	灰色 灰白色	N6/0 5Y7/1	小片		外面に花菱文スタンプ
204	056-08	f4	SK8		瓦質土器 香炉	11.0	5.3		並	やや密	黄灰色	2.5Y6/1	1/4		雲気文スタンプ 三足
205	118-01	f4	SK8	183	鉄製品 釘										
206	117-10	f4	SK8		鉄製品 釘										
207	040-03	d10	SK9		土師器 皿	7.5	1.2		並	やや密	浅黄色	2.5Y7/3	11/12		
208	042-04	d11	SK9		土師器 皿	8.0	1.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	南伊勢	
209	040-02	d10	SK9		土師器 皿	8.0	1.1		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	完存	南伊勢	口縁一部に油煙付着
210	042-01	d10	SK9		土師器 皿	7.3			並	やや密	灰白色 浅黄橙色	2.5Y8/2 7.5YR8/3	1/6	畿内	
211	042-03	d10	SK9		土師器 皿	9.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/7	畿内	
212	042-02	d10	SK9		土師器 皿	9.8			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/9	畿内	
213	041-07	e9	SK9		土師器 皿	14.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/12	畿内	
214	039-08	d11	SK9		土師器 皿	9.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/4	南伊勢	
215	039-07	d10	SK9		土師器 皿	10.5	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	南伊勢	
216	040-01	c9	SK9		土師器 皿	10.2	2.6		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	4/12	南伊勢	
217	039-05	d11	SK9		土師器 皿	12.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	南伊勢	
218	039-02	d10	SK9		土師器 皿	12.5	2.4		並	やや粗	浅黄橙色	10YR8/4	完存	南伊勢	
219	039-01		SK9		土師器 皿	13.0	2.9		並	やや粗	橙色 にふい橙色	2.5YR7/6 7.5YR7/4	完存	南伊勢	
220	042-05	d11	SK9		土師器 皿	12.0	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5	南伊勢	
221	039-03	d11	SK9		土師器 皿	12.0	2.4		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	完存	南伊勢	
222	042-06	d11	SK9		土師器 皿	16.0	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/10	南伊勢	
223	042-08	d10	SK9		陶器 皿			底径 5.0	並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	3/8	瀬戸	山皿
224	042-07	c9	SK9		陶器 皿	8.1	1.6		並	やや粗	灰白色	2.5Y7/1	1/3	知多	山皿
225	038-02	d10	SK9		陶器 折縁深皿	20.0	4.9		並	やや密	灰白色 橙色 灰白色	2.5Y8/2 5YR6/6 7.5Y7/2	1/4		
226	038-01	e9	SK9		陶器 折縁深皿	28.0	6.3	底径 14.0	並	やや密	にふい橙色 にふい黄橙色 灰白 オリブ黄色	5YR7/4 10YR7/2 2.5Y8/1 7.5Y6/3	1/8		断面漆による補修痕あり
227	037-02	d10	SK9		陶器 折縁深皿	30.2	7.3	底径 18.0	並	やや密	灰白 灰オリブ色	2.5Y8/2 7.5Y6/2	1/12		内外面釉付
228	037-01		SK9		陶器 折縁深皿	30.8	6.9	底径 18.0	並	やや密	灰白 浅黄	2.5Y8/2 7.5Y7/3	1/4		内面底部釉付 体部内外面釉付

第7表 出土遺物観察表(5)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
229	037-03	e9	SK9		陶器 播鉢	30.8			並	祖	暗灰色 灰白色 灰色	N3/0 N7/0 N5/0	1/9	常滑	
230	082-07	f9	SK14		土師器 皿	6.9			並	やや粗	灰白色	2.5Y8/2	1/4	畿内?	
231	082-06	f9	SK14		土師器 皿	8.2	1.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	南伊勢	
232	082-05	f9	SK14		土師器 皿	10.6			並	やや粗	灰白色	2.5Y8/1	1/5	南伊勢	
233	082-04	f9	SK14		土師器 皿	10.8			並	やや粗	灰白色	10YR8/2	1/5	南伊勢	
234	081-06	f9	SK14		陶器 椀	12.8			並	密	灰白色 灰褐色 黒色	5Y8/1 5YR4/2 N2/0	1/8		
235	081-07	f9	SK14		無釉陶器 椀	13.0			並	やや粗	灰白色	N8/0	1/4		山茶椀
236	082-02	f10	SK14	7	陶器 皿				並	やや密	灰白色 オリーブ黄色	N8/0 7.5Y6/3	小片		
237	082-03	f10	SK14	6	陶器 柄				並	やや密	釉薬 浅黄褐色 黒色 にふい赤褐色	10YR8/3 7.5YR2/1 5YR5/4	小片		
238	081-05	f9	SK14		陶器 皿	19.8			並	やや密	釉薬 灰白色 灰白色	2.5Y8/2 7.5Y7/2	1/12		
239	081-03	f10	SK14		陶器 播鉢				並	やや粗	赤褐色 褐色	10R6/6 7.5YR5/1	小片	信楽	
240	081-02	f10	SK14		陶器 播鉢				並	やや粗	灰白色 にふい褐色 にふい赤褐色	2.5Y8/2 7.5YR7/3 10R6/3	小片	信楽	
241	081-04	f10	SK14	上面	陶器 播鉢				並	やや粗	にふい褐色	7.5Y6/3	小片	信楽	
242	082-01	f10	SK14	上面	陶器 折縁深皿	34.0			並	密	釉薬 灰白色 浅黄色	N8/0 7.5Y7/3	小片		
243	116-01	f10	SK14		鉄製品 小刀										
244	115-04	f10	SK14	1	鉄製品 釘	長さ 3.3									
245	116-07	f10	SK14		鉄製品 釘										
246	116-02	f10	SK14		鉄製品 釘										
247	116-03	f10	SK14		鉄製品 釘										
248	116-04	f10	SK14		鉄製品 釘										
249	064-09	f10	SK22	15	土師器 皿	12.5	1.9		並	やや密	にふい黄褐色	10YR6/3	完存	中北勢	
250	064-01	f10	SK22		土師器 皿	12.0	2.2		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	完存	中北勢	
251	064-07	f10	SK22	14	土師器 皿	12.3	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
252	065-05	f10	SK22	26	土師器 皿	12.5	2.3		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/2	中北勢	
253	064-06	f10	SK22	12 18	土師器 皿	13.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	完存	中北勢	
254	065-02	f10	SK22	13	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	1/2	中北勢	
255	064-08	f10	SK22	20 21	土師器 皿	13.0	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
256	064-05	f10	SK22	24	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
257	064-04	f10	SK22	23	土師器 皿	13.3	2.1		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	完存	中北勢	
258	065-03	f10	SK22		土師器 皿	13.5	2.4		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	3/4	中北勢	
259	064-02	f10	SK22	25	土師器 皿	13.6	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
260	064-03	f10	SK22	22	土師器 皿	13.3	2.0		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	完存	中北勢	
261	065-04	f10	SK22		土師器 皿	13.7	1.9		並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	完存	中北勢	
262	065-06	f10	SK22		土師器 皿	13.3	2.2		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	完存	中北勢	
263	065-07	f10	SK22		土師器 皿	14.2	2.2		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	完存	中北勢	
264	065-01	f10	SK22	27	土師器 皿	14.0	2.2		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/3	中北勢	
265	065-08	f10	SK22	4	土師器 皿	15.0	2.0		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	3/8	畿内	
266	081-01	f10	SK22	6	陶器 播鉢	35.0			並	やや粗	褐色	5YR6/6	小片		
267	016-08	e2	SK32		土師器 皿	11.0	1.8		並	やや密	灰白	2.5Y8/2	1/6	中北勢	
268	018-01	e2	SK32		土師器 皿	11.0	2.1		並	やや粗	浅黄褐色	10YR8/3	完存	中北勢	
269	018-04	e2	SK32		土師器 皿	12.2	2.2		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	完存	中北勢	
270	016-04	e2	SK32		土師器 皿	12.8	2.0		並	やや密	灰白	2.5Y8/2	1/4	中北勢	
271	018-02	e2	SK32		土師器 皿	12.6	1.9		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	完存	中北勢	
272	016-03	e2	SK32		土師器 皿	12.4	2.0		並	やや密	浅黄色	2.5Y7/3	1/3	中北勢	
273	018-05	e2	SK32		土師器 皿	13.0	2.4		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	11/12	中北勢	

第8表 出土遺物観察表(6)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器種	法量 (cm)			焼成	胎土	色調		残存度	産地 分類	備考	
						口径	器高	その他								
274	016-01	e2	SK32		土師器 皿	12.7	2.3		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	7/8	中北勢		
275	016-06	e2	SK32		土師器 皿	11.4	1.5		並	やや密	灰白	10YR8/2	3/8	中北勢		
276	016-02	e2	SK32		土師器 皿	12.6	2.1		並	やや密	浅黄色	2.5Y7/3	3/4	中北勢		
277	018-03	e2	SK32		土師器 皿	13.2	2.1		並	やや密	浅黄橙色 褐灰色	10YR8/3 7.5YR5/1	完存	中北勢		
278	018-07	e2	SK32		土師器 皿	14.0			並	密	灰黄褐色 褐灰色	10YR8/3 10YR4/1	1/12	畿内		
279	018-06	e2	SK32		青磁 椀	14.2			良	密	オリーブ灰色 灰白色	2.5GY5/1 N7/0	1/4	龍泉	連弁文 青磁	
280	022-01	e2	SK32		陶器 椀	16.0			並	やや密	釉薬 浅黄褐色 黒色 褐色	10YR8/4 2.5Y2/1 7.5YR4/3	小片	瀬戸		
281	018-08	e2	SK32		石製品 規	長さ 13.8	幅 4.8	厚さ 0.9								
282	028-02	f0	SK34		陶器 椀	15.5	5.3	高台径 7.7	良	やや密	灰白色	5Y7/1	2/3	知多?	山茶椀	
283	028-01	f0	SK34		陶器 椀	15.5	5.6	高台径 6.7	良	やや粗	灰黄色	2.5Y7/2	1/4	知多?	山茶椀	
284	028-04	f0	SK34		陶器 椀	15.0	5.8	高台径 6.5	良	やや粗	灰白色	2.5Y7/1	1/4	知多?	山茶椀 未使用	
285	028-05	f0	SK34		陶器 椀			高台径 7.7	良	やや密	灰白色	2.5Y7/1	2/3		山茶椀 未使用	
286	029-02	f0	SK34		瓦器 椀	13.8			良	密	灰色	N5/0	1/4			
287	029-01	f0	SK34		瓦器 椀	15.5	4.4	高台径 5.5	良	密	灰色	N4/0	1/4			螺旋状暗文有り
288	035-01	f0	SK34		瓦器 椀	14.4	4.1	高台径 4.7	並	やや密	灰色	N4/0	底部 完存			螺旋状暗文有り
289	029-04	f0	SK34		瓦器 皿	8.8	1.2		良	密	灰色	N5/0	1/2			暗文
290	029-03	f0	SK34		瓦器 椀			高台径 5.2	良	密	灰色	N4/0	底部 1/3			螺旋状暗文有り
291	024-06	f0	SK34		土師器 皿	7.9	1.8		並	やや密	橙色 淡黄色 暗灰色	2.5YR6/6 2.5Y8/3 N3/0	完存	中北勢?	へそ皿 畿内系模倣?	
292	024-07	f0	SK34		土師器 皿	8.7	1.7		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	2/3	中北勢		
293	025-03	f0	SK34		土師器 皿	9.5	1.7		並	密	黒褐色 黒色	2.5Y3/1 5Y2/1	1/2			
294	026-08	f0	SK34		土師器 皿	8.6	1.4		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/4	南伊勢		
295	024-08	f0	SK34		土師器 皿	8.3	1.6		並	やや粗	にふい黄褐色	10YR7/3	11/12	南伊勢		口縁一部に油煙付着
296	025-05	f0	SK34		土師器 皿	8.6	1.6		並	密	浅黄褐色	10YR8/3	1/5	中北勢		
297	026-03	f0	SK34		土師器 皿	9.2	1.5		並	やや密	灰白色	2.5Y7/2	1/3	南伊勢		
298	029-05	f0	SK34		土師器 皿	9.2	1.8		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	2/3	中北勢		
299	026-05	f0	SK34		土師器 皿	12.0	2.2		並	やや密	浅黄褐色 灰白色	7.5YR8/4 10YR8/2	1/12	中北勢		
300	026-04	f0	SK34		土師器 皿	11.8	2.0		並	密	浅黄褐色	10YR8/3	1/4	中北勢		
301	023-03	f0	SK34		土師器 皿	12.0	1.9		並	やや密	にふい橙色 灰白色	7.5YR7/4 10YR8/2	1/2	中北勢		
302	026-02	f0	SK34		土師器 皿	11.4	2.1		並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/4	1/4	中北勢		
303	023-04	f0	SK34		土師器 皿	12.0	2.3		並	やや密	橙色 灰白色	7.5YR6/6 2.5Y8/2	1/4	中北勢		
304	025-04	f0	SK34	3	土師器 皿	12.6	2.4		並	やや密	にふい橙色 浅黄褐色 灰白色	5YR7/4 10YR8/3 10YR8/2	1/2	中北勢		
305	027-07	f0	SK34		土師器 皿	12.2	2.4		並	密	浅黄褐色 にふい橙色	7.5YR8/3 7.5YR7/4	1/3	中北勢		
306	023-02	f0	SK34		土師器 皿	12.6	1.8		並	やや密	にふい橙色 灰白色	7.5YR7/4 10YR8/2	1/4	中北勢		
307	027-08	f0	SK34		土師器 皿	13.4			並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	小片	畿内		
308	026-06	f0	SK34		土師器 皿	13.6	2.0		並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	1/4	中北勢		
309	027-02	f0	SK34		土師器 皿	14.2	2.4		並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	1/8	中北勢		
310	027-01	f0	SK34		土師器 皿	13.5	2.4		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/4	1/4	中北勢		
311	026-07	f0	SK34		土師器 皿	13.4			並	やや密	浅黄褐色	10YR8/4	1/5	中北勢		
312	027-05	f0	SK34		土師器 皿	13.3	2.2		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/4	中北勢		
313	027-06	f0	SK34		土師器 皿	14.4	2.4		並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/4	中北勢		
314	026-01	f0	SK34		土師器 皿	15.0			並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/5	中北勢		
315	024-02	f0	SK34		土師器 皿	13.6			並	やや密	にふい黄褐色	10YR7/3	1/6	畿内		
316	032-02	f0	SK34		土師器 皿	10.0	2.1		並	密	浅黄褐色	10YR8/3	小片	中北勢		
317	024-09	f0	SK34		土師器 皿				並	やや粗	浅黄褐色	10YR8/3	1/3	南伊勢?		口縁一部に油煙付着 畿内系模倣?
318	027-04	f0	SK34		土師器 皿	13.6			並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/6	畿内		

第9表 出土遺物観察表(7)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
319	027-03	f0	SK34		土師器 皿	14.4			並	密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/6	畿内	
320	025-02	f0	SK34		土師器 羽釜	21.0		口径 24.5	並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2	1/10	中北勢	
321	025-01	f0	SK34		土師器 羽釜	25.5		口径 29.0	並	やや密	にふい黄橙色 褐灰色	10YR6/3 10YR5/1	1/12	中北勢	
322	059-01	f0	SK34		陶器 擂鉢	29.6			並	粗	浅黄橙色	10YR8/4	1/6	常滑	
323	060-01	f0	SK34		陶器 深皿?	29.3			良	やや粗	灰白色 オリープ黄色	5Y8/1 5Y6/3	1/10		
324	059-03	f0	SK34		陶器 鉢			底径 14.3	並	粗	橙色	7.5YR7/6	1/3		
325	060-05	f0	SK34		白磁 皿	10.4			良	やや密	灰白色	7.5Y8/1	1/8		
326	060-04	f0	SK34		白磁 皿	11.0			良	密	灰白色	2.5GY8/1	1/5		
327	060-03	f0	SK34		白磁 皿	11.3			良	密	灰白色	10Y8/1	1/4		
328	060-06	f0	SK34		白磁 皿	12.0			良	密	灰白色	7.5Y8/1	1/8		
329	061-04	f0	SK34		磁器			底径 8.0	良	密	灰白色	N8/0	1/4		内外面に染付
330	061-03	f0	SK34		磁器			底径 8.6	良	密	明緑灰色	10GY8/1	1/4		内外面に染付
331	060-07	f0	SK34		青磁				良	密	灰白色 灰オリープ	N8/0 7.5Y4/2	小片		
332	060-02	f0	SK34		陶器 椀	12.7			良	密	浅黄橙色 黒色	7.5YR8/4 7.5YR7/1	1/8		天目
333	059-04	f0	SK34		陶器 椀	11.8			良	密	褐色 黒褐色	7.5YR4/3 5YR2/1	1/8		天目
334	061-01	f0	SK34		瓦質土器	23.5			良	やや粗	浅黄橙色	10YR8/3 10YR7/4	1/12		
335	059-02	f0	SK34		瓦質土器 風炉?	24.8			並	やや粗	浅黄橙色 灰黄色	10YR8/3 2.5Y7/2	1/6		
336	114-09	f0	SK34		銭貨										
337	117-03	f0	SK34		鉄製品 釘										
338	115-02	f0	SK34		鉄製品 釘			長さ 5.4							
339	120-02	f0	SK34		鉄製品 釘										
340	120-04	f0	SK34		鉄製品 釘										
341	041-05	e2	SK21	2	土師器 皿	12.0	2.4		並	やや密	にふい橙色	7.5YR7/4	3/4	中北勢	
342	041-03	e2	SK21	4	土師器 皿	12.0	1.8		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/6	中北勢	
343	041-04	e2	SK21	3	土師器 皿	12.1	2.6		並	やや密	浅黄橙色 灰白色 橙色	10YR8/3 10YR8/2 7.5YR7/6	11/12	中北勢	
344	041-06	e2	SK21	1	土師器 皿	14.2	2.0		並	やや密	灰白色 褐灰色 にふい橙色	10YR8/2 10YR5/1 10YR8/3	1/3	中北勢	
345	041-02	e2	SK21		土師器 皿	15.8	2.2		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/6	中北勢	
346	041-01	e2	SK21	5	土師器 羽釜	19.2		口径 24.2	並	やや密	灰白色 褐灰色	10YR7/2 10YR5/1	1/10	中北勢	
347	032-04	f0	SK38		土師器 皿	11.0	2.0		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/4	1/5	中北勢	
348	032-03	f0	SK38		土師器 皿	13.0	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/8	中北勢	
349	030-01	f0	SK38		土師器 羽釜	30.0		口径 33.5	並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/8	中北勢	
350	022-05	e0	SZ33		土師器 皿	8.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/5	畿内	
351	022-06	e0	SZ33		土師器 皿	9.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/8	畿内	
352	021-04	e0	SZ33		土師器 皿	7.9	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	2/3	中北勢	
353	020-05	e0	SZ33		土師器 皿	9.0	1.6		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4	1/6	中北勢	南伊勢系模倣?
354	020-03	e0	SZ33		土師器 皿	10.5	1.5		並	やや密	にふい橙色	7.5YR6/4	1/5	中北勢	
355	022-03	e0	SZ33		土師器 皿	10.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/7	南伊勢	
356	020-06	e0	SZ33		土師器 皿	12.0	1.5		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/3	中北勢	
357	019-04	e0	SZ33		土師器 皿	2.3	2.2		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/2	中北勢	
358	020-01	e0	SZ33		土師器 皿	14.5	2.8		並	やや粗	浅黄橙色	10YR8/3	1/8	中北勢	
359	020-04	e0	SZ33		土師器 皿	14.0	1.6		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/5	中北勢	
360	021-01	e0	SZ33		磁器 瓶?				良	密	白色 明緑灰色	N9/0 10G7/1			外面に染付
361	019-02	e0	SZ33		陶器 鉢	14.0	11.5		良	粗	にふい橙色	5YR6/4	1/4	信楽	
362	022-02	e0	SZ33		陶器 擂鉢			底径 13.0	並	やや粗	灰色	7.5Y5/1	1/7	信楽	
363	021-02	e0	SZ33		陶器 椀	11.5			良	密	にふい黄橙色 黒褐色	10YR7/4 10YR3/1	1/6	瀬戸	天目
364	021-03	e0	SZ33		陶器 椀	12.8			良	密	にふい黄橙色 褐灰色	10YR6/3 7.5YR4/1	1/4	瀬戸	天目

第10表 出土遺物観察表(8)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
365	022-08	e0	SZ33		瓦質土器 壺?	8.0			並	やや密	灰色 浅黄橙色	5Y5/1 10YR8/3			
366	119-08	f0	SZ33		鉄製品 釘										
367	119-07	f0	SZ33		鉄製品 釘										
368	024-01	f0	SA35		陶器 擂鉢	29.1			並	やや粗	橙色 にふい赤褐色	5YR7/6 2.5YR4/3	小片	信楽	
369	023-07	f0	SA35		土師器 皿	13.0	1.9		並	やや密	浅黄橙色 にふい黄橙色	10YR8/3 10YR7/4	1/4	中北勢	
370	023-05	f0	SA35		土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	浅黄橙色 にふい橙色	10YR8/3 7.5YR7/4	1/3	中北勢	
371	023-06	f0	SA35		土師器 皿	15.0	2.3		並	やや粗	浅黄橙色	10YR8/4	1/6	中北勢	
372	024-04	f0	SA35		土師器 皿	14.9			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	小片	中北勢	
373	024-03	f0	SA35		土師器 皿	16.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/12	中北勢	
374	023-01	f0	SA35		陶器 鉢	44.7			並	やや粗	橙色 にふい橙色	7.5YR7/6 7.5YR7/4	1/12	常滑	
375	079-02		SD11		陶器 皿	8.2	1.5		並	やや密	灰白色	5Y7/1	1/3		山皿
376	079-01		SD11		陶器 椀			底径 6.6	並	やや密	灰白色	5Y7/1			山茶椀
377	079-03		SD11		瓦器 椀	12.1			並	やや密	灰色	N6/0	1/5		
378	080-01		SD11		土師器 皿	11.3	2.0		並	やや密	灰白色	2.5Y8/1	1/4	中北勢	
379	080-02		SD11		土師器 皿	12.2	2.4		並	やや密	灰白色	10YR8/2		中北勢	
380	079-08		SD11		土師器 皿	12.0	1.9		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	中北勢	
381	080-03		SD11		土師器 皿	13.0	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
382	079-05		SD11		土師器 皿	13.0			並	やや密	灰黄褐色 灰黄色	10YR5/2 2.5Y7/2	小片		
383	079-04		SD11		土師器 皿	14.0			並	やや密	にふい黄橙色 褐灰色	10YR7/3 10YR6/1	小片		
384	079-06		SD11		土師器 羽釜	15.8			並	やや密	灰色 褐色 明褐灰色	2.5YR7/6 7.5YR7/2 N4/0	小片		
385	077-01		SD11		陶器 鉢	34.0			並	やや粗	灰白色	N7/0	1/10		
386	017-02		SD31		土師器 皿	12.8			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/8	中北勢	
387	017-03		SD31		土師器 皿	14.8			並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/3	1/6	中北勢	
388	015-05		SD31		土師器 皿	13.5	2.0		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/4	中北勢	
389	015-04		SD31		土師器 皿	14.6	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
390	015-07		SD31		土師器 皿	13.0	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/5	南伊勢	
391	015-06		SD31		土師器 皿	15.0	1.9		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2		中北勢	
392	017-06		SK32		土師器 皿	8.8			並	やや密			1/2	畿内	
393	017-05		SD31		土師器 皿	13.0			並	密	にふい黄橙色	10YR7/4	1/8	畿内	
394	015-03	a13	SD31		陶器 壺			底径 15.0	良	やや密	灰赤色 にふい黄橙色	10YR4/2 10YR7/3		常滑	
395	017-01		SD31		陶器 椀	16.0			並	密	浅黄色	2.5Y8/3			天目
396	017-04		SD31		土師器 皿	19.0			良	密	にふい黄橙色	10YR7/4	1/12	畿内	
397	014-03	d13	SD31		陶器				並	やや密	釉薬 にふい橙色 灰白色	7.5YR7/4 5Y7/2			三足
398	015-02		SD31		陶器 椀	17.4	7.0	高台径 5.5	並	やや密	釉薬 浅黄色 オリーブ黄色	2.5Y7/3 5Y6/3			
399	015-01		SD31		磁器 椀	16.0			良	密	釉薬 灰白色 明緑灰色	5Y8/2 10GY			内外面に染付
400	017-07		SD31		磁器			底径 9.2	良	密	灰黄色	2.5Y7/2	1/4		
401	014-01	d13	SD31		瓦質土器 風炉?	41.3			並	やや密	灰色 にふい橙色	2.5Y4/1 5YR7/4	1/6		スタンプ
402	014-02	d13	SD31		陶器 壺	48.0			並	やや粗	灰色 灰褐色	5Y5/1 7.5YR4/2	1/10	常滑	
403	043-05		SK5		土師器 皿	8.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/5		
404	043-03		SK5		土師器 皿	12.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/8	南伊勢?	
405	043-02		SK5		土師器 皿	10.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/6	南伊勢	
406	044-07		SK5		陶磁器 皿?	13.0			並	やや密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	5Y8/1 5Y6/3	1/9		
407	044-03		SK5		瓦質土器 浅鉢?				並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3			外面に花文スタンプ
408	044-04		SK5		陶器 椀?	24.0			並	やや密	灰白色	5Y7/2	1/11		
409	043-06		SK7		土師器 皿	14.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/2	1/8	中北勢	
410	043-09		SK7		土師器 皿	14.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/9	中北勢	

第11表 出土遺物観察表(9)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
411	044-06		SK7		磁器 皿?	13.0			並	やや密	釉薬 灰白色 灰白色	7.5Y8/1 10Y7/2	1/8		青磁 外面に蓮弁文
412	043-08		SK12		土師器 皿	12.0			並	やや密	褐灰色 浅黄橙色	5YR5/1 10YR8/3	1/8	中北勢	
413	043-04		SK12		土師器 皿	13.0	2.0		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/9	中北勢	
414	043-01		SK13		土師器 皿	10.0	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	南伊勢	
415	043-10		SK13		土師器 皿	14.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/2	1/6	中北勢	
416	043-07		SK16		土師器 皿	13.0			並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	1/11	中北勢	
417	046-03		SK17		土師器 皿	13.8	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
418	044-08		SK6		磁器 皿?			底径 5.0	並	やや密	釉薬 淡黄色 明オリブ灰色	2.5Y8/3 5GY7/1	1/3		『成』?
419	106-05		SK36		磁器 皿?			底径 5.0	良	やや密	明緑灰色 灰白色	5G7/1 N8/0	1/6		明代 染付
420	105-03	f7	SZ13		陶器 瓶子	8.0			良	密	灰白色 灰オリブ色	5Y7/1 5Y5/3	1/3		
421	089-01	d7	p11		陶器 椀	16.0	5.1		良	やや粗	灰白色	10Y7/1	底部 完存		山茶椀 墨書『南房』有り
422	102-05	e7	p11		陶器 椀			高台径 7.2	並	やや粗	灰白色	5Y7/1			
423	092-04	d4	p4		陶器 椀			高台径 7.1	良	粗	灰白色	2.5Y7/1	1/2		山茶椀
424	091-07	d9	p4		陶器 椀				良	やや粗	灰白色	N8/0			山茶椀
425	098-04	e3	p8		陶器 椀	13.9			並	やや粗	灰白色	N8/0			山茶椀
426	103-04	f0	p1		瓦器 椀			高台径 6.0	並	密	浅黄橙色	10YR8/3	2/5		螺旋状暗文有り いふし不充分
427	102-04	e7	p11		土師器 皿	8.0	2.0		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2		南伊勢	
428	100-01	e6	p16		土師器 皿	9.0	2.4		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/4	南伊勢	
429	096-11	d7	p8		土師器 皿	10.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/5	南伊勢	
430	094-03	d6	p3		土師器 皿	11.1	2.2		並	密	灰白色	2.5Y8/2	1/7	南伊勢	
431	107-05	f9	p3		土師器 皿	9.6			並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	1/6	南伊勢	
432	096-12	d7	p8柱根		土師器 皿	10.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/8	南伊勢	
433	096-10	d6	p6		土師器 皿	10.0	2.4		並	やや密	灰白色	2.5Y8/1	完存	南伊勢	
434	097-11	d9	p8柱根		土師器 皿	10.7			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/6	南伊勢	
435	100-06	e6	p10		土師器 皿	6.0	1.2		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/3	1/4		
436	093-03	d4	p8		土師器 皿	6.6	1.2		並	密	橙色 にふい橙色	5YR7/6 7.5YR7/4	1/4		
437	091-06	d7	p17		土師器 皿	7.0	1.6		並	やや粗	にふい黄橙色	10YR7/3	1/4	南伊勢	
438	107-04	c0	p2		土師器 皿	7.2	1.6		並	密	灰白色	10YR8/2	2/3		
439	093-06	d4	p3		土師器 皿	10.2	1.7		並	密	浅黄橙色	10YR8/3	1/6	中北勢	
440	103-06	f2	p2掘形		土師器 皿	9.7	1.7		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	中北勢	
441	094-08	d1	p2		土師器 皿	10.1	1.8		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	中北勢	
442	093-02	d4	p3掘形		土師器 皿	10.6	2.4		並	やや密	にふい黄橙色	10YR7/3	ほぼ 完存	中北勢	
443	087-03	e4	p1		土師器 皿	11.2			並	やや密	浅黄橙色 にふい黄橙色	10YR8/4 10YR7/4	1/5	中北勢	
444	096-07	d7	p5柱根		土師器 皿	12.0	1.9		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	中北勢	
445	102-09	e7	p15		土師器 皿	12.4	2.2		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/4		中北勢	
446	107-02	f6	p6		土師器 皿	11.8	1.5		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/8	中北勢	
447	094-06	d2	p5		土師器 皿	11.8	2.1		並	やや密	にふい黄橙色 灰白色	10YR7/3 10YR8/2	1/8	中北勢	
448	093-07	d5	p3掘形		土師器 皿	12.4	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3		中北勢	
449	096-05	d7	p3		土師器 皿	12.0	2.0		並	やや密	にふい橙色	7.5YR7/3	小片	中北勢	
450	097-04	d8	p4掘形 p9掘形		土師器 皿	12.0	2.0		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/6	中北勢	
451	097-02	d8	p14掘形		土師器 皿	13.5	2.2		並	やや密	灰白色	10YR7/2	1/3	中北勢	
452	096-08	d6	p12		土師器 皿	12.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	中北勢	
453	086-07	e3	p4掘形		土師器 皿	12.8	1.9		並	密	にふい黄橙色 灰黄褐色	10YR7/3 10YR6/2	1/6	中北勢	
454	097-01	e4	p6		土師器 皿	13.2	2.4		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/10	中北勢	
455	102-08	e7	p15		土師器 皿	12.6	2.2		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4		南伊勢	
456	107-01	f6	p2		土師器 皿	13.0			並	密	浅黄橙色	10YR8/3	1/6	中北勢	

第12表 出土遺物観察表 (10)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色	調	残存度	産地 分類	備 考
						口径	器高	その他							
457	097-09	d8	p4掘形		土師器 皿	13.2			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/12	中北勢	
458	096-09	d7	p1掘形		土師器 皿	13.0			並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	1/7	中北勢	
459	096-02	d7	p1柱根		土師器 皿	17.0			並	やや密	浅黄色	2.5Y7/3	小片	中北勢	
460	092-05	d2	p1		土師器 皿	6.4	2.1		並	密	浅黄橙色	7.5YR8/4	小片	畿内	へそ皿
461	102-07	e7	p14		土師器 皿	6.6			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3		畿内	
462	094-02	d6	p2掘形		土師器 皿	10.0	2.4		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	畿内	
463	096-06	d7	p8掘形		土師器 皿	12.0			並	密	灰白色	10YR8/2	1/4	畿内	
464	096-04	d7	p14掘形		土師器 皿	13.0			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/6	畿内	
465	099-06	e6	p9		土師器 皿	15.0			並	やや密	灰白色	10YR8/1	1/8	畿内	
466	088-04	e3	p4柱根		土師器 皿	11.8			並	やや密	浅黄橙色 にふい黄橙色	10YR8/4 10YR7/4	1/8		
467	097-07	d8	p15		土師器 皿	14.4			並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/7	畿内	
468	096-01	d7	p8掘形		土師器 鉢	22.0			並	やや粗	灰白色	2.5Y8/2	1/9	南伊勢	
469	093-01	d6	p2掘形		瓦質土器 鉢	15.6			並	やや粗	灰色 黄灰色	10Y5/1 2.5Y4/1	1/10		片口
470	103-05	f2	p2掘形		土師器 鉢	21.2			並	やや密	灰黄褐色	10YR5/2	1/10	中北勢	
471	103-03	e8	p13		陶器 皿	8.8	2.2	底径 5.2	並	やや密	灰白色 淡黄色	2.5Y8/1 2.5Y8/3	1/4		
472	105-01	c0	p2		陶器 椀			底径 5.5	並	やや密	釉薬 浅黄褐色 にふい橙色 にふい黄褐色	10YR8/3 7.5YR7/4 10YR6/4	底部 完存		
473	102-02	e7	p2掘形		陶器 瓶?	12.5			並	密	浅黄色 灰褐色	2.5Y7/3 7.5YR4/2			
474	101-04	e6	p16		磁器 椀				良	密	灰白色 明オリーブ灰色	7.5Y8/1 5GY7/1	小片	龍泉	青磁 蓮弁文
475	098-09	d8	p8柱根		陶器 椀	12.0			並	密	釉薬 灰白色 褐色 黒色	2.5Y8/1 7.5YR4/3 N2/0	1/12		天目
476	098-10	e2	p1		磁器 椀	12.0			並	密	釉薬 灰白色 明緑灰色	N8/0 10GY7/1	1/12		青磁
477	098-05	d9	p5		陶器 椀			高台径 4.6	並	やや密	釉薬 灰白色 黒褐色	5Y8/1 7.5YR3/2	1/3		天目
478	092-03	d3	p4		陶器 椀			底径 4.5	並	密	灰白色 灰黄褐色	2.5Y8/1 10YR3/2	底部 完存		天目
479	098-11	e2	p1		磁器 椀	16.0			並	密	灰白色	N8/0	小片		白磁
480	095-01	d6	p4柱根		陶器 水注			底径 10.0	並	やや密	灰白色 灰色 オリーブ黄色	5Y8/1 N5/0 5Y6/3	底部 完存		
481	104-05	f4	p5		石製品 砥石										
482	106-04	d8	p14 掘形		石製品 砥石	長さ 5.5	幅 2.2	厚さ 1.8							
483	104-07	f6	p1		陶器 深皿	38.2			良	密	灰白色 灰オリーブ色	5Y8/1 7.5Y6/2	小片		
484	106-01	l10	p1		陶器 壺	32.2			良	やや粗	オリーブ黒色 灰白色	5Y3/2 5Y7/2	1/12	常滑	
485	092-01	d6	p1柱根		陶器 壺	47.7			良	やや粗	褐灰色	10YR5/1	1/10	常滑	
486	118-06	d7	p8掘形		鉄製品 釘				並						
487	118-05	d6	p2掘形		鉄製品 釘				並						
488	013-04	a13	SA19		土師器 皿	8.0	1.4		並	やや密	にふい橙色 橙色	7.5YR7/4 5YR7/6	5/8	南伊勢	
489	013-01	e12	SA19 掘方		土師器 皿	15.0	2.2		並	やや粗	浅黄褐色	10YR8/3	1/8	南伊勢	
490	012-06	d12	SA19 掘方		土師器 皿	17.8			並	やや粗	浅黄褐色	10YR8/3	1/10	南伊勢	
491	012-04	a13	SA19		陶器 壺				並	やや粗	釉薬 灰赤色 黒褐色	2.5YR4/2 5YR3/1		常滑	
492	013-06	b14	SA19		陶器 加工円盤			重量 49.955g	良	密	釉薬 灰黄色 明オリーブ灰色	2.5Y7/2 5GY7/1			
493	013-05	d12	SA19 掘方		陶磁器 皿?			高台径 8.6	良	密	釉薬 灰白色 青灰色 暗青灰色	N8/0 10BG6/1 10BG3/1	1/10		内外面に染付
494	013-02	b13	SA10 掘方		土師器 皿	13.0			並	やや密	浅黄褐色	10YR8/3	1/7	南伊勢	
495	013-03	b13	SA10 掘方		土師器 皿		2.1		並	やや粗	灰白色	10YR8/2		南伊勢	
496	013-07	d12	SA10		陶器			高台径 9.2	良	やや密	釉薬 淡黄色 オリーブ黄色	2.5Y8/3 7.5Y6/3	1/6		
497	106-02	e12	SA10		磁器 壺?				良	密	灰白色 明緑灰色	N8/0 10GY7/1	小片		青磁
498	012-01	d12	SA10		陶器 鉢	30.0			並	やや粗	暗赤灰色 にふい赤褐色	10YR3/1 5YR5/2		常滑	
499	105-07	b15	p2		陶磁器 椀	13.0			良	密	灰白色	2.5GY8/1	1/8		
500	106-03	b15	p1		陶磁器 椀	11.6			良	密	灰白色 明緑灰色	2.5GY8/1 7.5GY8/1	1/8		
501	005-04	a13	SK1		陶器 椀	8.0	5.0	高台径 4.5	良	やや粗	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	N8/1 7.5Y5/3	底部 完存		

第13表 出土遺物観察表 (6)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調	残存度	産地 分類	備 考	
						口径	器高	その他							
502	105-08	b15	p3		陶磁器 椀			底径 6.2	良	密	灰白色 灰白色	5Y7/2 7.5Y7/1	1/6		
503	105-04	a13	p1		陶磁器 椀	15.4			良	密	淡黄色	2.5Y8/3	1/6		
504	005-03	b15	p3		陶器 鉢			底径 11.0	良	やや粗	釉薬 灰白色 灰白色	2.5Y8/2 10Y8/1	1/7		
505	010-01	b14	p1		磁器 椀			高台径 6.5	良	密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	N7/0 2.5GY5/1	1/4		
506	009-05	b15	p1・p2		石製品 砥石	長さ 6.5	幅 1.1	厚さ 2.4							
507	113-04	e3	包		土師器 皿	8.6	1.6		並	やや密	にふい 淡橙色	5YR7/4 5YR8/4	完存	中北勢	
508	077-06		SD11 上面	11	土師器 皿	9.0	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/5	中北勢	
509	074-09	e2	SD11 上面	31	土師器 皿	9.8	2.6		並	やや密	灰白色	2.5Y8/2	3/4	中北勢?	
510	075-06	e2	SD11 上面	24	土師器 皿	10.0			並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	中北勢	
511	074-07	e2	SD11 上面	32	土師器 皿	10.2	2.0		並	やや密	淡黄色	2.5Y8/3	完存	中北勢	
512	113-06	e3	包		土師器 皿	9.0			並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4	1/4	南伊勢	
513	008-06	d14	包		土師器 皿	7.7	1.3		並	密	灰白色	2.5Y8/2	1/5	南伊勢	
514	113-05	d2	包		土師器 皿	8.3	1.2		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4		中北勢	
515	080-07	e2	SD11 上面	13	土師器 皿	10.0			並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/3	1/4	中北勢	
516	080-05	e2	SD11 上面	12	土師器 皿	10.0			並	やや密	にふい 黄橙色	10YR7/2	1/4	中北勢	
517	074-06	e2	SD11 上面	27	土師器 皿	9.2	1.9		並	やや密	にふい 橙色	7.5YR7/4	1/6	中北勢	
518	008-07	d11	包		土師器 皿	6.8	1.5		並	やや密	浅黄橙色	7.5YR8/4	1/3	畿内	へそ皿
519	076-04		SD11 上面	15	土師器 皿	11.0	2.0		並	やや密	にふい 黄橙色	10YR7/4	1/8	畿内	
520	077-05	e2	SD11 上面	11	土師器 皿	12.0	1.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/4	中北勢	
521	075-04	e2	SD11 上面	21	土師器 皿	11.5	1.8		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	中北勢	
522	075-03	e2	SD11 上面	21	土師器 皿	12.5	2.0		並	やや密	灰白色	10YR8/2	3/4	中北勢	
523	111-03	d2	包		土師器 皿	12.0	2.3		並	やや密	灰黄色	2.5Y7/2		中北勢	
524	073-03	e2	SD11 上面		土師器 皿	12.0	2.4		並	やや密	灰白色	10YR8/2	9/10	中北勢	
525	074-04	e2	SD11 上面	26	土師器 皿	12.0	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	3/4	中北勢	
526	008-02	c11	攪乱		土師器 皿	12.8	2.4		並	やや密	にふい 黄橙色	10YR7/4	3/4	中北勢	
527	073-06	e2	SD11 上面	13	土師器 皿	12.0	1.6		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/4	中北勢	
528	074-08	e2	SD11 上面	33	土師器 皿	11.8	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/3	中北勢	
529	075-01	e2	SD11 上面	17	土師器 皿	12.5	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/2	中北勢	
530	006-04	d13			土師器 皿	13.0	1.6		並	やや密	にふい 黄橙色	10YR7/4	口縁部 1/12	中北勢	
531	073-07	e2	SD11 上面	2	土師器 皿	13.0	2.1		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/3	中北勢	
532	008-05	d14	包		土師器 皿	13.6	1.8		並	やや密	にふい 黄橙色	10YR7/4	1/6	中北勢	
533	073-05	e2	SD11 上面	7	土師器 皿	12.0	2.2		並	やや密	橙色	7.5YR7/6	1/3	中北勢	
534	074-02	e2	SD11 上面	14	土師器 皿	12.3	2.5		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
535	073-04	e3	SD11 上面	4	土師器 皿	13.4	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/2	中北勢	
536	074-01	e2	SD11 上面	34	土師器 皿	12.7	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	中北勢	
537	074-05	e2	SD11 上面	27	土師器 皿	12.4	2.1		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	1/2	中北勢	
538	075-05	e2	SD11 上面	20	土師器 皿	13.0	2.3		並	やや密	灰白色	10YR8/2	1/2	中北勢	
539	073-02	e2	SD11 上面	1	土師器 皿	13.7	2.2		並	やや密	灰白色	10YR8/2	完存	南伊勢	
540	113-03		包		土師器 皿	14.6	2.0		並	やや密	浅黄橙色	10YR8/3	完存	中北勢	
541	077-02	e8	SD11 上面		土師器 鉢	24.0			並	やや粗	灰白色	2.5Y8/2	1/8	南伊勢	
542	111-02	d2	包		土師器 羽釜	26.0			並	やや密	にふい 橙色 黒褐色	7.5YR6/4 7.5YR3/1	1/13	中北勢	
543	073-01	e2	SD11 上面	8	土師器 鉢	33.5			並	やや密	褐灰色 にふい 黄橙色	10YR6/1 10YR7/2	小片	南伊勢	
544	078-03	e2	SD11 上面		陶磁器 皿?	13.0			良	密	灰白色	2.5GY8/1	1/12		外面に染付 火を受けている
545	078-05	e2	SD11 上面		陶磁器 皿?	17.0			良	密	灰白色	10GY8/1	1/14		外面に染付
546	078-06	e7	SD11 上面		陶磁器 皿?			底径 8.0	良	密	灰白色	2.5GY8/1	1/6		内外面に染付
547	010-03	e11	包		陶器 瓶?	10.2			良	密	釉薬 灰白色 灰白色	7.5Y8/1 7.5Y7/1			

第14表 出土遺物観察表 (12)

報告書 番号	登録 番号	地区	出土 遺構	取り上 げ番号	器 種	法量 (cm)			焼成	胎 土	色 調		残存度	産地 分類	備 考	
						口径	器高	その他								
548	010-02	e11	包		磁器 椀?				良	密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	N8/0 2.5GY5/1				
549	078-01	e2	SD11 上面	23	磁器 花瓶?		底径 6.5		良	密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色 にふい橙色	10YR8/1 10Y5/2 7.5YR6/4	1/3		青磁	
550	077-04	e2	SD11 上面		陶器 椀	15.0			良	密	釉薬 灰色 黒色 褐色	5Y6/1 7.5YR7/1 7.5YR4/4	1/12			
551	077-03	e2	SD11 上面	5	陶器 椀				良	密	釉薬 褐灰色 にふい褐色 黒色	10YR6/1 7.5YR5/3 2.5Y2/1				
552	111-01		包		陶器 鉢	33.3	14.6	底径 15.4	並	粗		赤褐色 にふい橙色	10YR5/4 2.5YR6/4	1/3	信楽	
553	076-02	e7	SD11 上面		陶器 鉢	27.0			良	やや粗		灰白色	N7/0	1/8		
554	076-01	e2	SD11 上面	9	陶器 こね鉢	38.0			並	やや粗		にふい黄褐色	10YR7/4	1/4	常滑	
555	113-01	d3	包		陶器 瓶				良	やや密		灰オリーブ色 灰黄色	7.5Y5/3 2.5Y7/2			
556	106-06	d12	東西石 列内		陶器 蓋	7.2	1.5		良	密		灰白色 オリーブ黒色	2.5Y8/2 7.5Y3/2	1/3		
557	112-01	e11	包		陶磁器 椀	8.5	4.7	底径 3.8	良	密		灰白色	7.5Y8/1	1/2		
558	112-02	e11	包		陶磁器 椀	10.0			良	密		灰白色	N8/0	小片	肥前?	
559	010-05	d12	包		陶器 椀	7.6			良	密	釉薬 白色 灰白色	5GY8/1	1/2		内外面に染付	
560	112-03	d2	包		陶磁器 椀	11.3			並	やや密		浅黄色 灰白色	2.5Y7/3 7.5Y7/1		伊賀?	
561	003-01	b15	包		陶器 椀	11.0	6.3	底径 6.0	並	密	釉薬 灰白色 明緑灰色	2.5Y8/2 10GY8/1	底部 1/2		外面に染付	
562	010-04	d12	包		陶器 椀	10.0	6.0	高台径 3.4	良	密				1/6	内外面に染付	
563	112-04	e9	包		陶器 皿	9.2	2.1	底径 5.0	並	やや密		灰白色	5Y7/1	1/2		底部外面に糸切り痕
564	002-05	e12	包		陶器 皿	10.0	2.1	底径 4.8	並	やや密	釉薬 灰黄色 浅黄色	2.5Y7/2 5Y7/3	底部 4/5			
565	002-03	d14	包		陶器 皿	11.0	2.2		並	やや密		にふい赤褐色 にふい赤褐色	2.5YR5/4 5YR5/4	1/4	瀬戸	灯明皿
566	002-06	d12	包		陶器 皿	11.5	2.9	底径 6.5	並	やや密	釉薬 灰黄色 灰白色	2.5Y7/2 7.5Y7/2	底部 完存			
567	005-05	d12	包		磁器 椀			高台径 5.0	良	密	釉薬 白色 明青灰色	N9/0 10BG7/1	底部 1/3			
568	006-02	d12	包		陶器 蓋				良	密	釉薬 淡黄色 浅黄色	2.5Y8/3 7.5Y7/3			重ね焼痕	
569	004-02	d12	包		瓦質土器 火鉢、風炉?				並	やや粗		にふい黄褐色	10YR7/4		内面に煤付着	
570	002-04	d12	包		陶器 椀	17.0			並	やや粗	釉薬 にふい褐色 灰黄褐色	7.5YR7/4 10YR5/2	1/8			
571	005-02	d12	包		瓦質土器	24.0			並	やや粗		橙色	7.5YR7/6	1/7		
572	004-01	d12	包		瓦質土器 鉢	31.0	9.6		良	密		灰色	N5/1	口縁部 1/5		
573	112-07	e6	包		石製品 砥石	長さ 3.6	幅 1.9	厚さ 1.5	並							
574	112-06	a15	包		石製品 砥石	長さ 6.7	幅 2.3	厚さ 1.3	並							
575	004-04	c12	包		陶磁器 加工円盤			重量 102.1g	良	密	釉薬 灰白色 オリーブ灰色	N7/0 2.5GY5/1				
576	002-02	b15	包		陶器 皿			底径 17.5	並	やや密		淡黄色	2.5Y8/3	1/5	三足	
577	001-02	e12	攪乱		土師器 焙烙	32.0			並	やや密		灰色	7.5Y4/1	小片		
578	002-01	d12	包		土師器 焙烙				並	やや密		灰色	7.5Y4/1			
579	001-01	e11	包		土師器 焙烙	32.0			並	やや密		灰色	7.5Y4/1	1/10		
580	005-01	d12	包		土師器 焙烙	35.0			並	やや密		浅黄色	2.5Y7/3	1/10	外面煤付着	
581	009-01	e11	包		土師器 焙烙	38.0			良	やや密		灰白色	7.5Y8/1	1/12		
582	001-03	b15	包		陶器 播鉢	32.0			並	やや粗		褐灰色 にふい褐色	5YR5/1 7.5YR6/3	1/8		
583	004-03	d14	P1		陶器 播鉢				良	やや密	釉薬 灰白色 暗赤灰色	10Y8/1 5R4/1			内面に播り目	
584	004-05	d12	包		陶器 播鉢				良	やや密	釉薬 浅黄褐色 赤灰色	10YR8/4 2.5YR4/1			内面に播り目	
585	114-08	f4	包		銭貨											

第15表 出土遺物観察表 (13)

V まとめ

調査の結果、鎌倉時代から近世の遺構を確認した。幅10m程の道路幅での調査であり、遺跡全体の性格を十分把握できたとはいえないが、気づいた点を述

べ、現時点での遺跡の性格について言及し、まとめとしたい。

1 遺構について

確認できた遺構のほとんどは、出土した遺物から

15世紀半ば～16世紀にかけてのものだと判断している。



第39図 『五街道其外分間絵図』加太越奈良道見取図より加太宿付近

道路幅での調査という制約から掘立柱建物に関しては規模が不明なものが多いが、方角を揃えて建てられていることは明らかである。また、建物にまとめられることはできなかったが、柱痕跡の残る小穴も多数あり、何度か建替えられたことが窺える。継続して建物が存在したことは間違いない。

遺構の配置としては、調査区西半部に掘立柱建物が並び、それを区画すると思われる溝SD31がある。SD31と掘立柱建物の標高とは約1mの比高差がある。しかしSD31の直上に石垣SA10・19が建設されたため、SD31の上部は確認できなかった可能性が高い。同じ高さで存在していたと考えればSD31は約2.3mの深さとなり、非常に深い堀状の施設であった可能性がある。堀の内側には全く遺構の認められない空間がある場合、そこに土塁があったと推定されていることが多い^①。しかし今回の調査区では、SD31と掘立柱建物との間には確かに約12m程の距離があるが、SK9・14・22という土坑があり、土塁が存在したとは言い難い。土層の観察からも土塁

の存在は確認できなかった。とはいえ掘立柱建物と溝、土坑が同時期に存在したとは断言できない一方、遺物から時期差があるとも判断できず、現段階では土塁の存在は可能性として低いと考えている。

次に、石垣SA10・19について若干の私見を述べる。SA10・19は、詳細な時期を決定できる遺物はないが、遺構との重複関係から近世のものと考えられる。近世、調査区の間屋場・高札場が設置されていたという。大和街道は津藩の官道の第一とされており、『三国地誌』には「東国路」と記されている。津藩の宿場町の特徴として、本陣や問屋の西に火除と称する土塁が設けられていたという。SA10・19は問屋場・高札場があったとされる場所の西に位置する。文化3年(1806)に完成した『五街道其外分間絵図』(第39図)では問屋場の西に土手状の表現が見られる。火除土塁がいつ頃からつくられたのかは不明であるが、SA10・19はその一つであった可能性も考えられる。

(角正淳子)

2 遺物について

(1) 中世後期の土師器皿について

今回の調査では、15世紀後半を中心とした遺物が多く出土した。なかでも、土師器皿は中・北勢地域で広く出土がみられる、いわゆる中北勢系土師器^②がまとめて出土した他、南伊勢系のものや畿内系のものなど他系統と思われる一群も認められる。そこで、今回、当該時期の土師器皿について形態や出土状況をみとめることにしたい。

A 分類

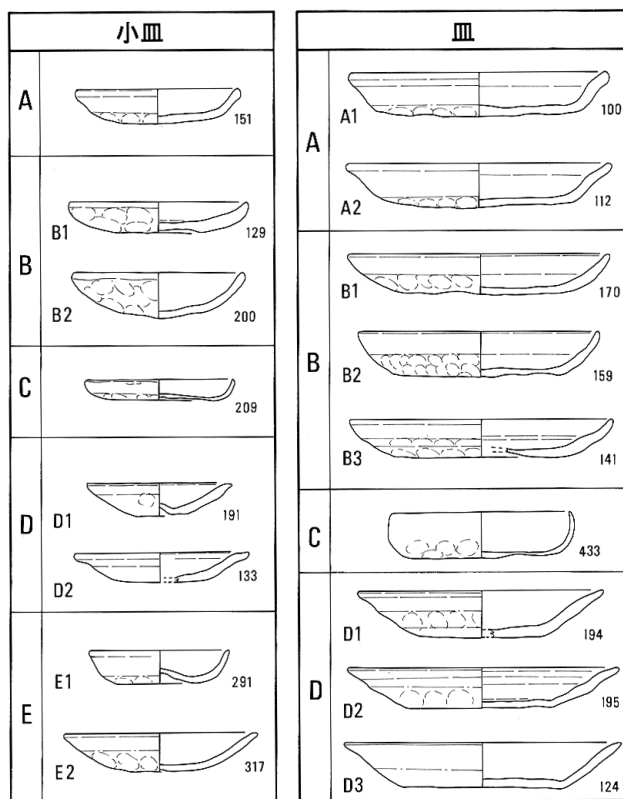
土師器皿については、調整手法や形態な特徴などから、第40図のように分類を試みてみた。

(a) 皿 口縁部径が10cm～15cmのものである。形態から大きく4つに分けることができる。

皿A 中北勢系土師器の範疇で把握できる一群のうち、平らな底部からほぼ直線的に立ち上がるものである。

口縁部がほぼ直線的に立ち上がるA1と、口縁端部が緩やかに外反するA2がある。

皿B 中北勢系土師器の範疇で把握できる一群のうち、丸底の底部から丸みを帯びて立ち上がるもので



第40図 土師器皿分類図 (S=1:4)

ある。口縁部に強いヨコナデを施し、内面に明瞭な稜をもつものが多い。

口縁部が内彎するB 1、内面に稜をもつB 2、強い稜をもち口縁部が外側に開くB 3がある。

皿C 南伊勢系土師器の系統にあるものである。口縁部は底部から内彎気味に立ち上がる。器壁は全体的に薄い。伊藤裕偉氏分類のB系統に相当する^③。

皿D 京都や大和など、畿内地方からの搬入品の可能性があるもの。いわゆる「京都系」の系統で把握できるものである。内外面にヨコナデを丁寧に施し、口縁部は直線的に開くものが多い。

やや丸みを帯びた底部からほぼ直線的に開くD 1、口縁端部がやや外反するD 2、平らな底部から口縁部が直線的に開くD 3がある。

(b) 小皿 口縁部径が10cm以下のものである。形態から大きく5つに分けることができる。

小皿A 中北勢系土師器の範疇で把握できる一群で、平らな底部から口縁部が直線的に立ち上がるものである。外面のヨコナデは底部近くまで施されている。

小皿B 中北勢系土師器の範疇で把握できる一群で、

断面が弧状を呈するものである。

口縁部端部を尖り気味におさめる小皿B 1、底部が丸みを帯び、やや器高が高い小皿B 2がある^④。

小皿C 南伊勢系土師器の系統にあるものである。器高が低く、底部から口縁部が内彎気味に立ち上がるものが多い。

小皿D 畿内地方からの搬入品の可能性があるものである。小皿D 1はいわゆる「ヘソ皿」であり、大和もしくは伊賀からの搬入品の可能性がある。

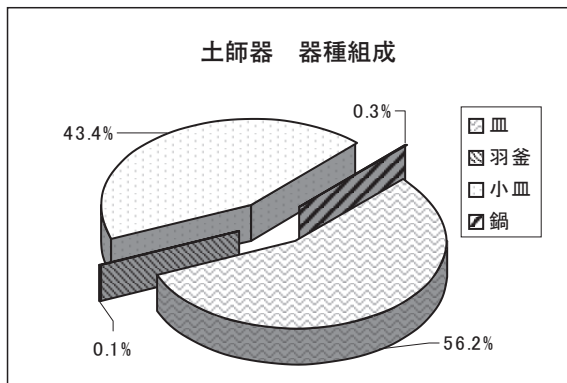
底部が突出し、口縁部が直線的に立ち上がる小皿D 1と、口縁部上半が外反する小皿D 2がある。

小皿E 形態や調整手法から小皿Dの一部を模倣した可能性があるものである。本来は形態的な特徴などから、それぞれ別系統の可能性もあるが、資料的にも少ないため、便宜的にまとめておいた。

底部が突出し、口縁部が内彎気味に立ち上がる小皿E 1、丸みを帯びた底部から口縁部がほぼ直線的に開く小皿E 2がある。

B 土師器皿の計測分析

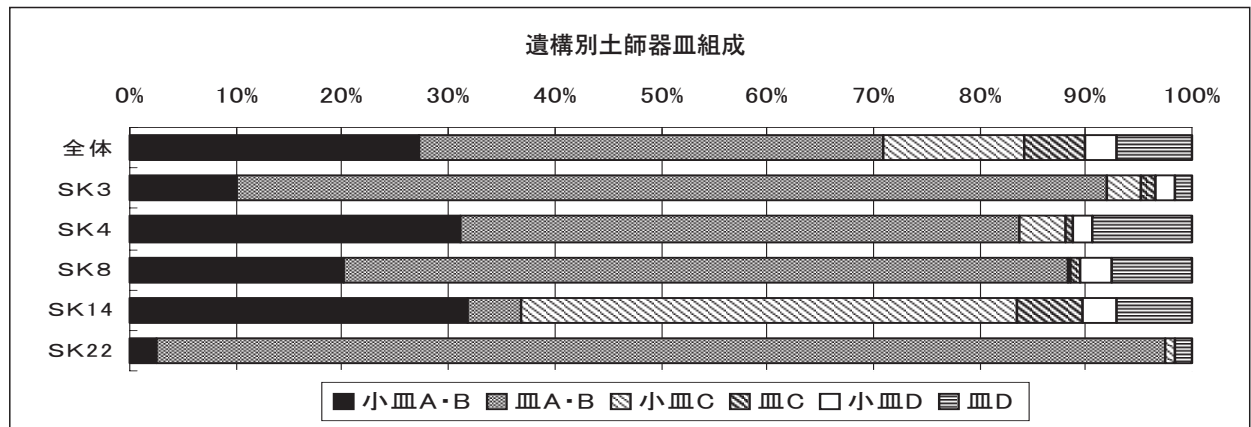
出土遺物については総量の把握を目的として、未



第41図 土師器器種組成図

遺構名	小 皿			皿		
	A・B (中北勢系)	C (南伊勢系)	D (畿内系)	A・B (中北勢系)	C (南伊勢系)	D (畿内系)
全体	4277	2063	484	6831	897	1098
SK 3	62	19	11	506	9	10
SK 4	138	19	9	232	3	41
SK 8	526	7	81	1774	22	195
SK 14	121	177	12	19	24	27
SK 22	8	3	0	314	0	5

第4表 土師器皿遺構別計測表



第42図 遺構別土師器皿組成図

抽出分遺物を含めて計測分析を実施した。計測の方法は、口縁部が残存している状態を「12」とし、そのうちの口縁部がどの程度残存しているかを計測して算出をおこなう、「口縁部計測法」を用いることにした。

第41図は、調査区内から出土した土器のうち、陶器や磁器類を除いた土師器類について集計し、グラフ化したものである。このうち、土師器皿・小皿類は全体の90%近くを占めており、煮沸具に比べて突出して多いことが明らかとなった。また、土師器皿類は口縁部の残存量からみると、個体数は単純に12で割ると、 $15,650/12=1304.17$ 個体分となり、総数は1,300点以上を占めていることがわかる。

ところで、土師器皿類は分類別に皿・小皿の割合を遺跡全体及び主要遺構について集計してみた（第4表、第42図）。ここでは、未抽出分では細片のため見分けがつき難いものがあるため、皿・小皿を「中北勢系」、「南伊勢系」、「畿内系」という大きな区分でまとめ、それぞれの割合を提示するに留めた。まず、調査区全体では皿・小皿とも中北勢系の一群が大半を占め、南伊勢系や畿内系の一群を圧倒している。ただ、煮沸具では南伊勢系の鍋が全体の7割近くを占めており、土師器皿類とは相反した数値を示している。

遺構別では基本的に中北勢系が多数を占める傾向が窺える。しかし、SK14のように南伊勢系の割合が他の系統を上回るものや、京都系の占める割合が比較的高いSK8など、遺構間のなかで土師器皿の構成比率に若干の格差がみられる。

C 中北勢系土師器について

調査区内で大半を占める中北勢系の土師器皿については、倉田直純氏が下川遺跡で出土した土師器皿をA～Bの4類に分類され、近接する遺跡の類例との比較がおこなわれている⁵⁾。そこで、加太市場遺跡出土の中北勢系の土師器皿について、こうした成果を踏まえ、若干の検討を加えてみたい。

まず、直線的に立ち上がる口縁をもつ皿Aは、SK3、SK22、SK32などでまとまって出土している。口径は概ね13～14cmにおさまっており、一定の規格性が認められそうである。なお、口縁部の形態的な類似から同一の組列上で時期差を示している

可能性も考えられるが、明確な時期差を確認するまでに至らなかった。皿Aと同様の資料は関氏が造営したとされる関町・正法寺山荘跡や亀山市・亀山城三之丸などで確認できるほか、四日市市・米田遺跡⁷⁾などでも類似するものが見られる。

皿Bの系統は、倉田氏の分類によるB・C類に相当するものであり、SK4、SK8、SK34などでまとまって出土している。このうち、口縁部の内面に稜をもつものが大半を占めている。この形態のものは口縁部が内彎する（皿B2）と外反気味に開く（皿B3）に大きく区別できるようである。口径は13～18cm前後までのものが認められ、皿Aと比べると口径のばらつきが大きいようである。皿Bの系統は、芸濃町の下川遺跡、野呂氏館跡をはじめ、津市の南所遺跡、安濃津遺跡群⁸⁾など安濃川水系に所在する遺跡でいくつか類例が確認されている。

以上、当遺跡出土の中北勢系土師器について検討をおこなってみた。資料的な制約もあり、今回、時期的な位置付けは明確にできなかった。しかし、資料の蓄積により、当地域周辺の中北勢系土師器の様相が少しでも明らかにされることを期待したい。

D 土師器皿の使用状況

加太市場遺跡では膨大な量の土師器皿が出土した。出土状況をもても、SK3やSK8などにあるように、大量の土師器皿が一括投棄された遺構の存在やSB40の柱穴内にある墨書土師器皿などから、日常以外の場で使用された可能性が極めて高い。こうした土師器皿の大量出土の事例は、愛知県・清洲城下町遺跡で、城の中心部とされる田中町北部地区にもみられ、出土遺物の組成では土師器皿が全体の90%以上を占めることが明らかにされている⁹⁾。報告者は城下町の景観復元や、他の地区に比べ土師器皿の比率も高いことなどから、武将達の饗宴の場であったことを想定している。時期の違いなどもあり、他の事例との比較は慎重でありたいが、本遺跡での出土状況を見る限り、上位階級が関与するなど通常の集落には見られない特殊な使用状況があった可能性があろう。（濱辺一機）

(2) 墨書土器について

墨書土器は、4点確認した。そのうち、3点は山茶椀・山皿の底部外面に、1点は土師器皿の口縁部

外面に墨書が施されている。山茶碗に施された墨書で文字が判別できたのは421の『南房』のみである。当該時期の居住施設は確認できなかったものの周辺に『南房』と称される施設があった可能性があり、興味深い。

一方、墨書土師器(49)はSB40の柱穴の一つから出土した。口縁部付近の三角形の小片に、口縁に対して右斜めに『二貫七百文』と墨書されている^①。文字の配置から考えて、土師器皿全体に墨書が施され、その一部が残ったというのではなく、最初から破片に墨書されたものと考えられる。

ところで、この破片は何に使用されたのか。『二貫七百文』という文字から金銭に関する用途が想定できる。とはいえ、実際に銭貨として使用したと

は考えにくく、銭貨の代用品として使用したのではないかと考えられる。その場合、地鎮を目的としたのではないだろうか。時期は違うが、掘立柱建物の柱穴内から出土した鎮物としては、建築時には銭貨が多く、廃絶時には供膳形態の土器が多いという傾向が指摘されている。銭貨は「土地神に対する土地の使用料の前払い」と位置付けられている。但し今回の事例は、墨書があると判明したのが2次整理時であったため、柱穴内のどの部分から出土したかは不明であり、建築時・廃絶時の区別はできないが。その他にも、土師器皿に施された墨書資料は、地鎮などの呪文に関係するものが多いという指摘もあり^②、現段階では、地鎮を目的としたものと考えておきたい。(角正淳子)

3 遺跡の性格について

市場遺跡の性格については、やはり鹿伏兎氏との関係を無視することはできない。遺跡の背後には鹿伏兎氏の居城である鹿伏兎城が築かれており、遺跡から約500m東には鹿伏兎氏の居館があったとされる神福寺がある。鹿伏兎氏は『花宮三代記』の「応永二十九年(1422)八月二十五日条」に「(足利義持夫人等参宮)御屋新所、関左馬助、長野、加太、雲林院御雑掌申、」^③の記載があることから、少なくとも15世紀初頭には加太を治めていたと考えられている。今回の調査でも、15世紀半ばから後半を中心とした資料が出土しており、文献の年代と大きく食い違うことはない。

前述したように、堀によって区画され、掘立柱建物が整然と立ち並ぶ状態はかなりの有力者層の屋敷地と考えられる。出土遺物も大量の土師器に加え、一定量の輸入陶磁器や、煮炊具の少なさといった一般の集落との違いが見られる。また、江戸時代の絵図『五街道其外分間絵図』(第39図)には調査区付近に「字中屋敷」の文字が見える。一方で絵図では鹿伏兎氏の居館があったとされる神福寺周辺ではその痕跡が窺えない。こうした点を踏まえ、当遺跡は鹿伏兎氏の居館に相当するのではなかろうか。もし

くはかなり鹿伏兎氏に近い有力層の屋敷と思われる。いずれにせよ、決定付ける資料は現時点では見出せず、今後の資料の増加を待ちたい。

一方、近世の当地域の様相は調査によって明らかになったとは言い難い。石垣の他、数基の土坑が検出できたものの、問屋場・高札場に直接関係するような遺構は検出できなかった。調査区東端で確認した第1面でも数基の土坑が検出できたが、その性格は不明である。

出土遺物には、伊賀産と思われる陶器碗の他、瀬戸産の播鉢や陶器碗、また津市近辺で流通していたと考えられる瓦質焙烙などがある程度で、街道沿いの宿場町として特筆するようなものは出土していない。

加太宿は本陣と問屋場が離れた場所に設置された、通常とは少し異なる宿であり、どのように機能していたかは現段階では不明である。県内で近世の宿場町の調査が行われたのは、伊勢別街道沿いの窪田宿(津市・六大B遺跡)^④、参宮街道沿いの島貫宿(津市・雲出島貫遺跡)^⑤、東海道沿いの関宿(関町)などがある程度である。近世の道路状況や宿の状況は今後の研究課題の一つであろう。(角正淳子)

[註]

① 中井 均「中世の居館・寺そして集落—西国を中心として—」(『中世の城と考古学』、新人物往来社、1991

年)

② ここでの中北勢系土師器とは、伊藤裕偉氏がいう、南

伊勢系と明確に区別されるもので、旧安濃・庵芸郡を中心とした中勢地域や川曲郡・鈴鹿郡以北を中心とした北勢地域の所屬が明らかでない一群と把握している。伊藤裕偉「中世後期中北勢系土師器群に関する覚書」(『研究紀要』第八号、三重県埋蔵文化財センター、1999年)

- ③ 伊藤裕偉『多気遺跡群発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- ④ 小皿B2のなかには、資料的な制約からあえて細分はおこなわなかったが、安濃津遺跡群SK184などに見られるような南伊勢系土師器の模倣系と考えられるものも少量認められる。なお、この南伊勢系土師器の模倣系の状況については伊藤裕偉氏(斎宮歴史博物館)のご教示による。
- ⑤ 倉田直純「下川遺跡」(『伊勢寺廃寺・下川遺跡ほか』、三重県埋蔵文化財センター、1990年)
- ⑥ 笠井賢治氏(上野市教育委員会)のご教示による。
- ⑦ 清水政宏『米田遺跡』(四日市市遺跡調査会、2000年)
- ⑧ 伊藤裕偉『安濃津』(三重県埋蔵文化財センター、1997年)

⑨ 蟹江吉弘『清洲城下町遺跡VI』((財)愛知県埋蔵文化財センター、1996年)

⑩ 墨書については榎村寛之氏・伊藤裕偉氏・天野秀昭氏(斎宮歴史博物館)らのご教示を受けた。

⑪ 鋤柄俊夫「平安京出土土師器の諸問題」(『平安京出土土器の研究』、(財)古代学協会、1994年)

辻佳伸「皿と錢貨—中世地鎮め遺構の様相—」(『真朱』創刊号、(財)徳島県立埋蔵文化財センター、1992年)

⑫ 稲本紀昭「関氏関係史料集成」(『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和60・61年度』、関町教育委員会、1987年)

⑬ 本堂弘之『六大B遺跡(A地区)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1999年)

⑭ 伊藤裕偉『嶋抜II』(三重県埋蔵文化財センター、2000年)

なお、調査期間中及び報文執筆中には伊藤裕偉氏(斎宮歴史博物館)、竹田憲治氏(三重県埋蔵文化財センター)、亀山隆氏・山際文則氏(亀山市教育委員会)、笠井賢治氏(上野市教育委員会)に、数々のご教示を頂きました。最後になりましたが厚くお礼申し上げます。



調査前全景（東から）



第1面全景（西から）



第2面全景（西から）



第2面全景（東から）



SK 3 (北東から)



SK 8 (南から)



S K14・22 (東から)



S K32 (南から)



S D31 (東から)



S D30 (北から)



S A10・19 (北から)



S A10・19 (西から)



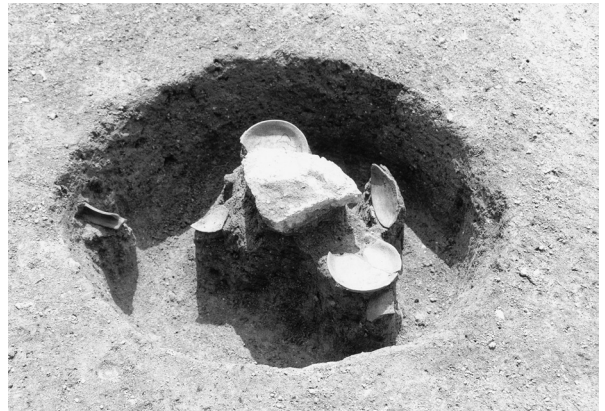
S A10・19 (北から)



S A19 (東から)



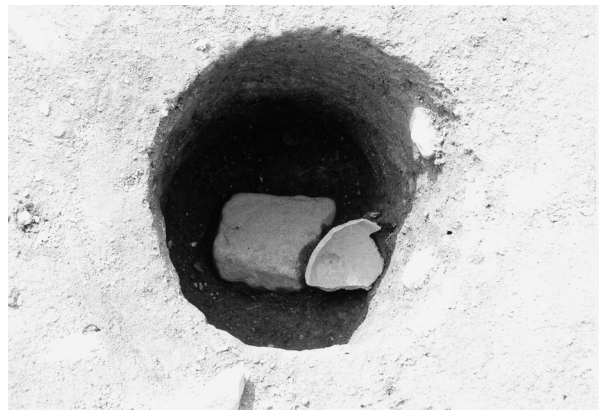
S Z33・S A35



S K21



柱穴



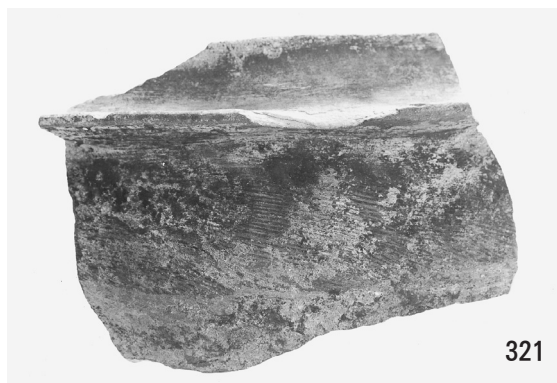
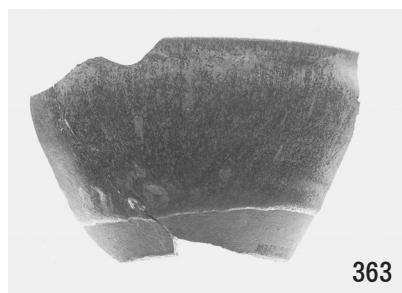
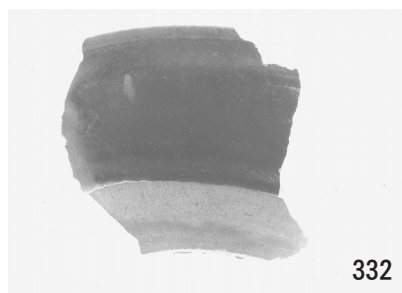
柱穴

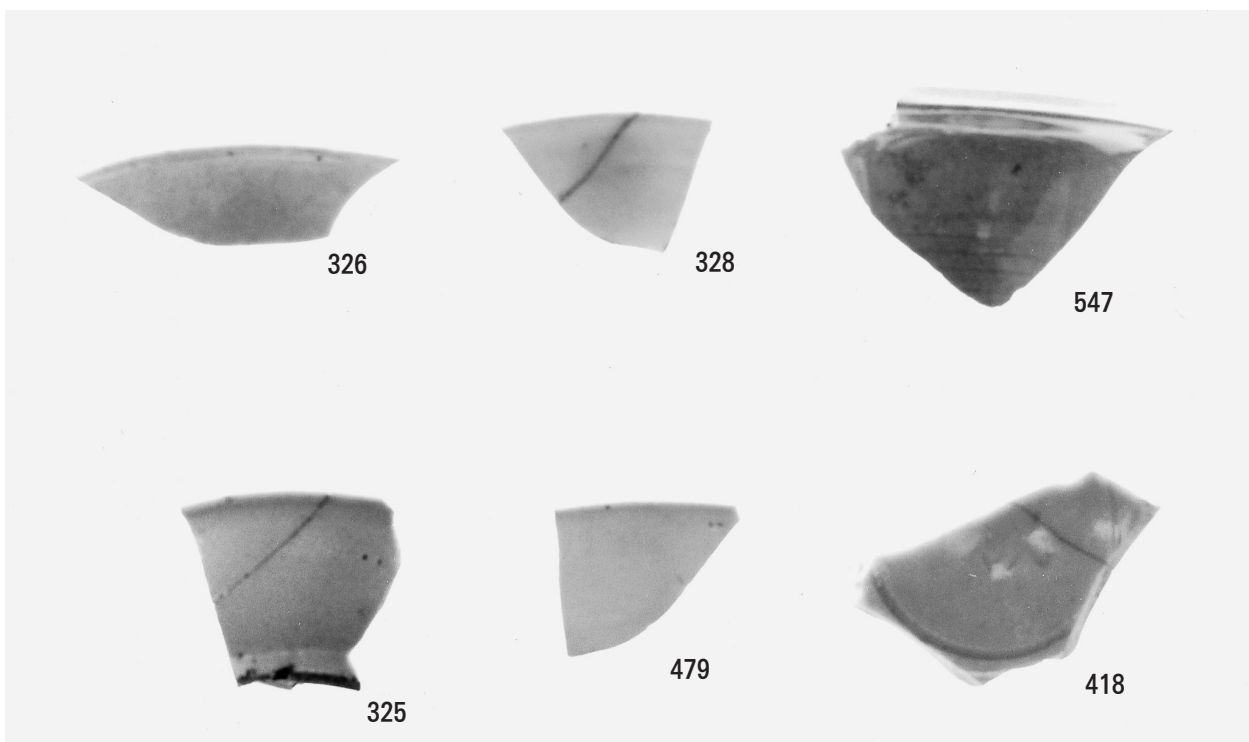
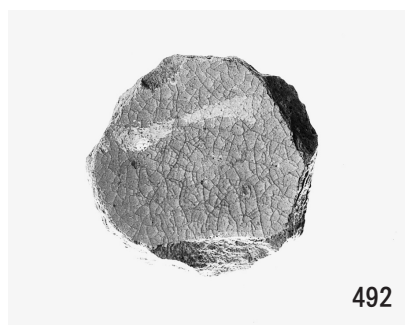


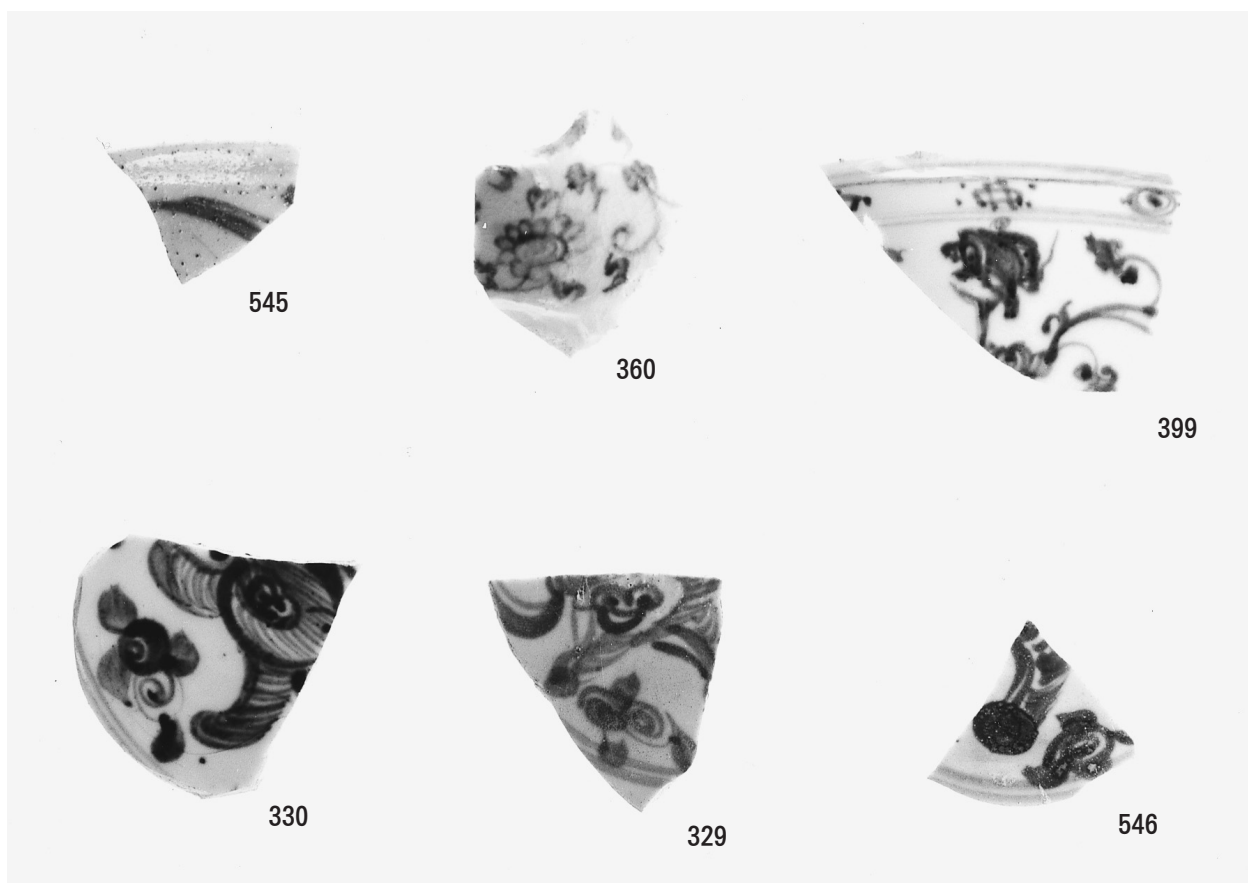
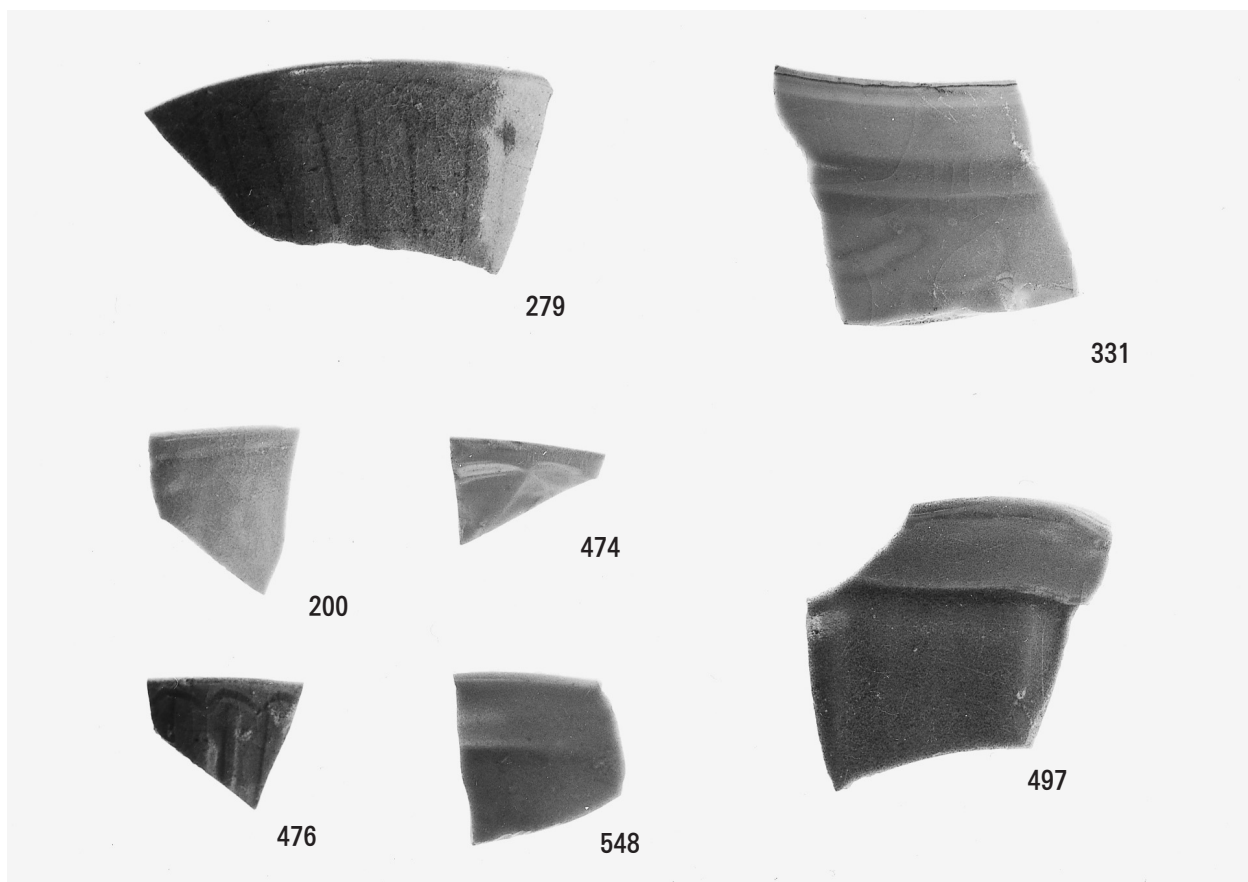












報告書抄録

書名	市場遺跡発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	240							
編著者名	角正 淳子、濱辺 一機							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-1732							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' / "	° / ' / "			
いちば いせき 市場遺跡	すずかぐんせきちやう 鈴鹿郡関町 かぶとあざいちば 加太字市場	26361	7	34° 50' 12"	136° 20' 16"	20000612 ～ 20000926	1,300	(一) 国道25号 県単道路改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
市場遺跡	集落跡	鎌倉時代 室町時代 近世		溝 掘立柱建物・土坑・溝 土坑・石垣		山茶碗・瓦器 土師器・陶器・青磁・白磁 土師器・陶器		多量の土師器 皿が出土

三重県埋蔵文化財調査報告240

市場遺跡発掘調査報告

三重県鈴鹿郡関町加太字市場所在

2003.3

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行

印刷 共栄堂印刷株式会社